

ディレクトリ／ファイル検索・圧縮解凍ツール (DirectoryFileSearch)

マニュアル

Ver.3.03

KHFactory

内容

1	はじめに	5
2	機能概要	6
3	インストール・ライセンスについて	8
3.1	インストール・アンインストール	8
3.2	ライセンス	9
3.2.1	ライセンスについて	9
3.2.2	正規版について	9
3.2.3	試供品（試供モード）について	9
3.2.4	ライセンス認証方法	9
3.3	複数実行対応	10
3.4	バージョンアップ	10
4	使用方法	11
	基本的な使用方法を以下に記載する。細かい機能や設定については「5 画面説明」を参照。	11
4.1	通常検索	11
4.2	簡易検索	13
4.3	指定ファイルの検索	14
4.4	検索の高速化	15
4.5	一覧ファイル生成	16
4.6	ファイル統合	18
4.7	文字列変換	19
4.8	検索結果からの実行・表示	21
4.9	圧縮・解凍モード（v3.00以降）	22
4.9.1	圧縮・解凍モードからの検索	23
4.9.2	圧縮・解凍モードからの圧縮・解凍	24
4.10	圧縮・解凍 DLL の追加（v3.00以降）	25
4.11	圧縮・解凍の実行契機（v3.00以降）	27
4.11.1	圧縮・解凍モードでの圧縮・解凍	27
4.11.2	検索モードでの圧縮・解凍	28

4.11.3	アイコンへのファイルドロップ	29
4.11.4	コマンドラインからの実行	30
4.11.5	関連付けされた圧縮ファイルの実行	32
5	画面説明	33
5.1	検索モード画面	33
5.1.1	検索結果のコンテキストメニュー	37
5.1.2	検索文字列・検索文字列枠内のコンテキストメニュー	40
5.1.3	履歴画面	42
5.1.3.1	履歴欄のコンテキストメニュー	44
5.2	圧縮・解凍モード画面 (v3.00 以降)	46
5.2.1	圧縮・解凍モードのコンテキストメニュー	49
5.3	設定画面	52
5.3.1	検索対象タブ	52
5.3.1.1	ファイル統合画面	57
5.3.1.2	指定ファイル名の詳細設定画面	61
5.3.1.3	検索対象タブのコンテキストメニュー (V2.27~)	63
5.3.1.4	ファイル一覧生成画面 (v3.00 以降)	64
5.3.2	検索除外タブ	66
5.3.3	検索文字列変換タブ	69
5.3.4	文字コードタブ	74
5.3.5	検索モード設定タブ (旧表示タブ)	76
5.3.6	圧縮・解凍タブ	80
5.3.7	圧縮・解凍モード設定タブ	89
5.3.8	バージョンタブ	94
5.3.8.1	バージョン画面	96
6	注釈説明	98
6.1	(注1) パスについて	98
6.2	(注2) 統合ファイルのグループについて	98
6.3	(注3) 文字コードについて	98
6.4	(注4) 実行・表示の Windows 任せについて	98

7	あとがき	100
7.1	バグを発見した場合	100
7.2	ご意見・ご要望	100
7.3	各種 URL.....	100
8	更新履歴	101

1 はじめに

このツールは、ファイル名やディレクトリ名の検索を行う際、複数のディレクトリ、一覧化されたファイルや各ディレクトリにある一覧ファイルの内容も含め、一括検索するツールです。v3.00以降は圧縮・解凍機能と簡易エクスプローラー機能を追加し、圧縮ファイル内のファイル検索が可能となります。

一覧ファイルの作成、ファイルの統合なども簡単に行えます。

指定したディレクトリとファイルのみを検索するため、検索時間の短縮に役立ちます。また、ディレクトリの情報をファイル化することにより、検索速度の高速化も行えます。

検索のヒット率を上げる工夫をたくさん盛り込んでおります。

使いこなしていただければ幸いです。

2 機能概要

このツールには以下の機能があります。

【検索対象】

- 検索するディレクトリの指定 (「4.1 通常検索」を参照)
 - ・ ディレクトリ名での検索
 - ・ ファイル名での検索
 - ・ ディレクトリ内の一覧ファイル内の検索 (「4.3 指定ファイルの検索」を参照)
 - ・ ディレクトリの情報を事前に収集することで高速化 (「4.4 検索の高速化」を参照)
 - ・ 簡易指定検索 (「4.2 簡易検索」を参照)
 - ・ 圧縮ファイル内の検索 (v3.00 以降)
- 検索するファイルの指定 (「4.1 通常検索」を参照)
 - ・ ファイル内の検索
- 一覧ファイルの生成 (「4.5 一覧ファイル生成」を参照)
- ファイルの統合 (「4.6 ファイル統合」を参照)
- 特定のファイル・ディレクトリの除外 (v3.00 以降)

【検索キー】

(「4.7 文字列変換」を参照)

- 検索キーの自動変換
- 大文字・小文字、半角・全角の区別
- 文字列の完全一致・複数条件
- どれかあれば一致の OR 条件 (v3.00 以降)
- 複数条件時、条件を分けない囲み文字 (v3.00 以降)
- 検索除外文字列指定

【検索ヒット時の動作】

(「4.8 検索結果からの実行・表示」を参照)

- 検索結果からの実行、削除、対象ディレクトリ、親ディレクトリの表示
 - ・ ドライブ変更に対する自動追跡
- 検索結果のファイル名や親ディレクトリなどの文字列のコピー
- 検索結果のファイル出力
- 履歴の収集 (「5.1.3 履歴画面」を参照)
 - ・ ファイル出力
 - ・ 検索画面と同等の実行、削除、表示
 - ・ 検索の再実行
- 圧縮・解凍 (v3.00 以降)

【圧縮・解凍】 (v3.00 以降)

(「4.9 圧縮・解凍モード (v3.00 以降)」を参照)

- ZIP、CAB ファイルの圧縮・解凍 (標準)
- RAR ファイルの解凍 (標準 ※UnRAR.dll が必要)
- 統合アーカイバー形式の DLL の使用 (「4.10 圧縮・解凍 DLL の追加 (v3.00 以降)」を参照)

- 圧縮・解凍は複数の方法で実施可能（「4.11 圧縮・解凍の実行契機（v3.00 以降）」を参照）
 - ・ 圧縮・解凍モードから、ファイルを選択して実行
 - ・ 検索モードから、検索結果を選択しての実行
 - ・ ツールアイコンへのドラッグ&ドロップ
 - ・ このツールに関連付けされたファイルの実行
 - ・ コマンドラインによる実行
- 関連付けの設定・解除

【簡易エクスプローラー機能（圧縮・解凍モード）】（v3.00 以降）

- ファイル・ディレクトリ・圧縮ファイル内の表示
- カット&ペースト、ドラッグ&ドロップ、元に戻すなどのエクスプローラーの基本機能
- ファイルの圧縮・解凍
- ISO、VHD ファイルのマウント
- CD トレイのオープン・クローズ
- ドライブのフォーマット
- リムーバルメディアの取り外し

【起動】

- 複数同時起動（「3.3 複数実行対応」を参照）
 - ・ 同名の二重起動は禁止
 - ・ 別ファイル名による起動は複数可能

3 インストール・ライセンスについて

3.1 インストール・アンインストール

インストーラーはありません。

「DirectoryFileSearch_バージョン.zip」を任意のディレクトリに展開し、ツールの起動は「DirectoryFileSearch.exe」を実行してください。

なお、このツールで使用されるファイルは以下の通りです。

表 1 ファイル一覧

種類	ファイル名	説明
付属	DirectoryFileSearch.exe	実行ファイル
生成	DirectoryFileSearch.conf	設定ファイル（設定画面で保存すると更新） ※無くても動作可能（保存すると生成）
生成	DirectoryFileSearch.conf_old	設定ファイルのバックアップ（v3.02以降） ※設定ファイルが正しく読み込めない場合に使用
付属	DirectoryFileSearch.conf_sample	設定ファイルのサンプル ※一度このファイルで起動することをお勧めします
付属	簡易マニュアル.txt	簡略版のマニュアル
付属	ディレクトリ・ファイル検索ツールマニュアル.pdf	正規マニュアル（本書・PDF版）
生成	DirectoryFileSearch_dir_info.txt	ディレクトリ情報ファイル ※高速化で生成
生成	DirectoryFileSearch.key	認証ファイル ライセンスキーを認証すると生成 ※実行ファイルと同じディレクトリに置くこと
生成	DirectoryFileSearch_integration.conf	ファイル統合の設定ファイル
生成	ツールの実行パス/temp/XXX	・生成途中のファイル ※完了するとファイルを置き換え ・圧縮ファイル内のファイルを実行する場合の解凍先、実行で使用する ※実行が終了すると削除する。ただし、実行中にツールを終了した場合や、実行の際に作成されたファイルは削除されないため、定期的に削除すること
生成	XXX.YYY_old	旧ファイル（1つ前のファイルをバックアップ） ディレクトリ情報ファイル、ログファイルで生成
ダウンロード	DirectoryFileSearch_バージョン.zip	バージョン画面から最新版をダウンロード

3.2 ライセンス

3.2.1 ライセンスについて

正規版は使用者 1 名に対して 1 ライセンスです。

1 名であれば、複数の PC で使用しても問題ありません。

企業など複数の方が使用する場合、ライセンス契約のお問い合わせをお願いいたします。

なお、正規版のバージョンアップは無料で行えるように作成されております。

試供品（試供モード）でのご利用については特に制限はありません。

3.2.2 正規版について

正規品としてご購入頂いた場合でも、ライセンス認証を行うまでは試供モードで起動します。

ライセンス認証を行うと全機能が解放されます。（「3.2.4 ライセンス認証方法」参照）

3.2.3 試供品（試供モード）について

試供モードは、機能や使い勝手をご評価いただくための物です。

機能の制限はありませんが、実行回数や試用期限の制限があり、PC 間では設定データの引継ぎ（ライセンス認証で引継ぎ可能となる）が出来ません。

ご購入の検討にご利用ください。

正規版のバージョンアップに合わせて試供品もバージョンアップしております。（v2.28 からバージョン画面から最新版のダウンロードが可能となりました）

バージョンが異なる場合、設定ファイルは引き継げませんが、制限がリセットされます。再度ご試供ください。

また、不正使用を検知するように作成しております。不正使用を行った場合、法的措置を取らせていただくことがありますので、ご了承ください。

3.2.4 ライセンス認証方法

ご購入頂くと、ライセンスキーの通知か認証ファイルが送られてきます。

【ライセンスキーの場合】

設定画面のバージョンタブからバージョン画面を開き、ライセンスキーを入力してください。認証ファイルが生成され、正規版として動作するようになります。

【認証ファイルの場合】

実行ファイルと同じパスに置くことで、正規版として動作することができます。

3.3 複数実行対応

実行ファイル「DirectoryFileSearch.exe」をコピーし、ファイル名を変更することで複数の同時実行が可能となります。（同ファイル名での二重起動は禁止で、起動済みがアクティブとなる）

設定を引き継ぎたい場合は、設定ファイルをコピーし、ファイル名（.confの前の部分）を変更した実行ファイル名に合わせてください。

設定ファイルが無い場合でも起動可能です。設定を保存した時に生成されます。

なお、正規版で他ディレクトリに実行ファイルをコピーした場合、認証ファイル「DirectoryFileSearch.key」（ファイル名は固定の為、変更しない）もコピーしてください。

3.4 バージョンアップ

バージョン画面から最新バージョンのファイルをダウンロードすることができます。

ダウンロードすると、実行パスに「DirectoryFileSearch_バージョン.zip」として保存されます。

これを展開し、実行ファイルを置き換えることで最新版へのバージョンアップとなります。

なお、最新のバージョン番号は、バージョン画面の「最新バージョン番号」ボタンを押すと取得できます。

※インターネット環境が必要

4 使用方法

基本的な使用方法を以下に記載する。細かい機能や設定については「5 画面説明」を参照。

4.1 通常検索

検索に不要なディレクトリを極力排除し、各所に散らばった一覧ファイルなどを一括して検索することで、検索時間の短縮と手間の排除を目的とした検索。

HDD 内のディレクトリやファイルの検索(ディレクトリ指定)と一覧ファイルなどの内容(ファイル指定)を一括して検索することができる。

また、ファイル指定とは別にディレクトリ指定検索中に対応するファイルがあると、そのファイルの内容も検索することができる。(詳細は「4.3 指定ファイルの検索」を参照)

なお、ディレクトリやファイルの指定数は無制限の為、細かい指定が可能。

簡単な手順を以下に記載する。

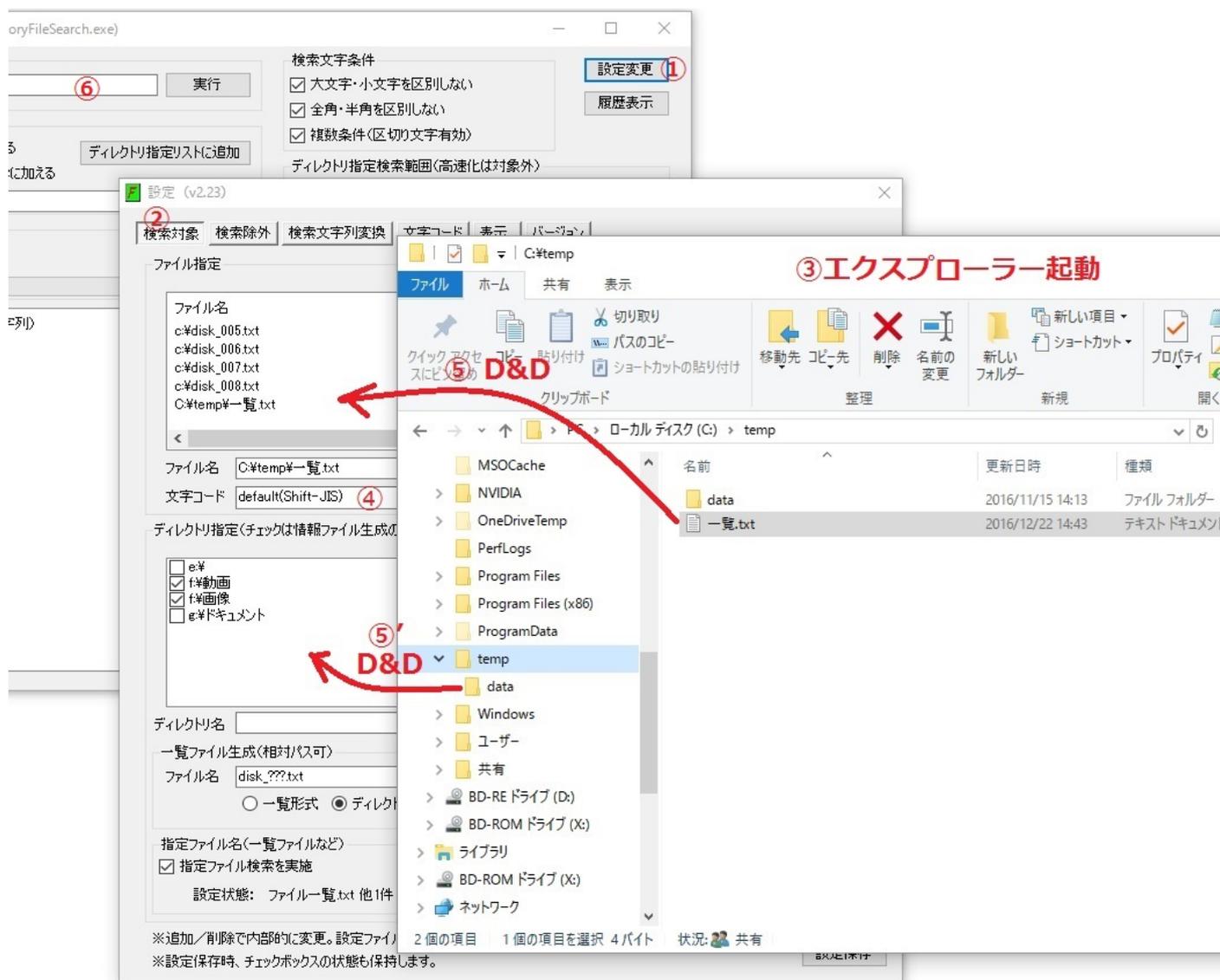


図 1 通常検索手順

- ① 検索画面の「設定」ボタンを押下し、設定画面を表示する。
- ② 設定画面の「検索対象」タブを選択する。(初期表示)
- ③ エクスプローラー等を起動する。※手入力や参照を使用しても良い
- ④ ファイルを追加する場合、追加ファイルに合わせ文字コードを選択する。
- ⑤ ドラッグ&ドロップでファイル指定欄にファイル、ディレクトリ指定欄にディレクトリを追加する。
- ⑥ 検索画面の検索文字列に検索したい文字列を入力し、**RET** キーもしくは「実行」ボタンで検索を実行する。

※ディレクトリ指定でのチェックボックスは一覧ファイルの生成に使用し、検索時には全てが対象

※ディレクトリやファイルは存在しないものでも登録可能。検索時にはスキップ

4.2 簡易検索

設定を行わなくても検索画面で対象ディレクトリを指定し、検索することができる。
スポット的な検索を目的としている。

簡単な手順を以下に記載する。

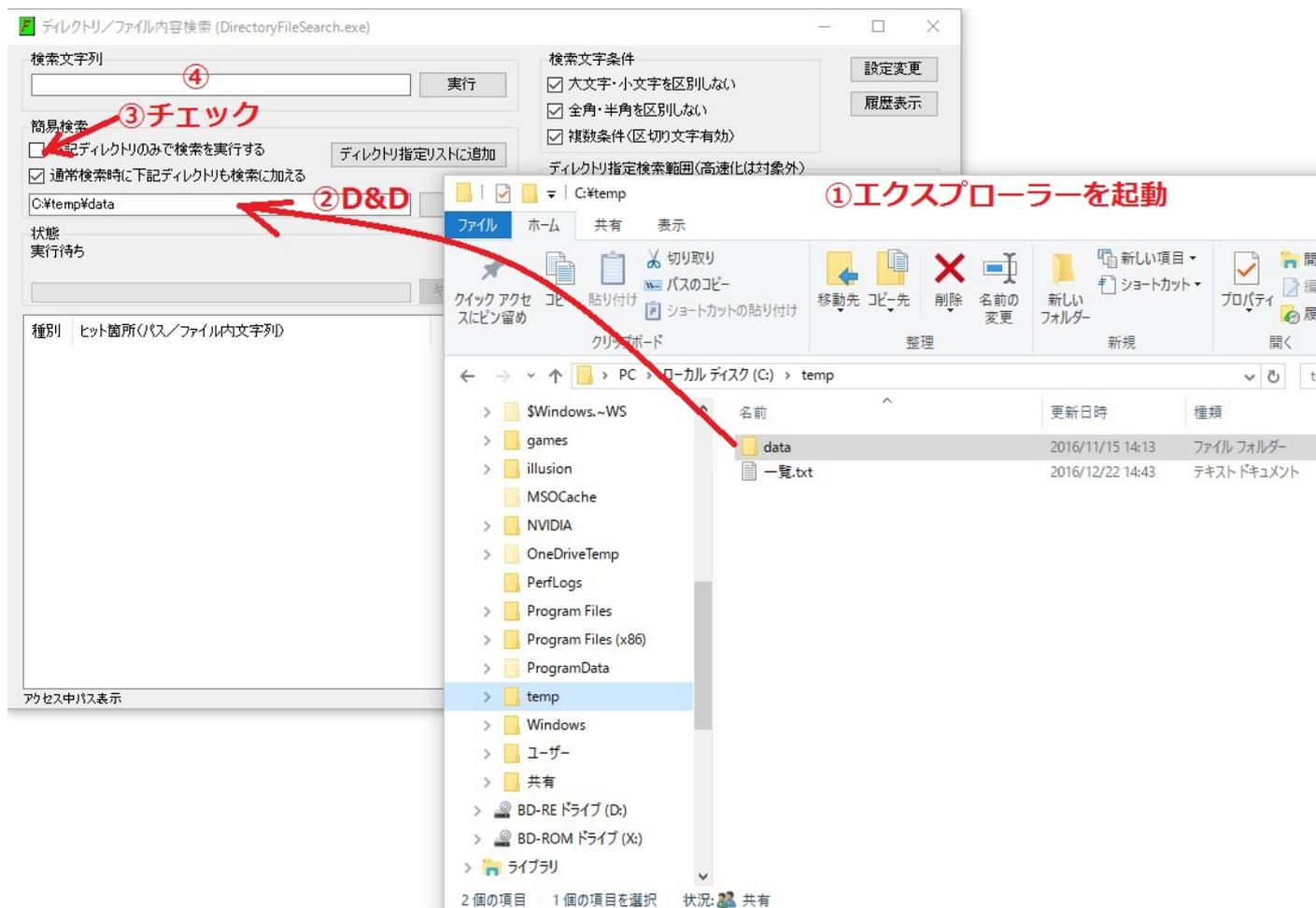


図 2 簡易検索手順

- ① エクスプローラー等を起動する。※手入力や参照を使用しても良い
- ② ドラッグ&ドロップでディレクトリを追加する。
※「通常検索時に下記ディレクトリも検索に加える」が自動的にチェックされる。
- ③ 「下記ディレクトリのみで検索を実行する」にチェックを入れる。
- ④ 検索画面の検索文字列に検索したい文字列を入力し、RET キーもしくは「実行」ボタンで検索を実行する。

※指定ファイルの検索も動作対象となる（詳細は「4.3 指定ファイルの検索」を参照）

4.3 指定ファイルの検索

圧縮ファイルなど 1 ファイルで複数のファイルが存在する場合、圧縮ファイル内のファイル名は検索でヒットしない。そのため、圧縮ファイル内のファイルを一覧ファイルしておく場合がある。

それらの一覧ファイルをファイル指定で登録するのは面倒なので、ディレクトリ指定検索時に指定したファイル名であれば、その内容も含めて検索出来るようにすることを目的としている。

簡単な手順を以下に記載する。

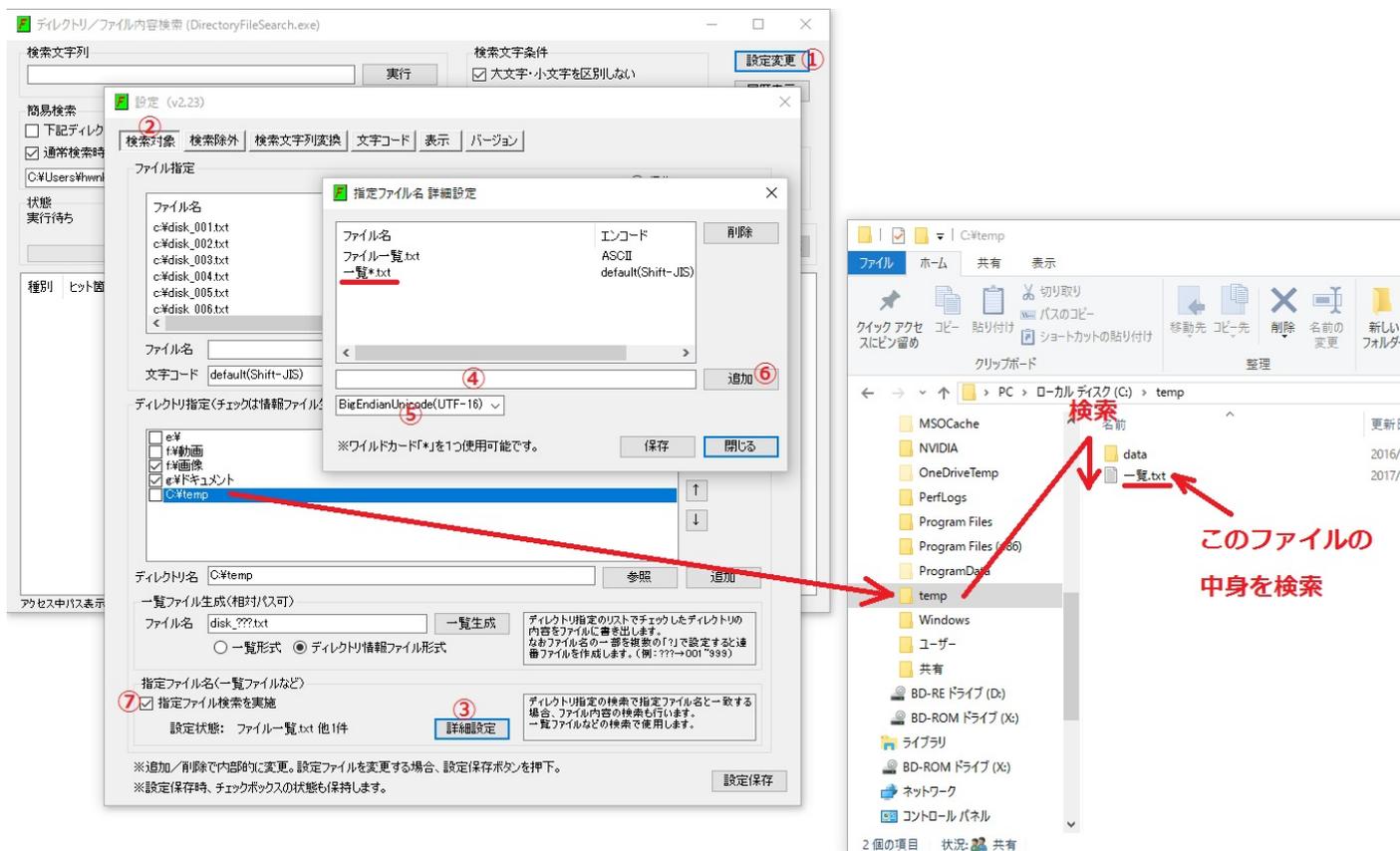


図 3 指定ファイル検索手順

- ① 検索画面の「設定」ボタンを押下し、設定画面を表示する。
- ② 設定画面の「検索対象」タブを選択する。(初期表示)
- ③ 指定ファイル名の「詳細設定」ボタンを押下する。
- ④ ファイル名を入力する。
※「一覧*.txt」と入力すると「一覧」と「.txt」が一致するファイルを指定したこととなる。
- ⑤ ファイルに合わせ文字コードを選択する。
※ファイル名に文字コードに相当する文字を入力しておくとうわかりやすい。
例：XXX 一覧(Win).txt で Shift-JIS、XXX 一覧(Linux).txt で UTF-8 など
- ⑥ 詳細設定画面の「追加」ボタンを押下する。
- ⑦ 「指定ファイル検索を実施」にチェックを入れる。

4.4 検索の高速化

ディレクトリ指定の検索対象の情報を事前にファイル化し、検索時にそのファイル（ディレクトリ情報ファイル）を参照することでディスクアクセスにかかる時間を短縮することができる。

ただし、自動更新しないため、検索画面の再生成ボタンで更新する必要がある。

なお、初回生成時は生成が完了するまで検索を実行できないが、2回目以降ではファイル生成中は「.temp」、完了すると「.txt」に変更されるため、再生成中でも検索を実行することができる。また、1つ古いファイルは「.old」としてバックアップする。

検索を高速化する手順を以下に記載する。

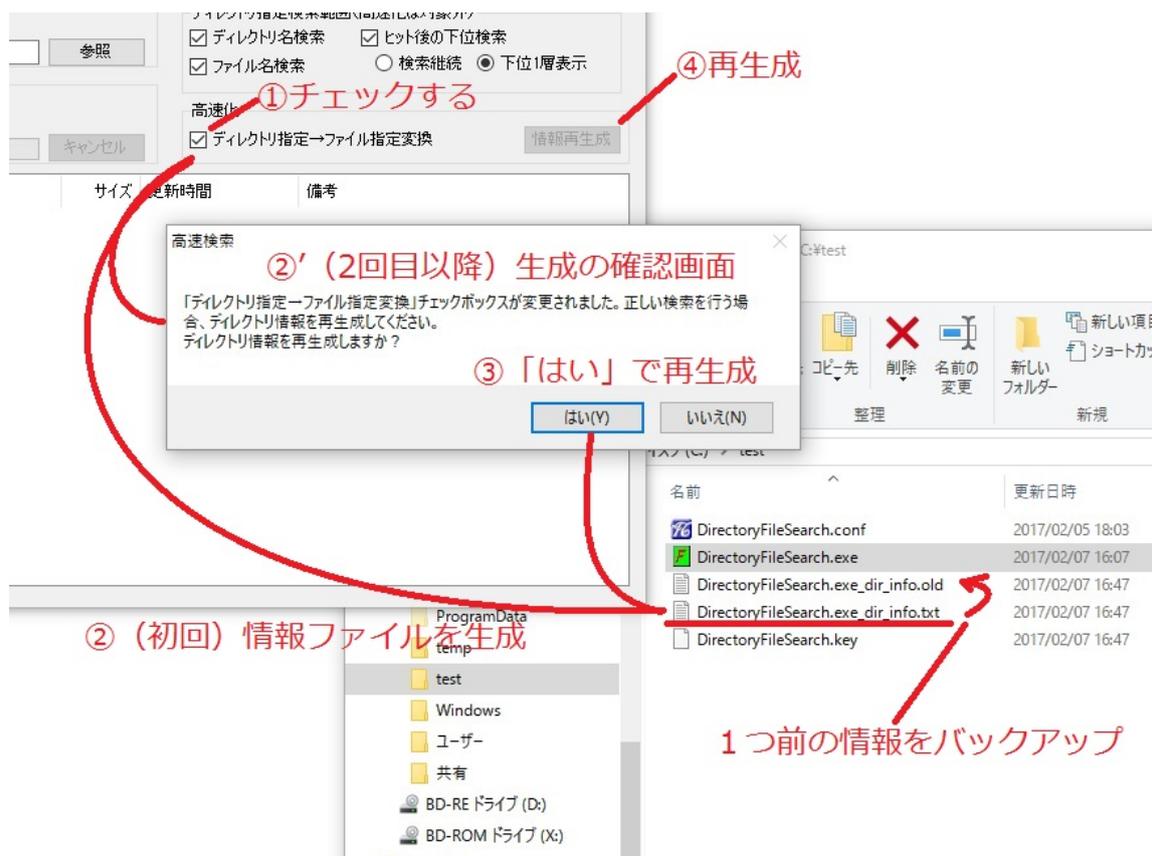


図 4 高速化手順

- ① 検索画面の「ディレクトリ指定→ファイル指定変換」チェックボックスをチェックする。
- ② 初回（ディレクトリ情報ファイルが無い）の場合、ディレクトリ情報ファイルが生成される。
2回目以降の場合、ディレクトリ情報ファイルを再生成するか確認する画面が表示される。
- ③ 確認画面で「はい」を押下すると、ディレクトリ情報ファイルが再生成され、1つ前のファイルがバックアップ（.old）される。

【ディレクトリの内容が更新された場合は手動で更新】

- ④ 検索画面の「情報再生成」ボタンでディレクトリ情報ファイルが再生成され、1つ前のファイルがバックアップ（.old）される。

4.5 一覧ファイル生成

ドライブやディレクトリの情報（ディレクトリやファイル名）を一覧ファイル化することを目的としている。

一覧ファイルの簡単な生成方法を以下に記載する。

v3.00以降は、「ファイル一覧生成画面」経由で実施する方式に変更。内容は変わらない。

「ファイル一覧生成画面」は、メイン画面もしくは設定画面の「検索対象」タブの「一覧生成」ボタンで表示される。

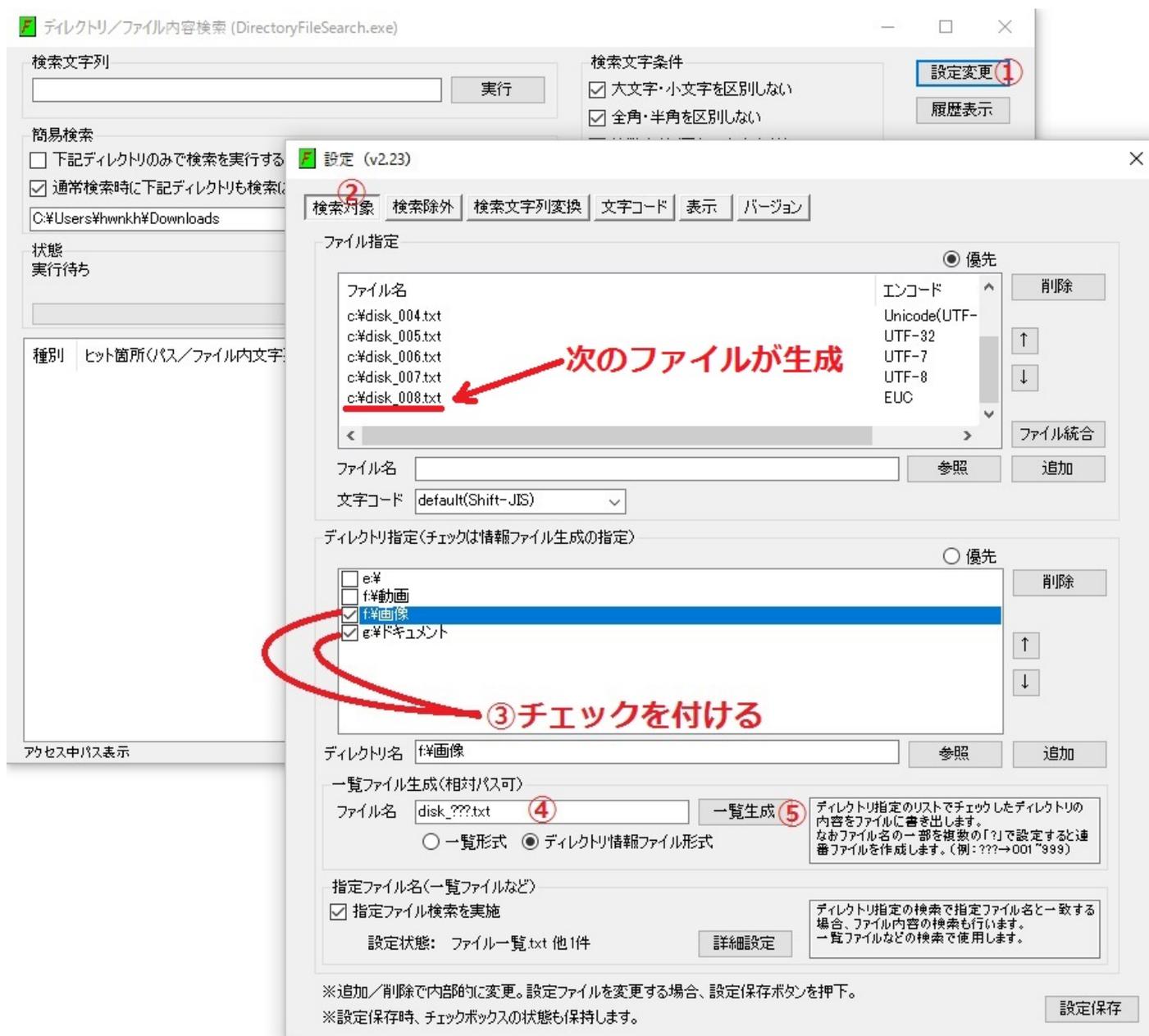


図 5 一覧ファイル生成手順

- ① 検索画面の「設定」ボタンを押下し、設定画面を表示する。
- ② 設定画面の「検索対象」タブを選択する。（初期表示）

- ③ ディレクトリ指定のリストで、生成したいディレクトリをチェックする。
 - ※複数選択可能。ただし、出力は1ファイルにまとめられ、リスト上位の情報から記載される。
 - ※現状存在しない場合はスキップ
- ④ 一覧ファイルのファイル名を入力する。
 - ※「??」と入力した部分は、連番となり、上図では「008」まで存在するので「disk_009.txt」で生成される。
- ⑤ 「一覧生成」ボタンを押下する。
 - ※生成されたファイルはファイル指定に登録するダイアログが出るため、必要に応じて登録する。

※出力先はファイル名の指定のみだと実行パスとなるが、フルパスでの指定も可能

※一覧形式場合にはパス情報のみ。ディレクトリ情報ファイル形式（推奨）にすると、サイズや更新日時などの情報も付加され、そのファイルから検索ヒット時は結果欄に表示される。

4.6 ファイル統合

ファイルを統合する簡単な手順を以下に記載する。

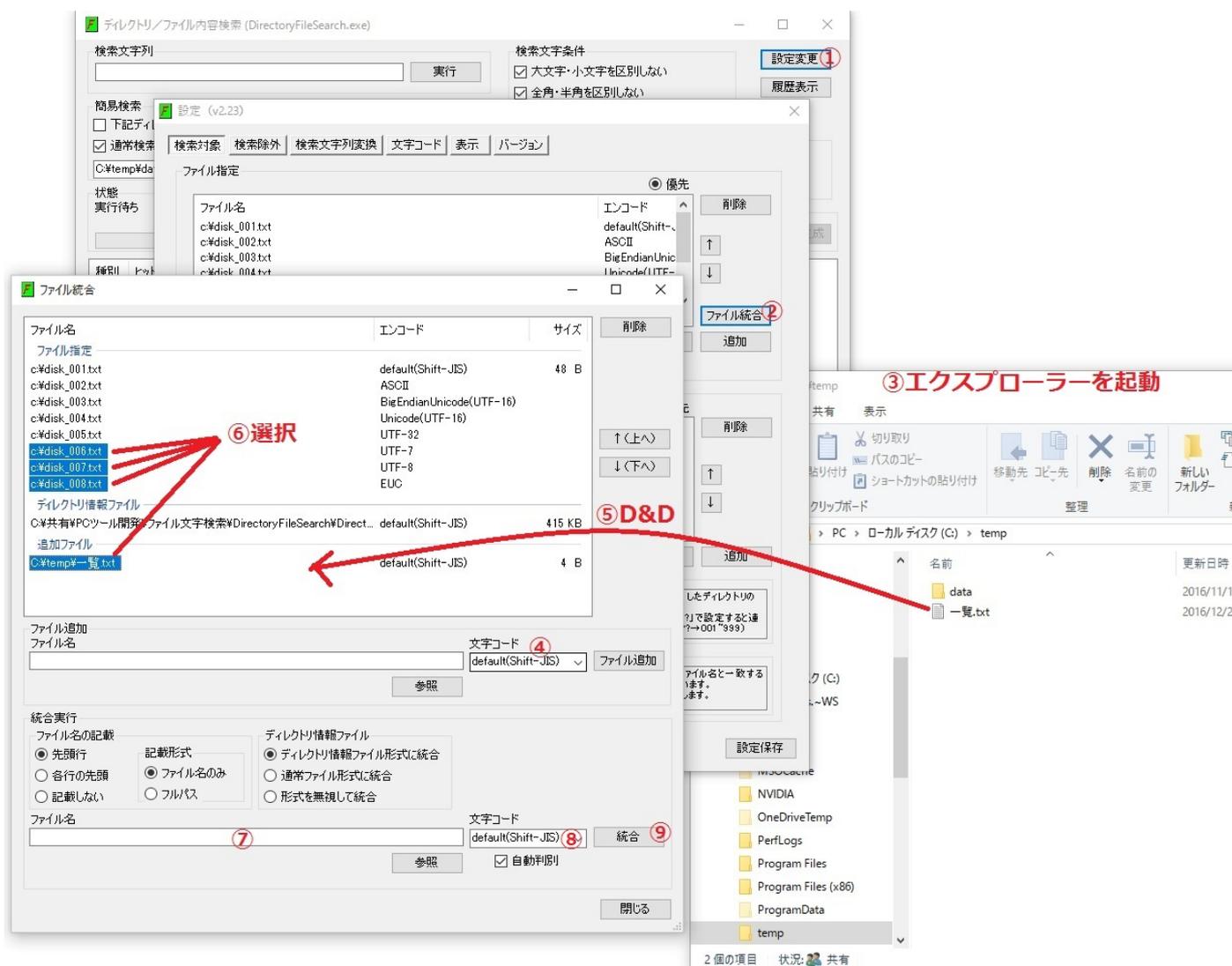


図 6 ファイル統合手順

- ① 検索画面の「設定」ボタンを押下し、設定画面を表示する。
- ② 設定画面の「検索対象」タブの「ファイル統合」ボタンを押下し、ファイル統合画面を表示する。
- ③ エクスプローラー等を起動する。※手入力や参照を使用しても良い
- ④ ファイルを追加する場合、追加ファイルに合わせ文字コードを選択する。
- ⑤ ドラッグ&ドロップで統合したいファイルを追加する。(追加されたファイルは選択状態)
- ⑥ 統合するファイルを選択する。
- ⑦ 統合ファイルのファイル名を入力する。(D&D 可能)
- ⑧ 統合ファイルの文字コードを選択する。※多いエンコードに自動で合わせることも可能
- ⑨ 「統合」ボタンを押下する。

※ファイル指定のファイルを統合した場合、リストの置き換えが可能

※1 ファイルでも実行可能なため、文字コードの変換にも使用可能

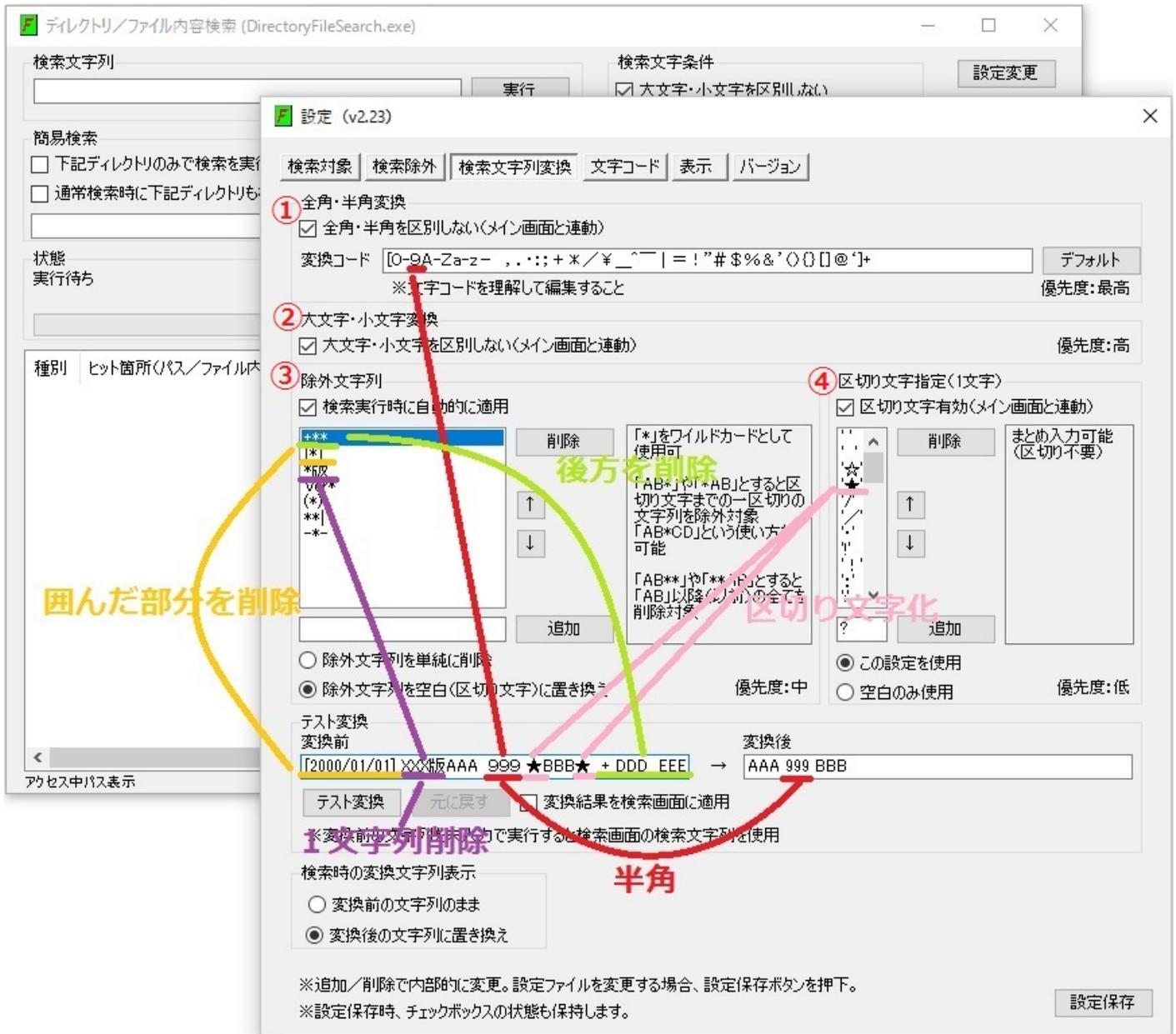
4.7 文字列変換

コピーで検索文字列を入力する際、不要となる文字列を自動で削除し、検索のヒット率を上げることを目的としている。

例えば、曖昧な文字「～」（全角）と「~」（半角）や「★」と「☆」などの違いでヒットしない場合、区切り文字指定に加えると、スペースと同様の扱いとなる。

また、α版とβ版など1単語や[YYYY/MM/DD]で日時の記載など、異なる同一目的のファイルを検索する際に自動で削除することができる。

なお、設定画面の検索文字列変換タブで設定および動作テストをすることができる。



① 全角・半角変換

全角と半角の変換を行い、検索文字列と検索対象が全角と半角で異なってもヒットするようになる。設定は、変換したい全角の記載を記載する。上図は「0～9、A～Z・・・」の設定。

例（赤）：【設定】「0-9」 【入力】「9 9 9」（全角）→【出力】「999」（半角）

※VBの機能を使用しており、文字コードを理解していないと設定は困難

② 大文字・小文字変換

半角の文字の大文字と小文字が異なってもヒットするようになる。

例：「A」と「a」で一致とするかどうか。

③ 除外文字列

固定文字列、「*」+文字列で指定した文字列を検索文字列から除外する。

「*」は位置と数で意味が異なり、以下のように対応する。

表 2 除外文字列の指定方法

「*」の位置		図の例	動作
前方1つ	*文字列	*版	前方1文字列を削除
中心1つ	文字列*文字列	[*]、(*)、-*-	囲われた1文字列を削除
後方1つ	文字列*	Ver*	後方1文字列を削除
前方2つ	**文字列	**	前方すべてを削除
後方2つ	文字列**	+**	後方すべてを削除

例1（緑）：【設定】「+**」 【入力】「+ DDD EEE」 → 【出力】削除

例2（橙）：【設定】「[*]」 【入力】「[2000/01/01]」 → 【出力】削除

例3（紫）：【設定】「*版」 【入力】「XXX 版」 → 【出力】削除

④ 区切り文字

検索文字列の区切りは通常スペースで、検索文字列を「AAA BBB」とすると順序を問わず「AAA」と「BBB」を含むものが検索される。

この設定に「☆」追加すると、検索文字列を「AAA☆BBB」は「AAA BBB」と同義となる。

また、単純に1文字を削除したい時に設定しても良い。

例1（ピンク）：【設定】「★」 【入力】「★BBB★」 → 【出力】「BBB」

例2：【設定】「★」 【入力】「AAA★BBB★CCC」 → 【出力】「AAA BBB CCC」

（順序を問わず3つの文字列で検索）

※同じ文字を複数の設定に入力した場合は優先順位に従って処理されるので注意すること

4.9 圧縮・解凍モード (v3.00 以降)

圧縮・解凍モードは、メイン画面の「モード変更」ボタンやコンテキストメニューからモード移行する。ファイルのカット&ペーストやドラッグ&ドロップ、圧縮・解凍、プロパティ表示、ドライブのフォーマットなど Windows のエクスプローラーの基本的を有する。

圧縮ファイルとして使用できる形式は、統合アーカイバ形式の DLL 設定を追加することで、増やすことができる。「4.10 圧縮・解凍 DLL の追加 (v3.00 以降)」参照

表示箇所は、検索文字列で指定することも可能で、パスを入力し、実行を押下すると表示箇所が変更される。なお、圧縮ファイル内のファイルを指定する場合は圧縮ファイルのパスの後に「¥」とファイル名を付けることで可能となる。

検索モードの検索対象として指定することも可能で、ファイルやディレクトリを選択後に検索文字列を設定し、実行を押下すると、検索モードに移行する。

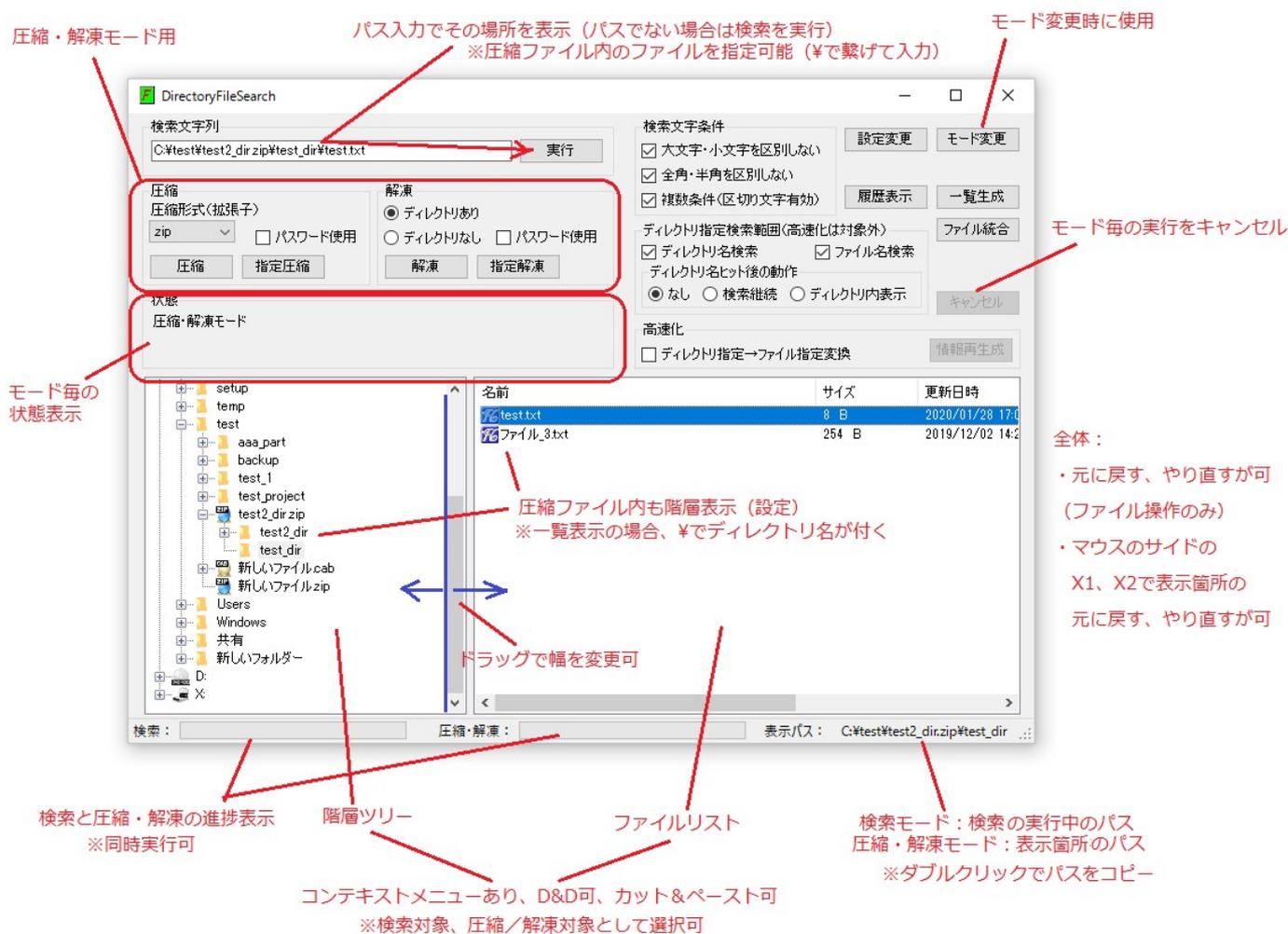


図 9 圧縮・解凍モードの概要

4.9.1 圧縮・解凍モードからの検索

階層ツリーやファイルリストでファイルやディレクトリを選択して、検索対象を指定することができる。ファイルを選択した場合は、ファイル内容の検索、その他はファイル・ディレクトリ名の検索となる。なお、圧縮ファイル内のファイルについても、検索対象とすることができ、テンポラリーに一旦解凍されて検索される。

また、検索モード時の検索対象を含めることも設定も可能。

以下に圧縮ファイル内のファイル（ファイル内容検索）とディレクトリ（ファイル名検索）を検索する手順を示す。

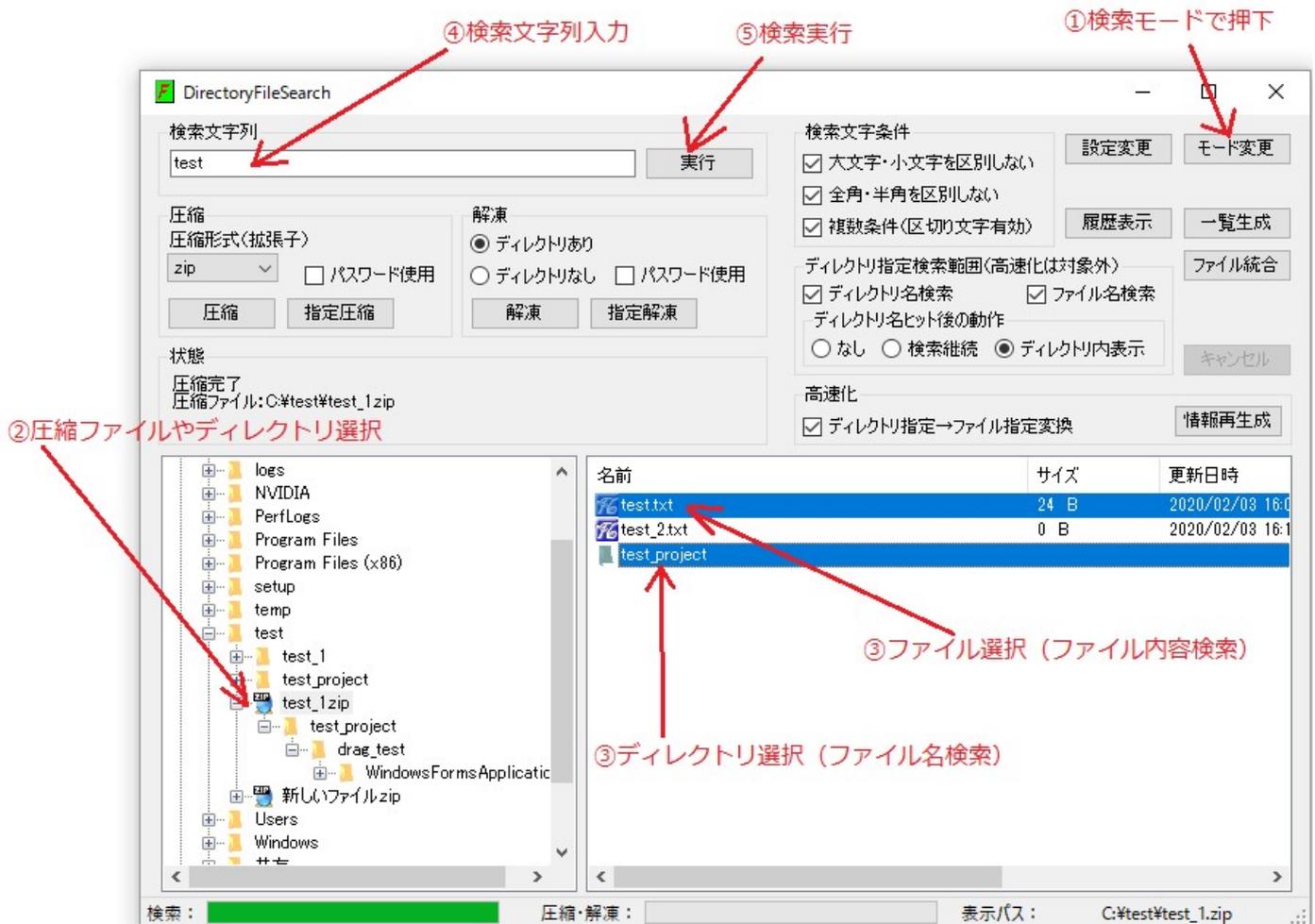


図 10 圧縮・解凍モードからの検索

- ① 検索モードのメイン画面で「モード変更」ボタンを押下。もしくは、検索結果欄のコンテキストメニューから「圧縮・解凍モードへ」を押下。
- ② 階層ツリーで圧縮ファイルを選択。
- ③ ファイルリストから検索するファイルやディレクトリを選択。
- ④ 検索文字列欄を検索する文字列を入力。
- ⑤ 「実行」ボタンを押下。→検索モードに移行し結果を表示。

4.9.2 圧縮・解凍モードからの圧縮・解凍

階層ツリーやファイルリストでファイルやディレクトリを選択して、圧縮・解凍を実施することができる。

解凍は圧縮ファイル内の必要なファイルのみ指定して、実施することが可能。

以下に圧縮・解凍モードで、ファイルを指定して解凍する手順を記載する。(階層表示)

(その他の圧縮・解凍方法については、「4.11 圧縮・解凍の実行契機 (v3.00 以降)」を参照)

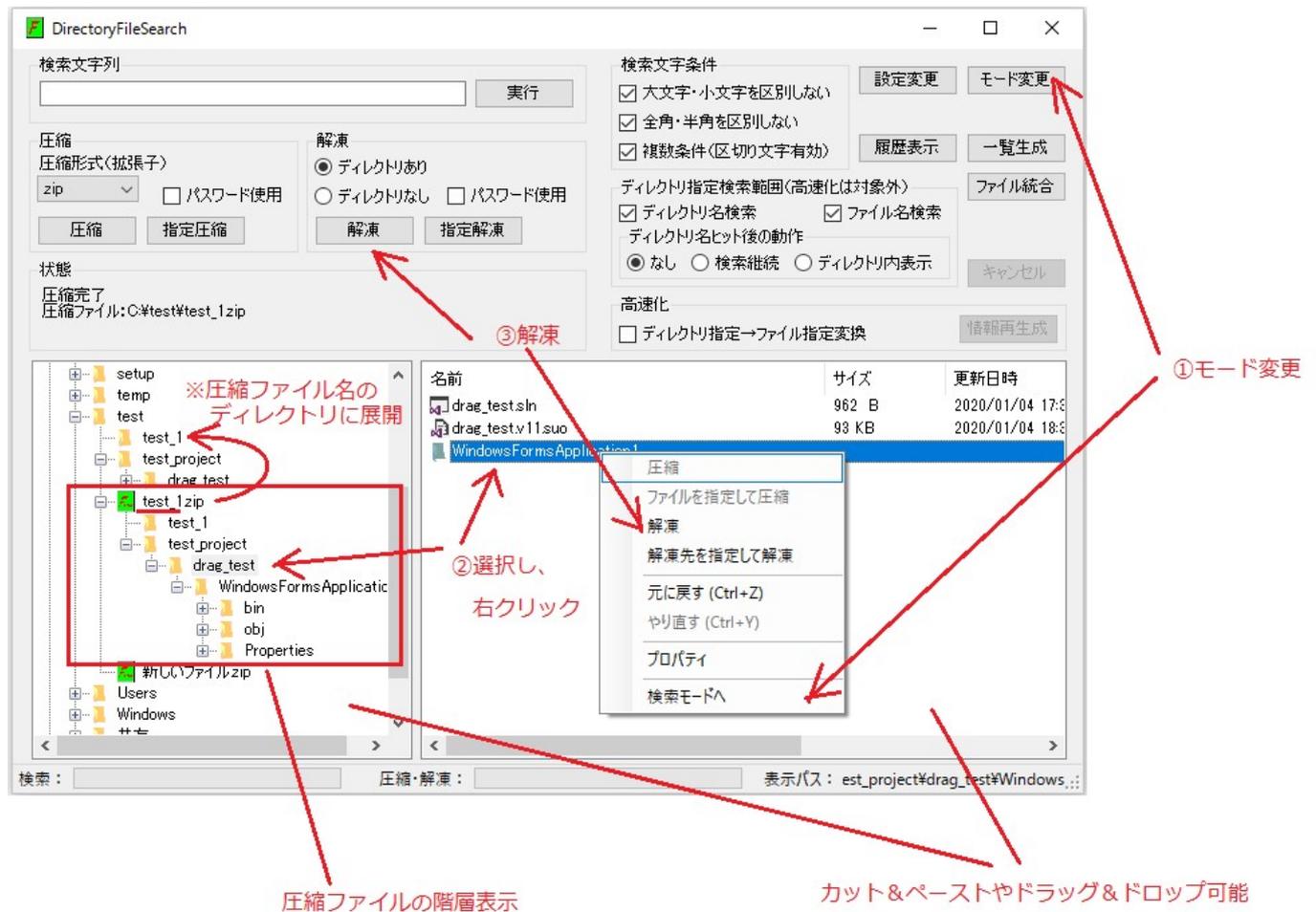


図 11 圧縮・解凍モードでの解凍手順

- ① 検索モードのメイン画面で「モード変更」ボタンを押下。もしくは、検索結果欄のコンテキストメニューから「圧縮・解凍モードへ」を押下。
- ② 解凍するファイルを選択を階層ツリーもしくはリストから選択し、右クリック。
- ③ コンテキストメニューの「解凍」、「指定解凍」を選択。

※解凍した場合、デフォルトでは圧縮ファイル名のディレクトリが生成され、そこに解凍される

4.10 圧縮・解凍 DLL の追加 (v3.00 以降)

標準で ZIP と CAB ファイルの圧縮・解凍、RAR ファイルの解凍 (UnRAR.dll がシステム内にある場合) を行うことができる。

また、統合アーカイバー形式の DLL を用いた圧縮・解凍も可能としているため、DLL さえ用意すれば、どのような形式の圧縮・解凍も可能となる。

サンプルとして、UNLHA32.DLL、7-zip32.DLL、tar32.DLL、UnIso32.DLL、UNRAR32.DLL、CAB32.DLL の設定が行える。

すでにシステム内に DLL が存在している場合は設定のみで使用可能となる。

以下に簡単な DLL の追加手順を記載する。

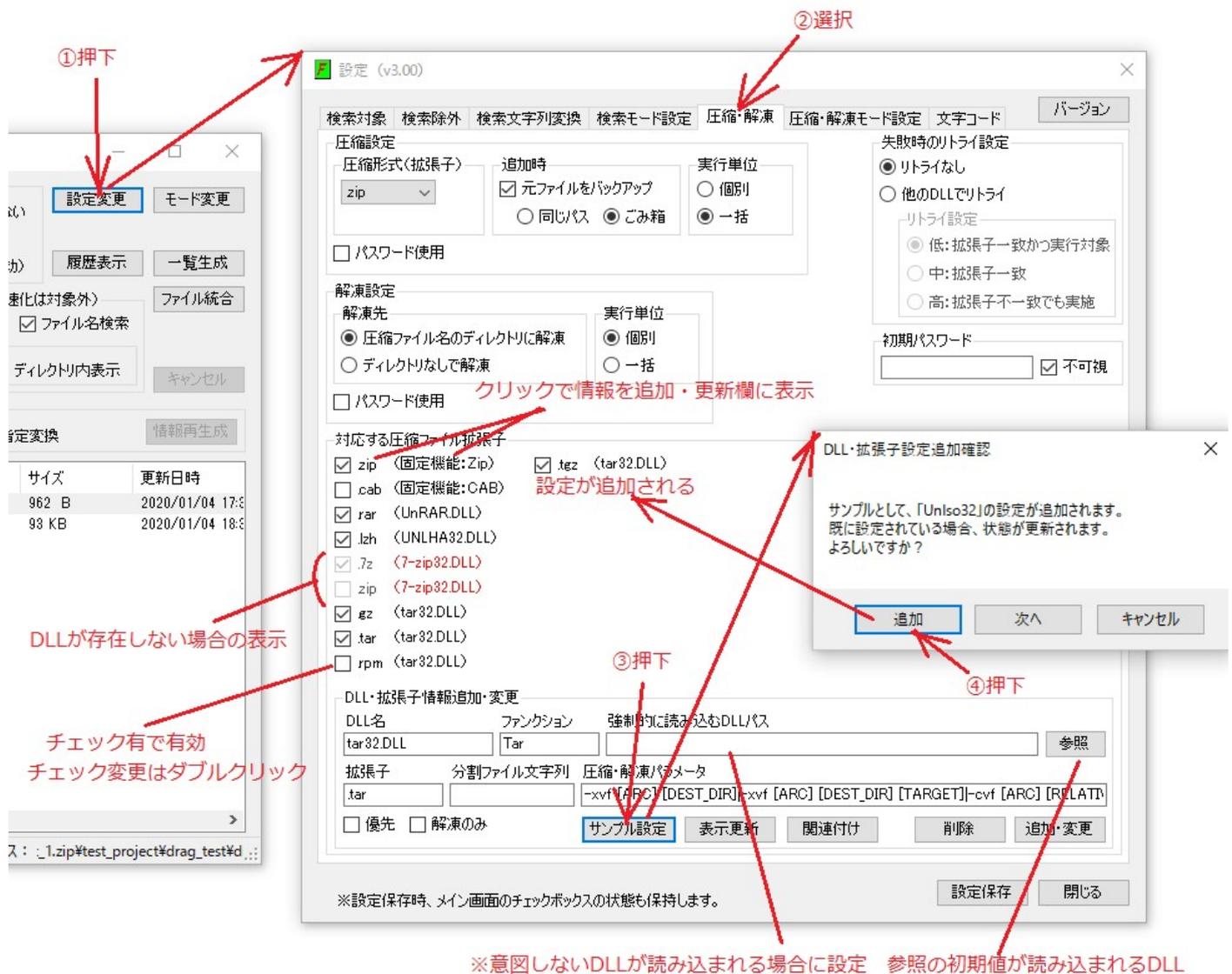


図 12 圧縮・解凍用 DLL の追加手順

- ① メイン画面の「設定変更」ボタンを押下。
- ② 設定画面の「圧縮・解凍」タブを選択。
- ③ 「DLL・拡張子情報追加・変更」欄の「サンプル設定」ボタンを押下。
- ④ DLL 毎にメッセージボックスが表示されるため、追加したい DLL で「追加」ボタンを押下

※サンプル設定以外の DLL の設定や手動での追加も可能。詳細は「5.3.6 圧縮・解凍タブ」を参照。

※サンプル設定は、DLL に対応する拡張子が複数ある場合は一部しか設定されないため、手動での追加が必要（特に tar32.DLL は一部しか追加していない）

※DLL の利用については、一切関知しない。自己責任で行うこと

4.11 圧縮・解凍の実行契機 (v3.00 以降)

圧縮・解凍の実行契機は以下の通り。

- ・ 圧縮・解凍モードでの圧縮・解凍
- ・ 検索モードでの圧縮・解凍
- ・ アイコンへのファイルドロップ
- ・ コマンドラインからの実行
- ・ 関連付けされた圧縮ファイルの実行

4.11.1 圧縮・解凍モードでの圧縮・解凍

ツリーやリストを選択して圧縮・解凍を実行することができる。

【手順】

- ① 圧縮・解凍モードに移行
- ② ツリーやリストから圧縮・解凍するファイルやディレクトリを選択する
- ③ 「圧縮」／「指定圧縮」、「解凍」／「指定解凍」ボタン押下、もしくは、コンテキストメニューの「圧縮」／「指定圧縮」、「解凍」／「指定解凍」を選択。

※詳細は、「4.9 圧縮・解凍モード (v3.00 以降)」参照

【複数実行について】

不可。

【圧縮先・解凍先】

「指定圧縮」、「指定解凍」を実行すると、ダイアログにて指定が可能。

4.11.2 検索モードでの圧縮・解凍

検索結果から圧縮・解凍を実行することができる。

【手順】

- ① 検索を実施
- ② 検索結果を選択し、コンテキストメニューの「ヒット箇所」もしくは「備考」のサブメニュー「圧縮」／「指定圧縮」、「解凍」／「指定解凍」を選択。

※ヒット箇所もしくは備考に記載されているパスが圧縮・解凍される

※コンテキストメニューは、「5.1.1 検索結果のコンテキストメニュー」参照

【複数実行について】

不可。

【圧縮先・解凍先】

「指定圧縮」、「指定解凍」を実行すると、ダイアログにて指定が可能。

4.11.3 アイコンへのファイルドロップ

ツールのアイコンへドラッグ&ドロップすることで圧縮・解凍を実行することができる。

なお、圧縮されていないファイルやディレクトリをドロップした場合はそれらをまとめて圧縮、圧縮ファイルをドロップした場合は解凍を行う。

なお、圧縮・解凍が終了時、新規実行の場合はツールも閉じる（設定による）。（v3.01以降）

【手順】

- ① 設定画面の「圧縮・解凍モード設定」タブの「関連付けやアイコンへのドロップで起動した場合」で「圧縮・解凍を即実行」をチェックする。
- ② ツールの本体、もしくは、ショートカットアイコンへファイルやディレクトリをドロップする

【複数実行について】

通常ファイル（圧縮）と圧縮ファイル（解凍）をまとめてドロップした場合、解凍を優先し、解凍完了後に圧縮を行う。

また、前回の圧縮・解凍が終了していない状態で、再度ドロップした場合は、実行待ちのキューに登録され、前回の未実施分も含め解凍を優先して実行される。

【圧縮先・解凍先】

圧縮先は、選択されたファイルやディレクトリの共通パスとなり、圧縮ファイル名は「先頭のファイル名（拡張子を除外）＋圧縮ファイル拡張子」となる。

解凍先は、解凍する圧縮ファイルが存在しているパスとなる。

4.11.4 コマンドラインからの実行

コマンドラインからツールを起動する時にファイルやディレクトリ名を追記することで圧縮・解凍を実行することができる。

なお、圧縮・解凍が終了時、新規実行の場合はツールも閉じる（設定による）。（v3.01以降）

【手順】

- ① 「コマンドプロンプト」や「ファイル名を指定して実行」を起動する
- ② ツールのパス+オプションを入力する

【オプション】

下表を参照。

表 3 コマンドラインのオプション

オプション	オプションへ付加するパス	動作	備考
なし	なし	ツール起動	
なし	[圧縮ファイルパス]...	解凍 or 表示（設定に依存）	パスは複数可
なし	[ファイル/ディレクトリパス]...	圧縮 or 表示（設定に依存）	パスは複数可
-x	[圧縮ファイルパス]...	解凍	パスは複数可、ワイルドカード可※1 ターゲットの直指定も可※2
-xs	[圧縮ファイルパス] (-xt) [解凍ターゲット]...	圧縮ファイル内のファイル/ディレクトリを指定して解凍	ターゲットは複数可、ワイルドカード可※1 -xt は省略可 (v3.01以降)
-xt	[解凍ターゲット]...	圧縮ファイル内のファイル / ディレクトリを指定	省略可 ターゲットは複数可、ワイルドカード可※1 (v3.01以降)
-xo	[解凍先パス]	解凍先の指定	複数の設定された場合は後優先 (v3.01以降)
-a	[ファイル/ディレクトリパス]...	圧縮	パスは複数可、
-ao	[圧縮ファイルパス]	生成する圧縮ファイルのパス、名、拡張子（設定と異なっても可）	複数の設定された場合は後優先 (v3.01以降)
-o	[出力パス]	解凍先もしくは圧縮ファイル。前後の-x、-a で-xo、-ao に自動置き換え	(v3.01以降)

-cd	[カレントディレクトリパス]	これ以降に指定するパスが相対パスの場合、カレントを指定	(v3.01以降)
-d	[ファイル・ディレクトリパス]	指定したパスを表示	複数の設定された場合は後優先

※1：ワイルドカードは「*」を1つのみ指定可能。複数の使用及び「?」は未サポート。(v3.01以降)

※2：ターゲットの直指定は「[圧縮ファイル]¥[ターゲット]」（「¥」で繋ぐ）とすれば可

【実行例】

① aaa.zip を解凍 (-x 指定なし)

```
C:¥xxx¥DirectoryFileSearch.exe aaa.zip
```

② bbb.txt と ccc.doc を圧縮 (-a 指定あり)

```
C:¥xxx¥DirectoryFileSearch.exe -a bbb.txt ccc.doc
```

③ aaa.zip を解凍し、bbb.txt と ccc.doc を圧縮し、表示は ddd

```
C:¥xxx¥DirectoryFileSearch.exe -x aaa.zip -a bbb.txt ccc.doc -d ddd
```

③ 生成する圧縮ファイル名 aaa.zip を指定して bbb.txt と ccc.doc を圧縮 (v3.01 以降)

```
C:¥xxx¥DirectoryFileSearch.exe -o aaa.zip -a bbb.txt ccc.doc
```

※-ao でも可。順序も変更可。-o、-ao を付けない場合は解凍として扱うので注意。

④ c:¥bbb¥ccc¥aaa.zip のテキストファイル (.txt) を全て c:¥bbb¥ddd に解凍

(実行ファイルのある場所で、カレントを指定して実行)

```
DirectoryFileSearch.exe -cd c:¥bbb -xs ccc¥aaa.zip -xt *.txt -xo ddd
```

※-xt は省略可。-xo は-x でも可。-cd を使わずにフルパス指定も可。

【複数実行について】

「4.11.3 アイコンへのファイルドロップ」と同様。

【圧縮先・解凍先】

「4.11.3 アイコンへのファイルドロップ」と同様。

4.11.5 関連付けされた圧縮ファイルの実行

関連付けされた圧縮ファイルをダブルクリックなどで実行した場合に、解凍することができる。
なお、圧縮・解凍が終了時、新規実行の場合はツールも閉じる（設定による）。（v3.01以降）

【手順】

- ① 関連付けを実施する。
詳細は、「5.3.6 圧縮・解凍タブ」 「㉓ 「DLL・拡張子情報追加・変更」 「関連付け」 ボタン」を参照。
- ② 関連付けされた圧縮ファイルをダブルクリックなどで実行。

【複数実行について】

「4.11.3 アイコンへのファイルドロップ」と同様。

【解凍先】

「4.11.3 アイコンへのファイルドロップ」と同様。

5 画面説明

5.1 検索モード画面

検索を実行する画面（検索モード）。モード変更ボタンの押下で圧縮・解凍モードに移行する。

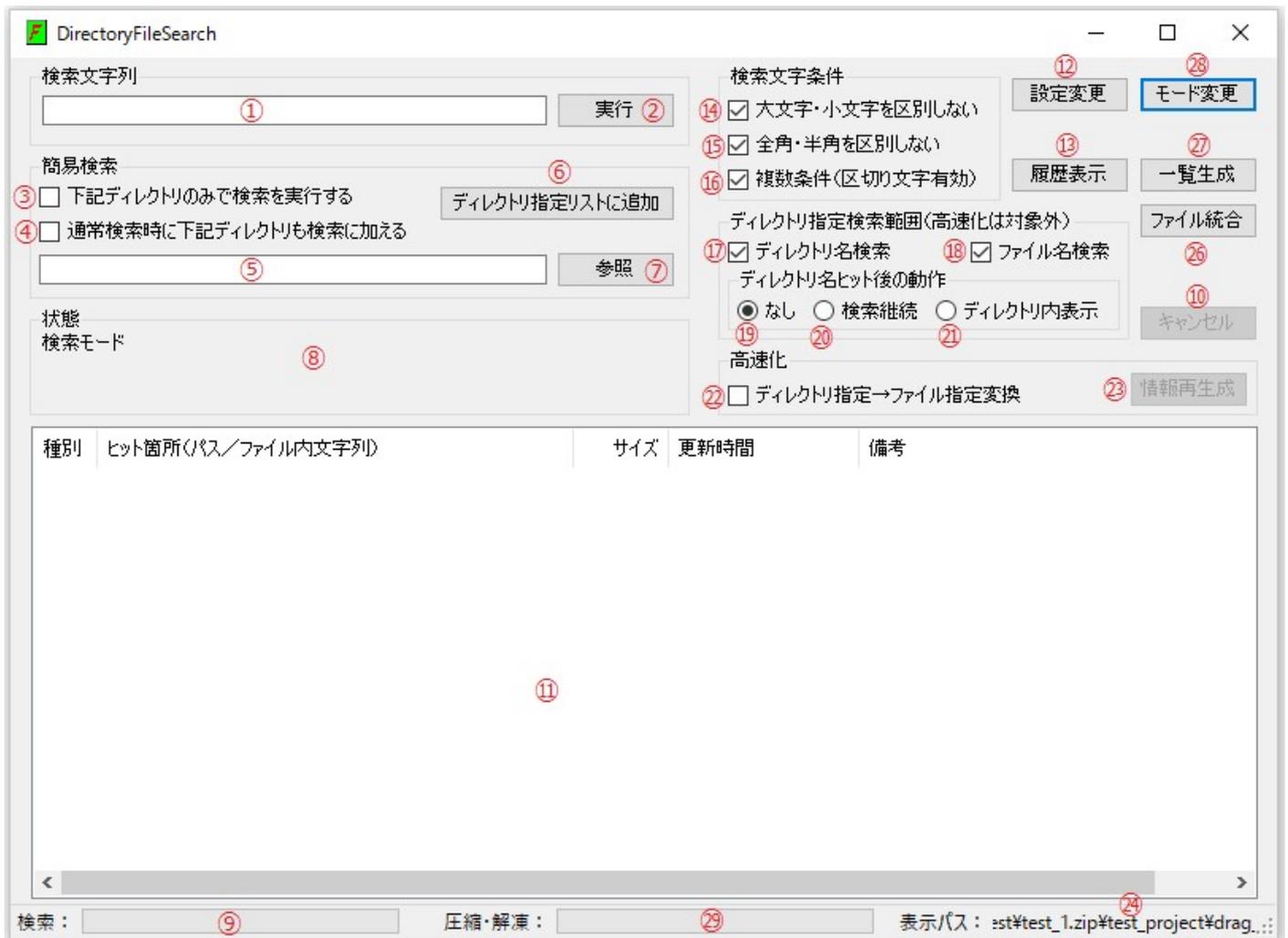


図 13 検索モード画面

① 検索文字列

検索する文字列を入力する。

RET キー押下で検索を実行する。

※コンテキストメニュー有り／D&D 可能／変換機能有り（設定の検索文字列変換を参照）

② 「実行」ボタン

検索を実行するボタン。(⑩でキャンセル可能)

検索箇所は設定画面か簡易検索⑤で指定。

※コンテキストメニュー有り

③ 「簡易検索」「下記ディレクトリのみで検索する」チェックボックス

⑤で入力されたディレクトリのみ検索する場合にチェックする。

- ④ 「簡易検索」「通常検索時に下記ディレクトリも検索に加える」チェックボックス
設定箇所と⑤で入力されたディレクトリを検索する場合にチェックする。
- ⑤ 「簡易検索」ディレクトリ入力欄
設定せずに検索を行うディレクトリを入力する。
パスが正しい場合、④がチェックされる。削除した場合、③のチェックが外れる。
※D&D 可能（ファイルの場合は親ディレクトリに変換）／パスの省略可能（注1）
- ⑥ 「簡易検索」「ディレクトリ指定リストへ追加」ボタン
⑤で指定されたディレクトリを設定に追加する。
- ⑦ 「簡易検索」「参照」ボタン
「フォルダーの参照」でディレクトリを選択し、簡易検索用の⑤が更新される。
- ⑧ 「状態」
検索モード：検索中の状態や検索結果（ヒット件数）等が表示される。
圧縮・解凍モード：圧縮・解凍の状態や結果を表示する。（v3.00 以降）
- ⑨ 検索：進捗バー
検索中の進捗状況を検索するディレクトリ、ファイルの数の割合で表示する。
- ⑩ 「キャンセル」ボタン
検索モード：検索のキャンセルを行う。
圧縮・解凍モード：圧縮及び解凍のキャンセルを行う。（v3.00 以降）
- ⑪ 検索結果欄
検索結果を表示する。
表示内容は、
- ・ 種別（検索場所の種類、詳細は、「5.3.5 検索モード設定タブ（旧表示タブ）」②を参照）
 - ・ ヒット箇所（ファイルの場合はパス。ファイル内の場合は文字列）
 - ・ サイズ（ファイルの場合はファイルサイズ）
 - ・ 更新日時（ファイルの場合はファイルの更新日時）
 - ・ 備考（ファイル内でヒットした場合はファイルパス+行番号（v3.00 以降）を表示）
- 検索結果欄内での動作は以下の通り。

表 4 検索結果表示欄の動作

入力	動作
RET キー	対応ファイルの実行・表示（Windows 任せ（注4））
DEL キー	対応ファイルの削除

CTRL+C キー	文字列のコピー
左クリック	リスト選択
左ダブルクリック	実行・表示など (Windows 任せ (注4))
右クリック	コンテキストメニュー表示 (「5.1.1 検索結果のコンテキストメニュー」を参照)

- ⑫ 「設定変更」 ボタン
設定画面を開く。
- ⑬ 「履歴」 ボタン
履歴画面を開く。
- ⑭ 「検索文字条件」「大文字・小文字の区別しない」のチェックボックス
大文字・小文字が異なってもヒットさせたい場合にチェックする。
- ⑮ 「検索文字条件」「全角・半角の区別しない」のチェックボックス
全角・半角が異なってもヒットさせたい場合にチェックする。
- ⑯ 「検索文字条件」「複数条件」のチェックボックス
スペース等 (設定画面で設定可能) で区切られた場合に、複数条件 (条件が前後してもヒットする) とする場合にチェックする。
チェックしない場合、完全一致がヒット条件となる。
- ⑰ 「ディレクトリ指定検索範囲」「ディレクトリ名検索」のチェックボックス
ディレクトリ指定でディレクトリ名の検索を行いたい場合にチェックする。(ファイル指定の検索では影響しない)
- ⑱ 「ディレクトリ指定検索範囲」「ファイル名検索」のチェックボックス
ディレクトリ指定でファイル名の検索を行いたい場合にチェックする。(ファイル指定の検索では影響しない)
- ⑲ 「ディレクトリ指定検索範囲」「ディレクトリ名ヒット後の動作」「なし」のラジオボタン
ディレクトリ名でヒットした場合に、そのディレクトリ内を検索しない場合にチェックする。
- ⑳ 「ディレクトリ指定検索範囲」「ディレクトリ名ヒット後の動作」「検索継続」のラジオボタン
ディレクトリ名でヒットした場合に、そのディレクトリの下位ディレクトリも全て検索する場合にチェックする。
- ㉑ 「ディレクトリ指定検索範囲」「ディレクトリ名ヒット後の動作」「ディレクトリ内表示」のラジオボタン

ディレクトリ名でヒットした場合に、そのディレクトリに含まれるファイル、ディレクトリを表示する場合にチェックする。

- ② 「高速化」「ディレクトリ指定→ファイル指定変換」のチェックボックス
ディレクトリ指定で設定されたディレクトリ内のディレクトリ／ファイルの一覧を事前に作成しておき、ディスクアクセスによる時間を短縮させる場合にチェックする。
初回チェック時にファイルが無い場合はダイアログで確認後、自動生成する。
作成されるファイルは以後ディレクトリ情報ファイルを呼称する。
- ③ 「高速化」「情報再生成」ボタン
ディレクトリ情報ファイルを更新する。
- ④ パス表示
検索モード：検索でアクセスしているパスを表示する。
圧縮・解凍モード：ツリーで選択しているパスを表示する。(v3.00以降)
※ダブルクリックでパスをクリップボードにコピー
- ⑤ タイトル
実行ファイル名を表示する。ライセンス登録が行われていない場合は「(試供品モード)」が付加される。
実行ファイル名は変更可能で、ファイル名が異なる場合は複数の並列実行が可能。
- ⑥ 「ファイル統合」ボタン (V2.25)
ファイル統合画面を開く。(設定画面の検索対象タブの「ファイル統合」ボタンと同等)
- ⑦ 「一覧生成」ボタン (v3.00以降)
ファイル一覧生成画面を開く。(設定画面の検索対象タブの「一覧生成」ボタンと同等)
- ⑧ 「モード変更」ボタン (v3.00以降)
検索モード：圧縮・解凍モードへ移行
圧縮・解凍モード：検索モードへ移行
- ⑨ 圧縮・解凍：進捗バー (v3.00以降)
圧縮・解凍の進捗状況をファイルサイズの割合で表示する。

5.1.1 検索結果のコンテキストメニュー

検索結果のリスト内で右クリックすることでコンテキストメニューが表示される。

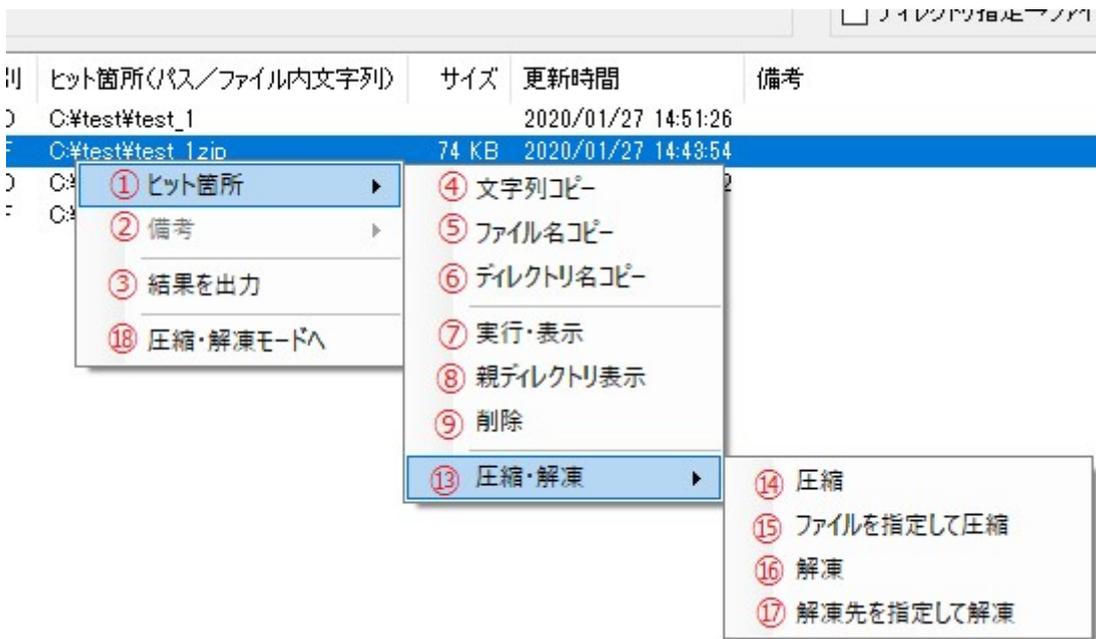


図 14 検索結果のコンテキストメニュー（ヒット箇所）

① ヒット箇所

検索結果欄のヒット箇所に対するメニュー。選択するとサブメニューが表示される。

② 備考

検索結果欄の備考に対するメニュー。選択するとサブメニューが表示される。

③ 結果を出力

検索結果欄の内容をファイルに出力する。

「保存先のファイルを選択してください」画面が表示されるため、ファイルを指定して「保存」ボタンを押すとファイルに出力される。

※新規ファイルの作成／上書きが可能

④ 「ヒット箇所」 全文字列コピー

選択している行のヒット箇所の文字列を全てコピーする。

※複数行のコピーが可能

⑤ 「ヒット箇所」 ファイル名コピー

選択している行の先頭行のヒット箇所の文字列のファイル名をコピーする。

ヒット箇所がディレクトリの場合やパスを含まない文字列の場合は、最後の「¥」以降の文字列。

- ⑥ 「ヒット箇所」 ディレクトリ名コピー
 選択している行の先頭行のヒット箇所の文字列のディレクトリ名をコピーする。
 ヒット箇所がディレクトリの場合やパスを含まない文字列の場合は、最後から1つ前の「¥」内の文字列。
- ⑦ 「ヒット箇所」 実行・表示
 選択している行のヒット箇所がパスを示している場合は、実行／表示する。
 動作は Windows 任せ（注4）。
 ※複数実行可能
- ⑧ 「ヒット箇所」 親ディレクトリ表示
 選択している行のヒット箇所がパスを示している場合は、親ディレクトリを表示する。
 ※複数実行可能
- ⑨ 「ヒット箇所」 削除
 選択している行のヒット箇所がパスを示している場合は、ファイル／ディレクトリを削除する。
 ※複数実行可能

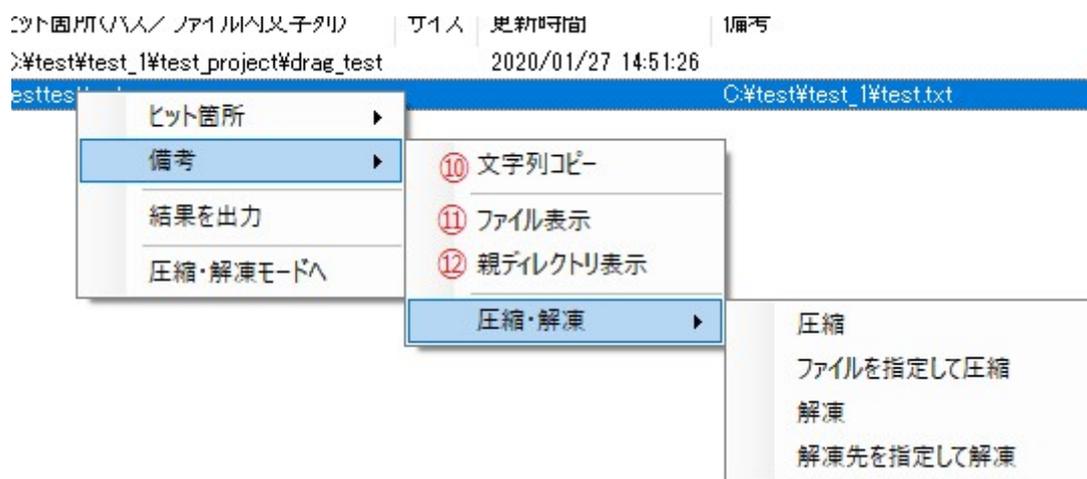


図 15 検索結果のコンテキストメニュー（備考）

- ⑩ 「備考」 全文字列コピー
 選択している行の備考の文字列を全てコピーする。
 ※複数行のコピーが可能
- ⑪ 「備考」 ファイル表示
 選択している行の備考がパスを示している場合は、実行／表示する。動作は Windows 任せ（注4）。
 ※複数実行可能
- ⑫ 「備考」 親ディレクトリ表示
 選択している行の備考がパスを示している場合は、親ディレクトリを表示する。

※複数実行可能

⑬ 圧縮・解凍 (v3.00 以降)

圧縮・解凍のサブメニューを表示する。

「ヒット箇所」と「備考」では、使用されるパスがヒット箇所記載か備考記載かの違いとなる。

⑭ 「圧縮・解凍」「圧縮」 (v3.00 以降)

選択した結果のパスを圧縮する。

⑮ 「圧縮・解凍」「ファイルを指定して圧縮」 (v3.00 以降)

ダイアログを開き圧縮ファイル名を指定して、選択した結果のパスを圧縮する。

⑯ 「圧縮・解凍」「解凍」 (v3.00 以降)

選択した結果のパスを解凍する。

⑰ 「圧縮・解凍」「解凍先を指定して解凍」 (v3.00 以降)

ダイアログを開き解凍先のディレクトリを指定して、選択した結果のパスを解凍する。

⑱ 圧縮・解凍モードへ (v3.00 以降)

圧縮・解凍モードへ移行する。

5.1.2 検索文字列・検索文字列枠内のコンテキストメニュー

検索文字列枠内で右クリックすることでコンテキストメニューが表示される。

なお、検索文字列のテキストボックス内は①～、その他は⑦～のメニューとなる。

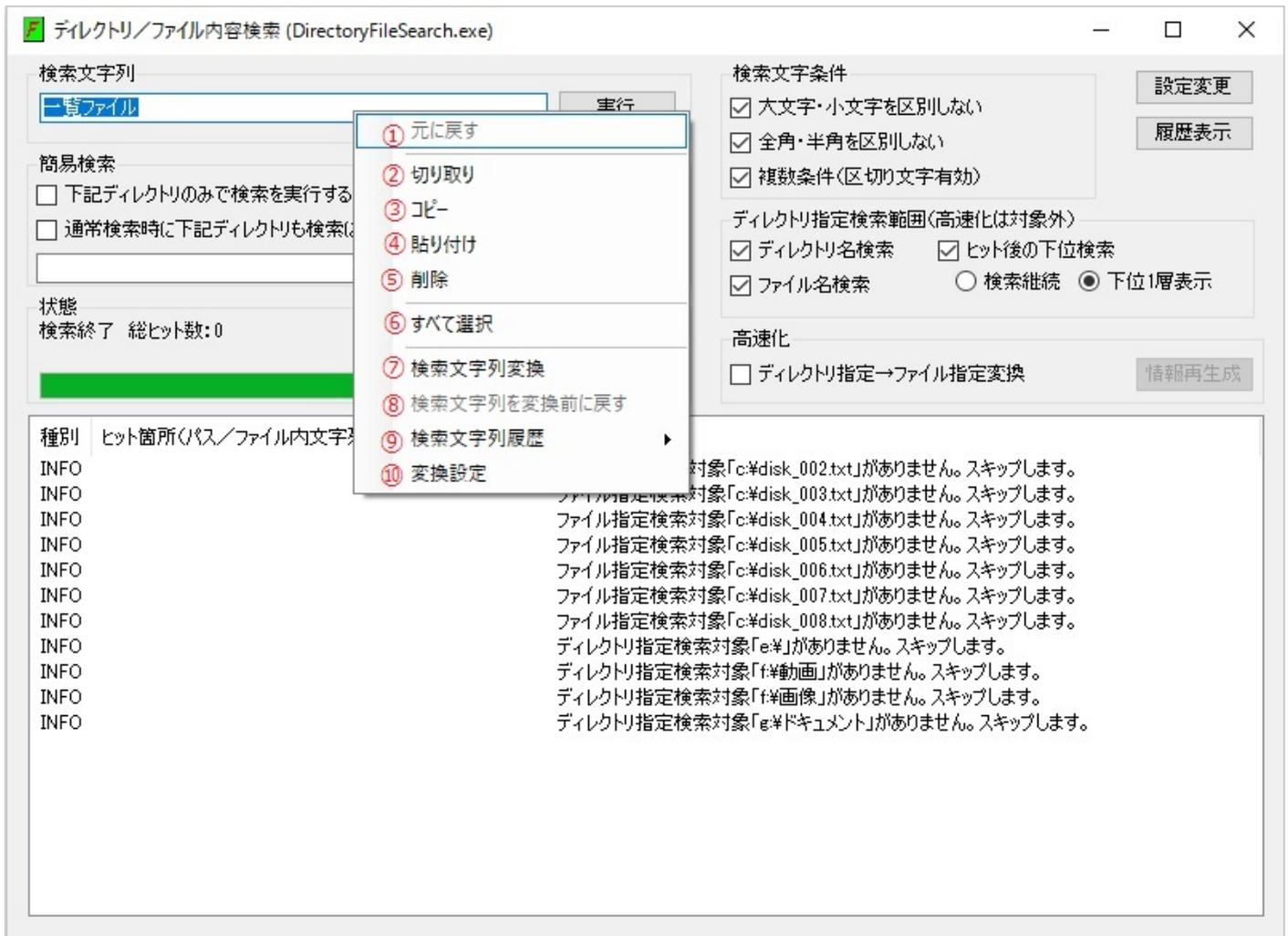


図 16 検索文字列枠のコンテキストメニュー

① 元に戻す

変更された文字列を元に戻す。Windows 標準機能と同等。

② 切り取り

検索文字列の選択部分を切り取る。

③ コピー

検索文字列の選択部分をコピーする。Windows 標準機能と同等。

④ 貼り付け

検索文字列に貼り付ける。Windows 標準機能と同等。

- ⑤ 削除
検索文字列の選択部分を削除する。Windows 標準機能と同等。
- ⑥ すべて選択
検索文字列を全て選択する。Windows 標準機能と同等。
- ⑦ 検索文字列変換
検索文字列を設定に合わせて変換する。設定の検索文字列変換を参照。
- ⑧ 検索文字列を変換前に戻す
変換した検索文字列を元に戻す。
- ⑨ 検索文字列履歴
検索した文字列の履歴を表示。
※表示される数は設定で変更可能
- ⑩ 変換設定
設定画面の検索文字列変換タブを開く。

5.1.3 履歴画面

検索の履歴を表示する画面。

検索実施時に前回出力した内容が保存される。

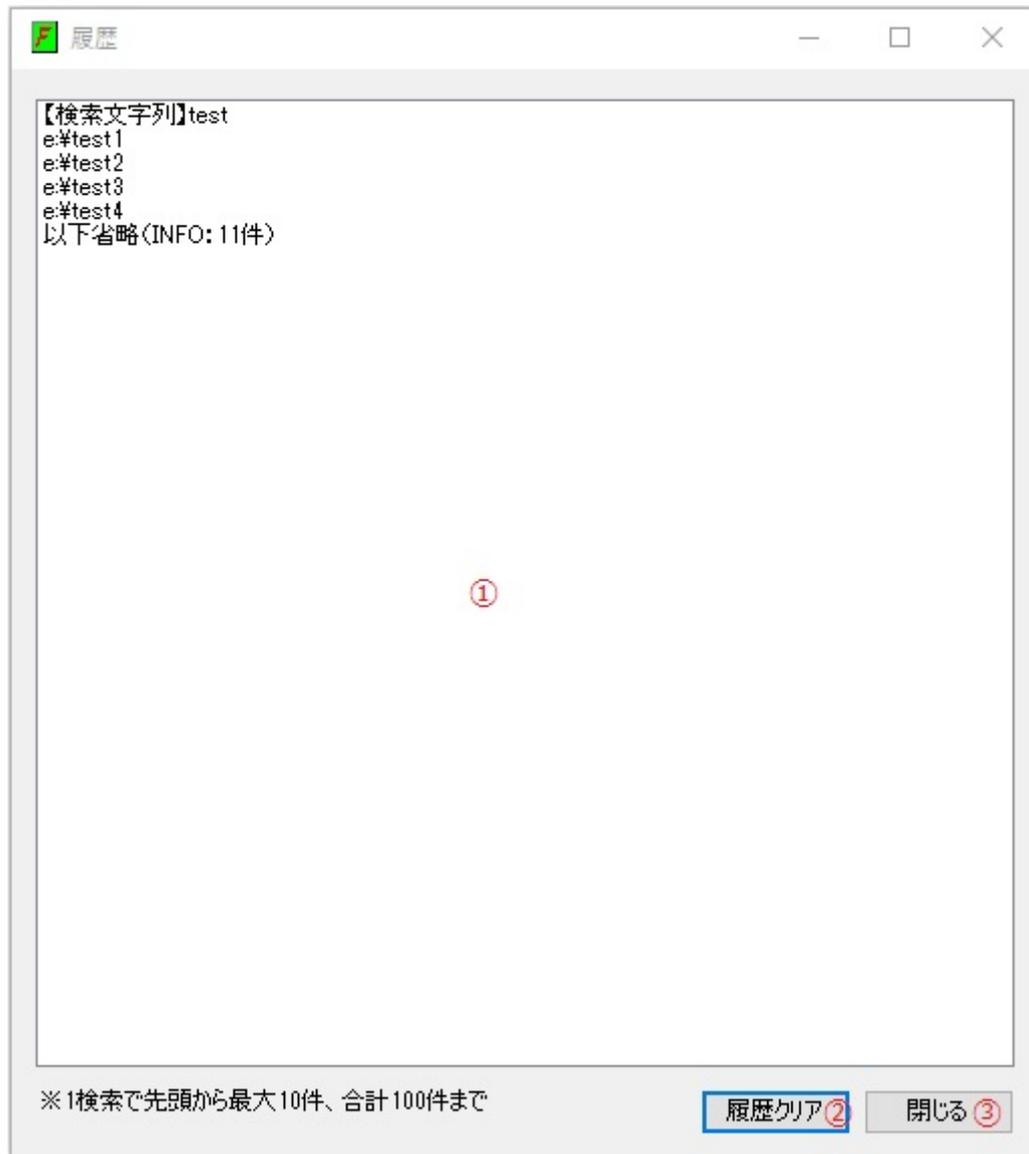


図 17 履歴画面

① 履歴表示欄

1 検索につき検索文字列と先頭から 10 件の履歴、合計 100 件（検索文字列を含む）の履歴（設定で変更可能）を表示する。

表示される内容は、検索文字列、ヒットした内容（ヒット箇所の記載が無い行はスキップ）。

履歴表示欄での動作は以下の通り。

表 5 履歴欄の動作

入力	動作
RET キー	履歴：選択ファイルの実行・表示（Windows 任せ（注4）） 検索文字列：記載の検索文字列で再検索
DEL キー	対応ファイルの削除
CTRL+C キー	文字列のコピー
左クリック	リスト選択
左ダブルクリック	RET キーと同等
右クリック	コンテキストメニュー表示 （「0 履歴欄のコンテキストメニュー」を参照）

② 「履歴クリア」ボタン

履歴をクリアする。

③ 「閉じる」ボタン

履歴画面を閉じる。

※閉じた状態でも履歴は保持し、検索実行により更新される。

5.1.3.1 履歴欄のコンテキストメニュー

履歴欄枠内で右クリックすることでコンテキストメニューが表示される。

なお、各メニューの活性・非活性は選択した先頭行で判断される。

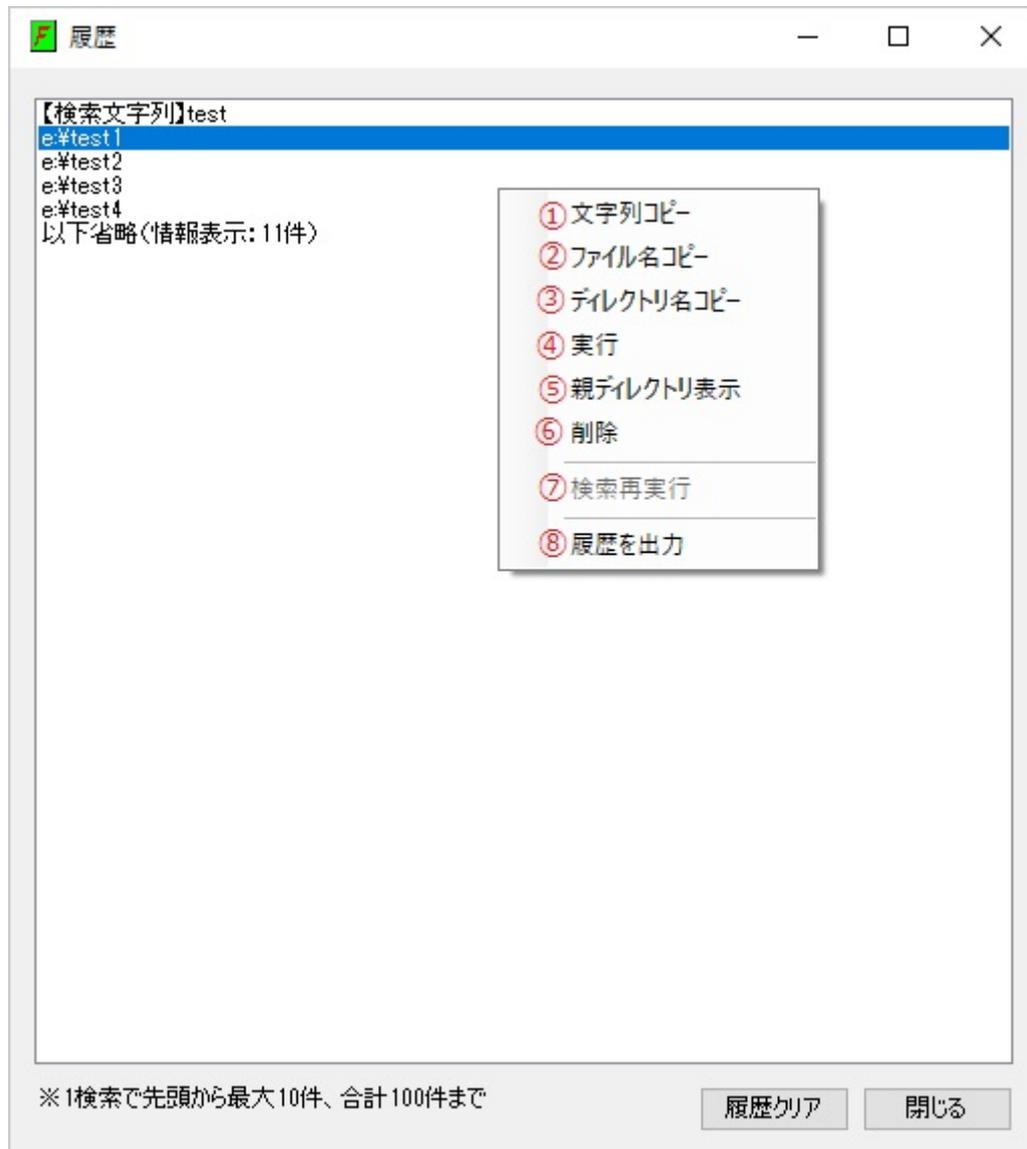


図 18 履歴欄のコンテキストメニュー

① 文字列コピー

選択している行の文字列を全てコピーする。

ただし、先頭行が【検索文字列】の場合は、検索文字列部分のみコピーされる。

※複数行のコピーが可能

② ファイル名コピー

選択している行の先頭行のヒット箇所の文字列のファイル名をコピーする。

ヒット箇所がディレクトリの場合やパスを含まない文字列の場合は、最後の「¥」以降の文字列。

③ ディレクトリ名コピー

選択している行の先頭行のヒット箇所の文字列のディレクトリ名をコピーする。

ヒット箇所がディレクトリの場合やパスを含まない文字列の場合は、最後から1つ前の「¥」内の文字列。

④ 実行

選択している行のヒット箇所がパスを示している場合は、実行／表示する。

動作は Windows 任せ（注4）。

※複数実行可能

⑤ 親ディレクトリ表示

選択している行のヒット箇所がパスを示している場合は、親ディレクトリを表示する。

※複数実行可能

⑥ 削除

選択している行のヒット箇所がパスを示している場合は、ファイル／ディレクトリを削除する。

※複数実行可能

⑦ 検索再実行

選択した検索文字列で検索を実行し、検索画面がアクティブとなる。

※選択した先頭が【検索文字列】の場合のみ実行可能

⑧ 履歴力

履歴欄の内容をファイルに出力する。

「保存先のファイルを選択してください」画面が表示されるため、ファイルを指定して「保存」ボタンを押すとファイルに出力される。

※新規ファイルの作成／上書きが可能

5.2 圧縮・解凍モード画面 (v3.00 以降)

圧縮・解凍を実行する画面。モード変更ボタンの押下で検索モードに移行する。

簡易エクスプローラー機能があり、圧縮・解凍の他に、カット&ペーストやドラッグ&ドロップ、ISO や VHD ファイルのマウント、ドライブのフォーマットなどが行える。

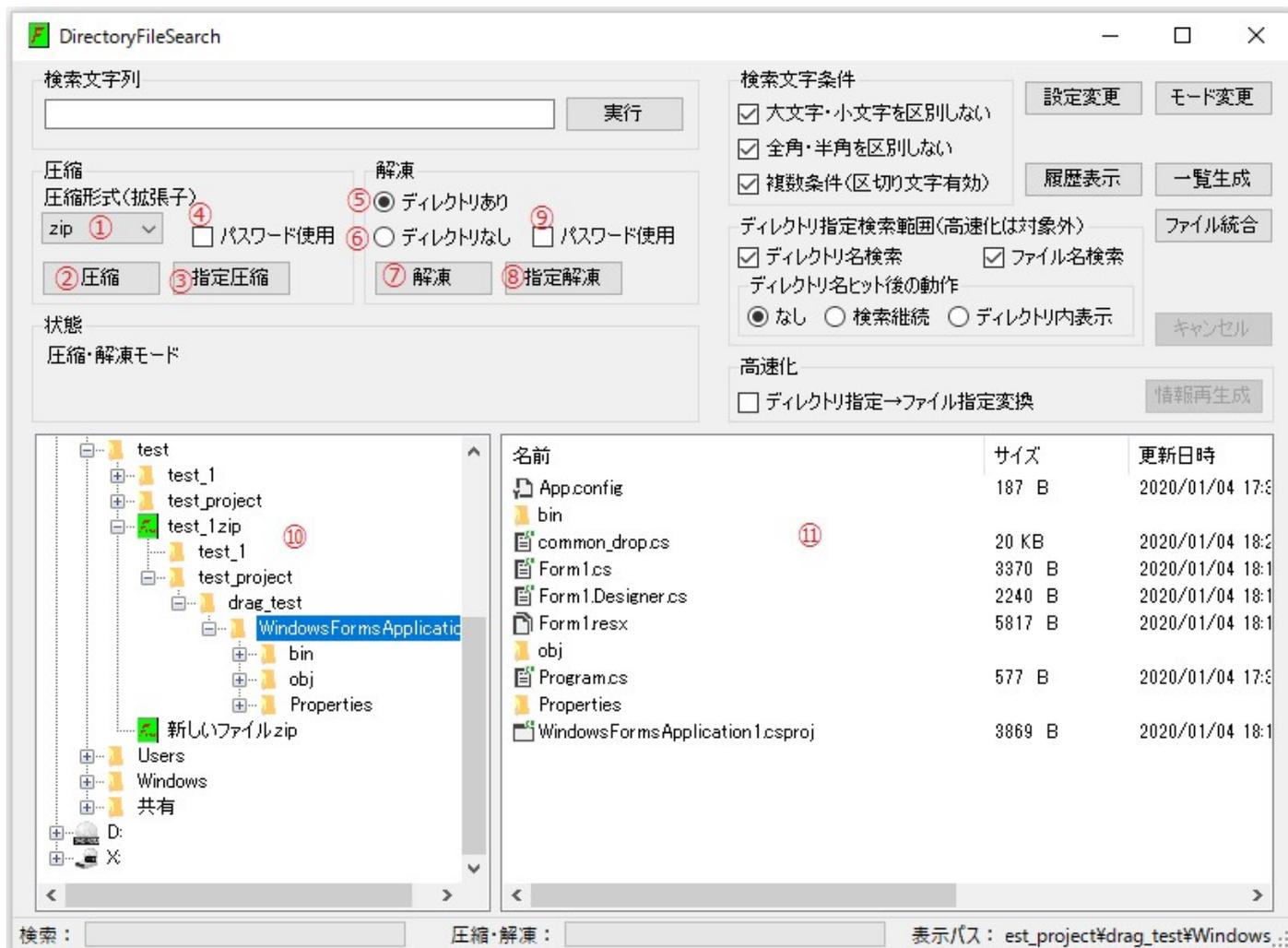


図 19 圧縮・解凍モード画面

- ① 「圧縮」「圧縮形式 (拡張子)」 コンボボックス
圧縮するファイルの形式 (拡張子) を選択する。
表示される拡張子は、設定画面の「圧縮・解凍」タブでチェックされた圧縮可能な拡張子。
- ② 「圧縮」「圧縮」 ボタン
圧縮を実行する。
圧縮先は、選択したファイル・ディレクトリの共通パスとなり、圧縮ファイル名は選択した先頭のファイル名から生成する。
ボタンへのドラッグ&ドロップでの実行も可能。(v3.02 以降)
- ③ 「圧縮」「指定圧縮」 ボタン

圧縮ファイル名を指定して圧縮を実行する。
ダイアログが開き、圧縮先、圧縮ファイル名を指定後、圧縮が実行される。
ボタンへのドラッグ&ドロップでの実行も可能。(v3.02以降)

- ④ 「圧縮」「パスワード使用」チェックボックス
圧縮時にパスワードを設定する場合にチェックする。
※パスワードは DLL によって使用できないものがあるため注意が必要。
なお、標準の ZIP、CAB ファイルの解凍には使用できない。
- ⑤ 「解凍」「ディレクトリあり」ラジオボタン
解凍先として、圧縮ファイル名（拡張子なし）のディレクトリを作成し、そこに解凍する場合にチェックする。
- ⑥ 「解凍」「ディレクトリなし」ラジオボタン
解凍先として、ディレクトリを作成しない場合にチェックする。
- ⑦ 「解凍」「解凍」ボタン
解凍を実行する。
解凍先は、選択した圧縮ファイルがあるパスとなる。
ボタンへのドラッグ&ドロップでの実行も可能。(v3.02以降)
- ⑧ 「解凍」「指定解凍」ボタン
解凍先を指定して解凍を実行する。
ダイアログが開き、解凍先を指定後、解凍が実行される。
ボタンへのドラッグ&ドロップでの実行も可能。(v3.02以降)
- ⑨ 「解凍」「パスワード使用」チェックボックス
解凍時にパスワードを事前に設定する場合にチェックする。
DLL によってはチェックがない場合でも、必要な場合に入力を求められる。
※パスワードは DLL によって使用できないものがあるため注意が必要。
なお、標準の ZIP、CAB ファイルの解凍には使用できない。
- ⑩ 「階層ツリー」欄
ドライブからの階層表示を行う。圧縮ファイル内の階層表示も可能。
また、枠左（スクロールバーがある場合は更に内側）にカーソルを合わせると「⇄」に変化し、ドラッグすることで、⑩と⑪の横幅の割合を変更することが可能。
※カット&ペースト可能/D&D 可能/コンテキストメニューあり/検索対象として選択可能/サイズ変更可

⑪ 「ファイルリスト」欄

「階層ツリー」で選択されたディレクトリや圧縮ファイルの内容を表示する。

※カット&ペースト可能／D&D 可能／コンテキストメニューあり／検索対象として選択可能／サイズ変更可

○ 画面全体

・マウスのサイドにある X1、X2 ボタンで表示箇所に戻す／やり直す操作が可能

※検索モードでは無効、モード移行の制御は行わない

・元に戻す (Ctrl+Z)、やり直す (Ctrl+Y) でファイル操作の元に戻す／やり直す操作が可能

※設定が有効な場合に限る

5.2.1 圧縮・解凍モードのコンテキストメニュー

「階層ツリー」や「ファイルリスト」欄で右クリックすることで表示されるコンテキストメニュー。表示される内容は、選択しているドライブ、ファイル、ディレクトリにより異なる。



図 20 圧縮・解凍モードのコンテキストメニュー

① 圧縮

「圧縮」ボタンと同等。

(ファイル、ディレクトリ、圧縮ファイル)

② ファイルを指定して圧縮

「指定圧縮」ボタンと同等。

(ファイル、ディレクトリ、圧縮ファイル)

③ 解凍

「解凍」ボタンと同等。

(圧縮ファイル)

- ④ 解凍先を指定して圧縮
「指定解凍」ボタンと同等。
(圧縮ファイル)
- ⑤ 自動実行
CDなどのルートにある「autorun.inf」や「autoexec.bat」の内容に基づいて実行。
(ドライブ(「autorun.inf」／「autoexec.bat」がある場合))
- ⑥ 実行・表示 (Ent)
ディレクトリや圧縮ファイルの場合は中身を表示、ファイルの場合は Windows の設定に依存した実行。(注4) Enter キーと同等。
(ファイル、ディレクトリ、圧縮ファイル)
- ⑦ 削除 (Del)
ファイルやディレクトリの削除。Del キーと同等。
(ファイル、ディレクトリ、圧縮ファイル)
- ⑧ 名前変更 (F2)
名前の変更モードに入る。F2 キーと同等。
(ファイル、ディレクトリ、圧縮ファイル)
- ⑨ コピー (Ctrl+C)
ファイルをクリップボードにコピー。Ctrl+C キーと同等。
(ファイル、ディレクトリ、圧縮ファイル)
- ⑩ 切り取り (Ctrl+X)
ファイルをクリップボードにコピーし、貼り付け後に削除される。Ctrl+X キーと同等。
(ファイル、ディレクトリ、圧縮ファイル)
- ⑪ 貼り付け (Ctrl+V)
クリップボードのファイルを貼り付け。Ctrl+V キーと同等。
(ファイル、ディレクトリ、圧縮ファイル)
- ⑫ 新しいフォルダー
「新しいフォルダー」ディレクトリを生成し、名前の変更モードに入る。
(ディレクトリ)
- ⑬ 新しいファイル
「新しいファイル.txt」ファイルを生成し、名前の変更モードに入る。
(ディレクトリ)

- ⑭ 元に戻す (Ctrl+Z)
ファイル操作を1つ前の状態に戻す。Ctrl+Z キーと同等。
(全て)
- ⑮ やり直す (Ctrl+Y)
元に戻す操作後、ファイル操作を1つ先の状態にやり直す。Ctrl+Y キーと同等。
(全て)
- ⑯ フォーマット
フォーマットダイアログを開く。
(ドライブ (物理))
- ⑰ 取り出し/トレイオープン/トレイクローズ
リムーバブルディスク (USB など) の場合、「取り出し」表示となり、取り外し (アンマウント) を行う。
CD などのドライブの場合、トレイの状態に合わせて「トレイオープン」/「トレイクローズ」表示となり、CD のトレイの操作を行う。
(ドライブ (リムーバブルディスク・CD))
- ⑱ マウント
ISO、VHD ファイルのマウントを行う。
(ファイル (ISO、VHD))
- ※PowerShell5.1 を使用しているため、インストールされていない環境ではエラーとなる。
Windows10 では標準、Windows7 SP1 では WMF5.1 (Win7-KB3191566-x86.zip) をインストールすることで使用可能
- ⑲ プロパティ
プロパティダイアログを開く。
(全て)
- ⑳ 検索モードへ
検索モードへ移行する。
(全て)
- ㉑ 検索対象に追加
ファイルの場合、ファイル指定、ディレクトリの場合、ディレクトリ指定の設定に追加する。
(ファイル、ディレクトリ)

5.3 設定画面

設定画面は複数のタブで構成されている。

画面を閉じる際、設定が変更され未保存であれば、保存するか確認する。

なお、設定画面を開いたままメイン画面を操作することが可能。

5.3.1 検索対象タブ

検索対象を指定する。



図 21 設定画面 (検索対象タブ)

- ① 「ファイル指定」「優先」ラジオボタン
ファイルの検索を優先する場合にチェックする。
- ② 「ファイル指定」リスト欄
検索するファイルのリスト。
チェックすると検索対象となる。(v3.00以降)
リストを操作する際、選択する。(ファイル名入力欄、文字コード選択欄が変更される)
※D&D可能
※コンテキストメニューあり (V2.27~)
- ③ 「ファイル指定」ファイル名入力欄
追加するファイル名を入力する。
RETキー押下で「追加」ボタンにタブストップが移動する。
※D&D可能/パスの省略可能(注1)/リストで選択した場合、そのファイル名に変更される
- ④ 「ファイル指定」文字コード選択欄
ファイルを読み込む際に使用するエンコード。(注3)
※リストで選択した場合、そのファイルのエンコードに変更される
- ⑤ 「ファイル指定」「参照」ボタン
ファイル参照でファイルをリストに追加する。
- ⑥ 「ファイル指定」「追加」ボタン
ファイル名入力欄で入力されたファイルをリストに追加する。
※存在しないファイルも追加可能(検索実行時はスキップ)
- ⑦ 「ファイル指定」「削除」ボタン
リストで選択したファイルをリストから削除する。
- ⑧ 「ファイル指定」「↑」(順序の入れ替え上)ボタン
リストで選択したファイルをリストの上位に移動する。
- ⑨ 「ファイル指定」「↓」(順序の入れ替え下)ボタン
リストで選択したファイルをリストの下位に移動する。
- ⑩ 「ファイル指定」「ファイル統合」ボタン
「ファイル統合画面」を開く。詳細は「ファイル統合画面」を参照。
- ⑪ 「ディレクトリ指定」「優先」ラジオボタン
ディレクトリの検索を優先する場合にチェックする。

- ⑫ 「ディレクトリ指定」リスト欄（チェックボックス付き）
検索するディレクトリのリスト。
チェックすると検索対象となる。（v3.00 以降）
リストを操作する際、選択する。（ディレクトリ名入力欄が変更される）
※D&D 可能
※コンテキストメニューあり（V2.27～）
- ⑬ 「ディレクトリ指定」ディレクトリ名入力欄
追加するディレクトリ名を入力する。
RET キー押下で「追加」ボタンにタブストップが移動する。
※D&D 可能（ファイルの場合は親ディレクトリに変換）／パスの省略可能（注1）／リストを選択した
した場合、そのディレクトリ名に変更される
- ⑭ 「ディレクトリ指定」「参照」ボタン
ディレクトリ参照でディレクトリをリストに追加する。
- ⑮ 「ディレクトリ指定」「追加」ボタン
ディレクトリ名入力欄で入力されたディレクトリをリストに追加する。
※存在しないディレクトリも追加可能（検索実行時はスキップ）
- ⑯ 「ディレクトリ指定」「削除」ボタン
リストで選択したディレクトリをリストから削除する。
- ⑰ 「ディレクトリ指定」「↑」（順序の入れ替え上）ボタン
リストで選択したディレクトリをリストの上位に移動する。
- ⑱ 「ディレクトリ指定」「↓」（順序の入れ替え下）ボタン
リストで選択したディレクトリをリストの下位に移動する。
- ~~⑲ 「一覧ファイル生成」ファイル名入力欄
生成する一覧ファイルのファイル名を指定する。
RET キー押下で「一覧生成」ボタンにタブストップが移動する。
ファイル名に「?」を付けるとその部分を連番とする。「?」数で桁数を設定でき、自動で使用されて
いない番号を付与する。
「??」の場合、001～999 まで。001 と 002 のファイルがある場合、003 とする。
※D&D 可能／連番自動付与可能／パスの省略可能（注1）~~
- ⑳ 「一覧ファイル生成」「一覧形式」チェックボックス

~~一覧ファイルの生成時、ファイル形式を普通の一覧にする。~~

- ⑳ ~~「一覧ファイル生成」「ディレクトリ情報ファイル形式」チェックボックス~~
~~一覧ファイルの生成時、ファイル形式をディレクトリ情報ファイル形式（サイズ、変更日時等を追記）にする。~~
- ㉑ 「ディレクトリ指定」「一覧生成」ボタン
「ファイル一覧生成画面」を開く。詳細は「ファイル一覧生成画面」を参照。
⑲～㉑はファイル一覧生成画面に移行（v3.00以降）
- ㉒ 「ディレクトリ指定」「指定ファイル名」「指定ファイル検索を実施」チェックボックス
ディレクトリの検索中に、設定したファイル名と一致した場合に、そのファイルの内容を検索する
場合にチェックする。
設定は「指定ファイル名 詳細設定画面」で行う。
- ㉓ 「ディレクトリ指定」「指定ファイル名」「設定状態」表示
「指定ファイル名 詳細設定画面」で設定されている内容の先頭1つとその他件数を表示する。
- ㉔ 「ディレクトリ指定」「指定ファイル名」「詳細設定」ボタン
「指定ファイル名 詳細設定画面」を開く。詳細は「指定ファイル名 詳細設定画面」を参照。
- ㉕ 「設定保存」ボタン
設定を保存する。
保存しない場合、起動中は変更した内容が反映されているが、次回起動時には反映されない。
※設定画面共通
- ㉖ 「設定保存」ボタン
設定画面を閉じる。
- ㉗ 「ディレクトリ指定」「圧縮ファイル内検索」「圧縮ファイル内のファイル名を検索」チェックボックス
ディレクトリ指定の検索時、圧縮ファイルの中身のファイル名を検索対象とする場合にチェックする。
- ㉘ 「ディレクトリ指定」「圧縮ファイル内検索」「指定ファイル検索を実施」チェックボックス
ディレクトリ指定の検索時、圧縮ファイル内に指定ファイルがあった場合にそのファイル内容を検索する場合にチェックする。
- ㉙ 「ファイル名・ディレクトリ名検索時」「ファイル名・ディレクトリ名から検索」ラジオボタン

ファイル名やディレクトリ名の検索時の対象をファイル名・ディレクトリ名のみ限定する場合にチェックする。

- ⑳ 「ファイル名・ディレクトリ名検索時」「フルパスから検索」ラジオボタン
ファイル名やディレクトリ名の検索時の対象をフルパスにする場合にチェックする。

5.3.1.1 ファイル統合画面

一覧ファイルの統合を行う。

リストの順にファイルが読み込まれ、統合ファイルを生成する。(元のファイルはそのまま)

ファイル指定のファイルが統合された場合は、リストを更新(一覧から統合前のファイルを削除し、統合後のファイルを追加)する。

リストのファイル以外の追加、統合も可能。

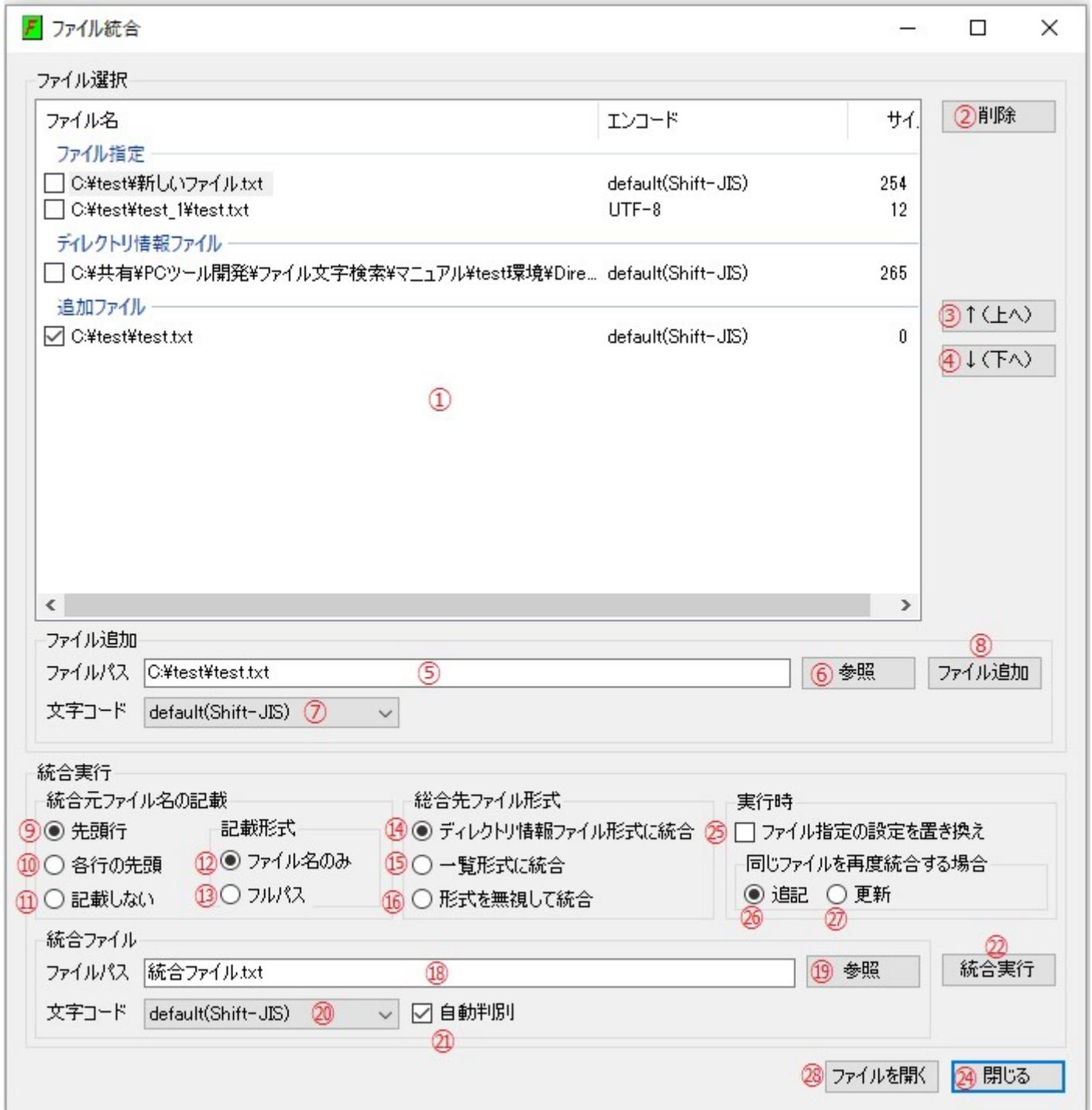


図 22 ファイル統合画面

- ① リスト欄
統合するファイルのリストを表示する。
初期表示は、「ファイル指定」のファイルと、ディレクトリ情報ファイルがある場合は、ディレクトリ情報ファイル。
ファイルを追加すると、「追加ファイル」グループが表示される。
統合するファイル（複数）の選択に使用する。また、リストの順序を操作する際は選択の先頭のみが有効。
チェックすると統合対象となる。（v3.00 以降）
※コンテキストメニュー有り（削除のみ）／D&D 可能（「追加ファイル」グループに追加される）
- ② 「削除」ボタン
リストからファイルを削除する。
ただし、削除可能なファイルは、追加したファイルのみ。
- ③ 「↑（上）」ボタン
リストで選択したファイルの“先頭”をリストの上位に移動する。
グループ全体が選択されている場合は、グループ全体をリストの上位に移動する。（注2）
※統合ファイルへの記載順序に影響
- ④ 「↓（下）」ボタン
リストで選択したファイルの“先頭”をリストの下位に移動する。
グループ全体が選択されている場合は、グループ全体をリストの下位に移動する。（注2）
※統合ファイルへの記載順序に影響
- ⑤ 「ファイル追加」ファイル名入力欄
リストに追加するファイル名を入力する。
RET キー押下でリスト（「追加ファイル」グループ）にファイルを追加する。
※D&D 可能／パスの省略可能（注1）
- ⑥ 「ファイル追加」「参照」ボタン
ファイル参照でファイルをリスト（「追加ファイル」グループ）に追加する。
- ⑦ 「ファイル追加」文字コード選択欄
追加するファイルのエンコードを選択する。（注3）
- ⑧ 「ファイル追加」「追加」ボタン
ファイル名入力欄で入力されたファイルをリスト（「追加ファイル」グループ）に追加する。
- ⑨ 「統合実行」「ファイル名記載」「先頭行」ラジオボタン
統合ファイルの書式として、ファイル名を各ファイル内容の先頭に記載する場合にチェックする。

- ⑩ 「統合実行」「ファイル名記載」「各行の先頭」ラジオボタン
統合ファイルの書式として、ファイル名を各行の先頭に記載する場合にチェックする。
- ⑪ 「統合実行」「ファイル名記載」「記載しない」ラジオボタン
統合ファイルの書式として、ファイル名を記載しない場合にチェックする。
- ⑫ 「統合実行」「記載形式」「ファイル名のみ」ラジオボタン
統合ファイルにファイル名を記載する場合、ファイル名のみを記載する場合にチェックする。
- ⑬ 「統合実行」「記載形式」「フルパス」ラジオボタン
統合ファイルにファイル名を記載する場合、ファイル名をフルパスで記載する場合にチェックする。
- ⑭ 「統合実行」「ディレクトリ情報ファイル」「ディレクトリ情報ファイル形式に統合」ラジオボタン
統合ファイルをディレクトリ情報ファイル形式とする場合にチェックする。
ディレクトリ情報ファイル形式のファイルが統合された場合、サイズ、変更日時等の情報が付加され、検索時にこのファイルでヒットした際に表示される。
通常ファイルが統合された場合、サイズ、変更日時等は空欄となる。
- ⑮ 「統合実行」「ディレクトリ情報ファイル」「通常ファイル形式に統合」ラジオボタン
統合ファイルを通常ファイル形式とする場合にチェックする。
ディレクトリ情報ファイル形式のファイルが統合された場合、サイズ、変更日時等の情報が削除され、検索時にこのファイルでヒットした際は空欄となる。
通常ファイルが統合された場合、そのまま統合される。
- ⑯ 「統合実行」「ディレクトリ情報ファイル」「形式を無視して統合」ラジオボタン
統合ファイルをディレクトリ情報ファイル形式、通常ファイル形式を無視して統合する場合にチェックする。
追加ファイルなどを統合する場合に使用する。
ディレクトリ情報ファイル形式を含む場合、当ツールで検索結果を表示する際は動作を保証しない。
- ~~⑰ 「実行時自動保存」チェックボックス (V2.25)
ファイル統合の実行時に現在の設定を自動で保存する場合にチェックする。
※設定画面の保存ボタンで設定を保存するように変更 (v3.00 以降)~~
- ⑱ 「統合実行」ファイル名入力欄
統合ファイル名を入力する。
RET キー押下でファイルの統合を実行する。
※D&D 可能／パスの省略可能 (注1) ／上書き可能

- ⑱ 「統合実行」「参照」ボタン
ファイル参照で統合ファイル名を設定（ファイル名入力欄を更新）する。
- ⑳ 「統合実行」文字コード選択欄
統合ファイルのエンコードを選択する。（注3）
- ㉑ 「統合実行」「自動判別」チェックボックス
統合ファイルのエンコードを選択したファイルのエンコードに合わせる場合にチェックする。
選択したファイルのエンコードが複数ある場合、多いエンコードに合わせる。同数の場合は記述順序の上位が優先。
- ㉒ 「統合実行」「統合」ボタン
統合ファイルを生成する。
ファイル指定のファイルを含む場合、ファイル指定のリストを更新することができる。
- ~~㉓ 「設定保存」ボタン
ファイル統合の設定を保存する。設定変更で活性。
※設定画面の保存ボタンで設定を保存するように変更（v3.00以降）~~
- ㉔ 「閉じる」ボタン
ファイル統合画面を閉じる。
- ㉕ 「統合実行」「実行時」「ファイル指定の設定を置き換え」チェックボックス（v3.00以降）
ファイル指定のファイルを含む場合、ファイル指定のリストから統合元ファイルの設定を削除し、統合ファイルを追加する場合にチェックする。
- ㉖ 「統合実行」「実行時」「同じファイルを再度統合する場合」「追記」ラジオボタン（v3.00以降）
以前に統合したファイルに再度同じファイルを統合する場合の設定。
同じ統合ファイルに選択したファイル内容を追加する場合にチェックする。
- ㉗ 「統合実行」「実行時」「同じファイルを再度統合する場合」「更新」ラジオボタン（v3.00以降）
以前に統合したファイルに再度同じファイルを統合する場合の設定。
同じ統合ファイルの選択したファイル内容を更新する場合にチェックする。
- ㉘ 「ファイルを開く」ボタン（v3.00以降）
統合したファイルを開く場合に押下する。
圧縮・解凍モードが有効な場合はファイルの格納場所の表示のみ。
圧縮・解凍モードが有効な場合は Windows の設定に依存したツールで表示。（注4）

5.3.1.2 指定ファイル名の詳細設定画面

指定ファイル名は、ディレクトリ指定検索の際に使用される。

ディレクトリ内に格納されている一覧ファイルなどの名前を設定し、検索の際に一致すると、そのファイルの内容も検索する。

「*」を使うと一部一致のファイルも検索対象となる。

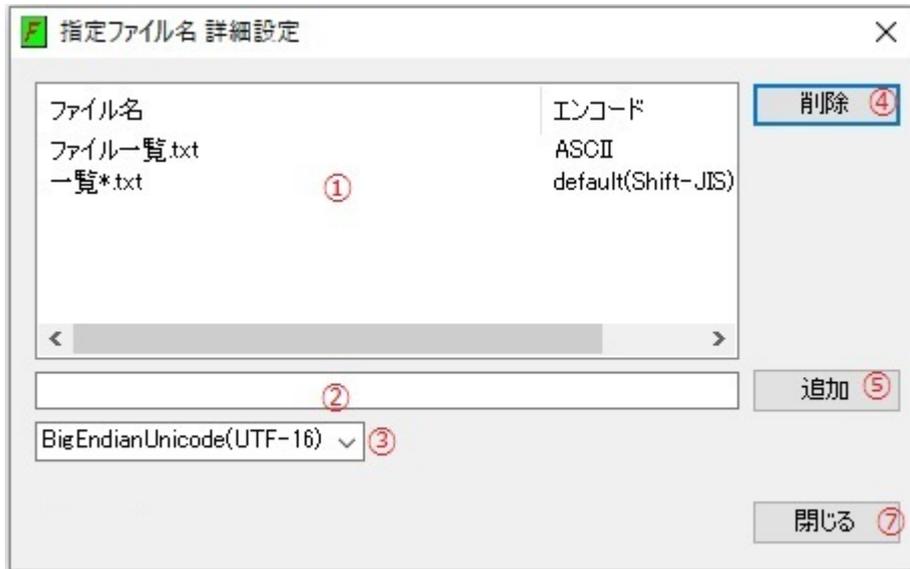


図 23 指定ファイル名 詳細設定画面

① リスト欄

指定ファイル名のリスト。

リストを操作する際、選択する。(ファイル名入力欄、文字コード選択欄が変更される)

② ファイル名入力欄

追加する指定ファイル名を入力する。※手入力のみ

RET キー押下で「追加」ボタンにタブストップを移動する。

ワイルドカード「*」が入力でき、部分一致でファイル名を検索する。

例として、

「一覧*.txt」 → 先頭の「一覧」と最後の「.txt」が一致するファイルすべて。
一覧 2017 年.txt、一覧 (動画) .txt など、ファイル内を検索

「*一覧.txt」 → 先頭はなんでも良く、最後が「一覧.txt」のファイルすべて。
動画一覧.txt、2017 年一覧.txt など、ファイル内を検索

また、ファイル一覧 (EUC) .txt などとしておくと文字コードの管理も簡単になる。

③ 文字コード選択欄

指定ファイルを読み込む際のエンコードを選択する。(注 3)

- ④ 「削除」 ボタン
リストから削除する。
- ⑤ 「追加」 ボタン
ファイル名入力欄で記載された内容をリストに追加する。
- ~~⑥ 「保存」 ボタン
設定を保存する。設定画面の設定保存ボタンと同等。
保存しない場合、起動中は変更した内容が反映されているが、次回起動時には反映されない。
※設定画面の保存ボタンで設定を保存する（v3.00 以降）~~
- ⑦ 「閉じる」 ボタン
指定ファイル名画面を閉じる。

5.3.1.3 検索対象タブのコンテキストメニュー (V2.27～)

設定画面・検索対象タブのファイル指定の一覧、ディレクトリ指定の一覧で右クリックしたときに表示されるコンテキストメニュー。

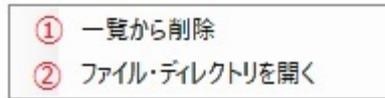


図 24 検索対象タブのコンテキストメニュー

- ① 「一覧から削除」メニュー
選択した項目を一覧から削除する。

- ② 「ファイル・ディレクトリを開く」メニュー
選択した項目のファイルもしくはディレクトリを開く。
※動作は Windows の設定に依存 (注4)

5.3.1.4 ファイル一覧生成画面（v3.00以降）

指定したドライブやディレクトリのファイル一覧を生成する。

ディレクトリ指定の設定から選択するか直接パスを指定することができる。

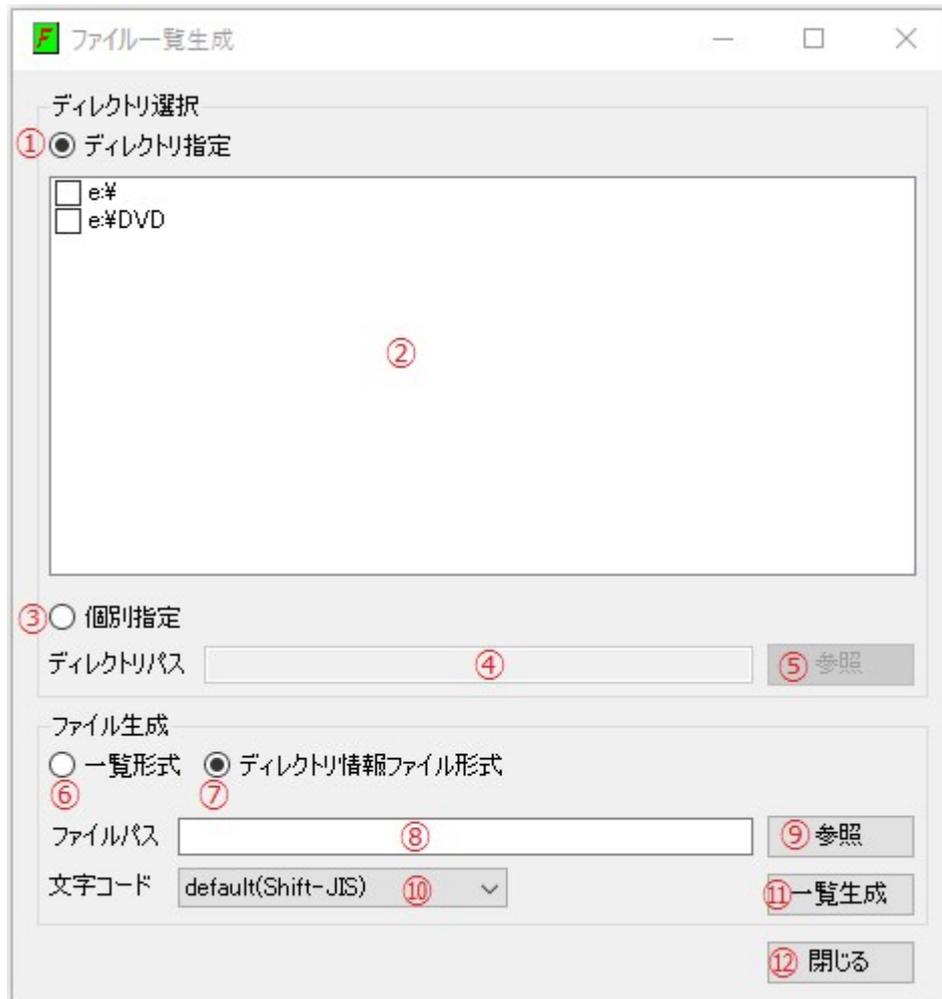


図 25 ファイル一覧生成画面

- ① 「ディレクトリ選択」「ディレクトリ指定」ラジオボタン
ディレクトリ指定の設定から生成するディレクトリを選択する場合にチェックする。
- ② 「ディレクトリ選択」リスト欄
ディレクトリ指定の設定を表示し、ファイル一覧を生成するパスを選択する。
チェックすると生成対象となる。
- ③ 「ディレクトリ選択」「個別指定」ラジオボタン
ディレクトリ指定の設定以外からパスを指定する場合にチェックする。
- ④ 「ディレクトリ選択」「ディレクトリパス」入力欄
一覧とするディレクトリのパスを入力する。
※D&D 可能（v3.01以降）

- ⑤ 「ディレクトリ選択」「参照」ボタン
フォルダー参照でディレクトリを指定する。
- ⑥ 「ファイル生成」「一覧形式」ラジオボタン
ファイル一覧の形式をパスのみの一覧とする場合にチェックする。
- ⑦ 「ファイル生成」「ディレクトリ情報ファイル形式」ラジオボタン
ファイル一覧の形式を検索時に各情報を表示できる形式とする場合にチェックする。
- ⑧ 「ファイル生成」「ファイルパス」入力欄
生成するファイル一覧のファイル名（パス）を入力する。
※D&D 可能（v3.01 以降）／相対パス入力可能
- ⑨ 「ファイル生成」「参照」ボタン
ファイル参照で生成するファイル一覧のファイル名（パス）を指定する。
- ⑩ 「ディレクトリ選択」「文字コード」コンボボックス
生成する一覧ファイルの文字コードを指定する。
- ⑪ 「ディレクトリ選択」「一覧生成」ボタン
一覧ファイルを生成する。
- ⑫ 「閉じる」ボタン
ファイル一覧生成画面を閉じる。

5.3.2 検索除外タブ

検索時に対象から除外する設定を行う。



図 26 設定画面 (検索除外タブ)

- ① 「除外ファイル属性」 「システムファイルを除外」 チェックボックス
システムファイルを検索対象から除外する場合にチェックする。
除外しない場合、C ドライブ配下を検索するとアクセスエラーをなる可能性が高い。
- ② 「除外ファイル属性」 「隠しファイルを除外」 チェックボックス

隠しファイルを検索対象から除外する場合にチェックする。

③ ~~「検索除外設定」 「検索除外設定を使用する」 チェックボックス~~

~~検索文字列を記載時、判定から除外する文字列を使用する場合にチェックする。~~

~~キーはカスタマイズ可能。~~

~~例として、検索文字列「aaa」、除外したい文字列「bbb」の場合、~~

~~検索文字列「aaa-bbb」を入力し検索~~

~~→ ファイルやディレクトリに aaabbb や XXXaaaYYYbbb があってもヒットしない~~

~~※ 「検索文字列変換」 タブに移動 (v3.00 以降)~~

④ ~~「検索除外設定」 検索除外キー入力欄~~

~~除外する文字列を判別するキーを設定する。~~

~~一般的に「・」が使用されるが、サブタイトル等を「-XXX-」としている場合など、そのまま検索すると「・」で除外されてしまうため、「..」などに変更することができる。~~

~~※ 「検索文字列変換」 タブに移動 (v3.00 以降)~~

⑤ 「除外ファイル」 「除外ファイル設定を使用」 チェックボックス (v3.00 以降)

除外ファイルの設定を使用する場合にチェックする。

除外ファイルに設定すると検索の対象から外れる。

⑥ 「除外ファイル」 リスト (v3.00 以降)

除外ファイルのリスト。

削除する場合に選択する。

⑦ 「除外ファイル」 入力欄 (v3.00 以降)

除外するファイルを入力する。

ファイル名、ファイルパスのどちらでも可能。また、一部をワイルドカード「*」で置き換えることも可能。

⑧ 「除外ファイル」 「削除」 ボタン (v3.00 以降)

リストで選択した項目を削除する。

⑨ 「除外ファイル」 「追加」 ボタン (v3.00 以降)

入力欄に入力した内容をリストに追加する。

⑩ 「除外ディレクトリ」 「除外ディレクトリ設定を使用」 チェックボックス (v3.00 以降)

除外ディレクトリの設定を使用する場合にチェックする。

除外ディレクトリに設定すると検索の対象から外れる。

⑪ 「除外ディレクトリ」 リスト (v3.00 以降)

除外ディレクトリのリスト。

削除する場合に選択する。

⑫ 「除外ディレクトリ」入力欄 (v3.00 以降)

除外するディレクトリを入力する。

ディレクトリ名、ディレクトリのパスのどちらでも可能。また、一部をワイルドカード「*」で置き換えることも可能。

⑬ 「除外ディレクトリ」「削除」ボタン (v3.00 以降)

リストで選択した項目を削除する。

⑭ 「除外ディレクトリ」「追加」ボタン (v3.00 以降)

入力欄に入力した内容をリストに追加する。

5.3.3 検索文字列変換タブ

入力した検索文字列を自動的に変換する為の設定を行う。なお、一部の設定は検索画面と連動している。

設定は優先順位があり、競合する設定（同じ文字を使用した場合など）を行った場合、画面上に記載されている優先順位の高い方から実施される。

設定後、文字列を入力して変換の確認ができる。

コピーで検索文字を入力し、要らない部分を自動消去したい場合などに有効。

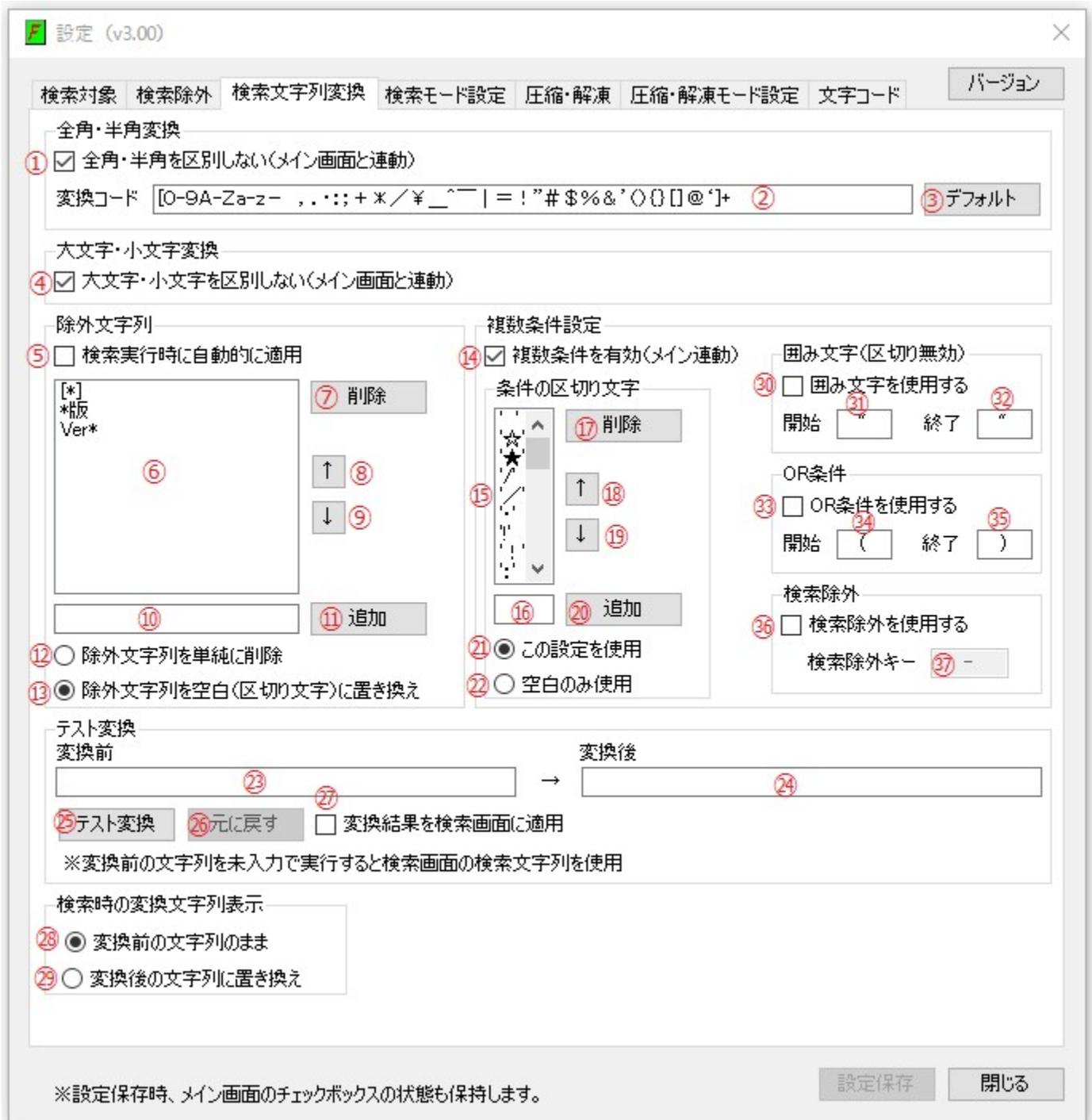


図 27 設定画面（検索文字列変換タブ）

- ① 「全角・半角変換」「全角・半角を区別しない」チェックボックス
検索時に全角・半角が異なってもヒットさせたい場合にチェックする。
※検索画面と連動
- ② 「全角・半角変換」文字コード入力欄
全角・半角の変換を行うための文字コードを入力する。
全角の「0~9」など記載されている文字を半角に変換し、検索時の一致判定を行っている。
VB の機能を利用しているため、変更する場合は、知識が必要。
- ③ 「全角・半角変換」「デフォルト」ボタン
文字コード入力欄を変更した後、初期値に戻したい場合に使用する。
- ④ 「大文字・小文字変換」「大文字・小文字を区別しない」チェックボックス
検索時に大文字・小文字が異なってもヒットさせたい場合にチェックする。
※検索画面と連動
- ⑤ 「除外文字列」「検索時に自動的に適用」チェックボックス
検索時に設定した文字列を自動的に削除したい場合にチェックする。
日付やバージョンなどを除外する場合に有効。
例を「⑩「除外文字列」文字列入力欄」に記載。
- ⑥ 「除外文字列」リスト欄
設定している除外したい文字列のリスト。
リストを操作する際、選択する。
- ⑦ 「除外文字列」「削除」ボタン
リストで選択した文字列をリストから削除する。
- ⑧ 「除外文字列」「↑」ボタン
リストで選択した文字列をリストの上位に移動する。
- ⑨ 「除外文字列」「↓」ボタン
リストで選択した文字列をリストの下位に移動する。
- ⑩ 「除外文字列」文字列入力欄
検索時に検索文字列から除外したい文字列を入力する。
RET キー押下で「追加」ボタンにタブストップを移動する。
ワイルドカード「*」と「**」が入力できる。「*」は連結している1つの文字列、「**」はそれ以前または以降の全文字列を削除する設定となる。

例として、

「Ver*」を設定し、検索文字列に「AAA Ver.1.1」と入力すると「AAA」で検索される。

「[*]」を設定し、検索文字列に「[YY/MM/DD]AAA」と入力すると「AAA」で検索される。

「+**」を設定し、検索文字列に「AAA+BBB CCC」と入力すると「AAA」で検索される。

「**|」を設定し、検索文字列に「AAA BBB | CCC」と入力すると「CCC」で検索される。

- ⑪ 「除外文字列」「追加」ボタン
文字列入力欄に入力した文字列をリストに追加する。
- ⑫ 「除外文字列」「除外文字列を単純に削除」ラジオボタン
除外した文字列を削除のみする場合にチェックする。
文字列が連結する場合があります、条件が変わってしまう可能性があるため、注意が必要。
- ⑬ 「除外文字列」「除外文字列を空白に置き換え」ラジオボタン
除外した文字列の代わりに空白を入れる場合にチェックする。
空白は文字区切り（複数条件）となるため、検索結果に影響しにくい。
- ⑭ 「複数条件設定」「複数条件を有効」ラジオボタン
区切り文字で分割された文字列を複数の条件として扱い、検索する場合にチェックする。
チェックした場合、文字列が前後した場合や、空白の数などが一致しない場合でもヒットさせることができる。
区切り文字を含む文字列を1つの文字列として扱える囲み文字やOR条件にも対応。(v3.00以降)
- ⑮ 「複数条件設定」「区切り文字指定」リスト欄
区切り文字として扱う文字（1文字）のリスト。
リストを操作する際、選択する。（区切り文字入力欄が変更される）
- ⑯ 「複数条件設定」「区切り文字指定」区切り文字入力欄
区切り文字を追加する場合に入力する。
RET キー押下で「追加」ボタンにタブストップを移動する。
※複数の文字を入力すると、まとめて設定することができる。
- ⑰ 「複数条件設定」「区切り文字指定」「削除」ボタン
リストから選択した区切り文字を削除する。
- ⑱ 「複数条件設定」「区切り文字指定」「↑」ボタン
リストで選択した区切り文字をリストの上位に移動する。
- ⑲ 「複数条件設定」「区切り文字指定」「↓」ボタン
リストで選択した区切り文字をリストの下位に移動する。

- ⑳ 「複数条件設定」「区切り文字指定」「追加」ボタン
区切り文字入力欄の文字列をリストに追加する。
- ㉑ 「複数条件設定」「区切り文字指定」「この設定を使用」ラジオボタン
リストの設定を区切り文字の設定とする場合にチェックする。
- ㉒ 「複数条件設定」「区切り文字指定」「空白のみ使用」ラジオボタン
リストの設定ではなく、空白のみを文字区切りとする場合にチェックする。
- ㉓ 「テスト変換」変更前文字列入力欄
テスト変換を行う文字列を入力する。
RET キー押下で文字列の変換を実行し、変更後の文字列表示欄に表示する。
※検索画面への反映が可能
- ㉔ 「テスト変換」変更後文字列表示欄
テスト変換を実行した結果の文字列を表示する。
- ㉕ 「テスト変換」「テスト変換／変換適用」ボタン
テスト変換を実行する。
「変換結果を検索画面に適用」がチェックされている場合は「変換適用」ボタンとなり、検索画面の検索文字列に結果がコピーされる。
- ㉖ 「テスト変換」「元に戻す」ボタン
「変換適用」で実行した場合、検索画面の文字列を置き換えるため、それを元の文字列に戻す。
- ㉗ 「テスト変換」「変換結果を検索画面に適用」チェックボックス
テスト変換を実施した際に、検索画面の検索文字列に変換の結果をコピーする場合にチェックする。
- ㉘ 「検索時の変換文字列表示」「変換前の文字列のまま」ラジオボタン
検索時に、変換された文字列は内部的に使用し、検索画面の検索文字列を置き換えない場合にチェックする。
- ㉙ 「検索時の変換文字列表示」「変換後の文字列に置き換え」ラジオボタン
検索時に、変換された文字列に検索画面の検索文字列を置き換える場合にチェックする。
- ㉚ 「複数条件設定」「囲み文字」「囲み文字を使用する」チェックボックス (v3.00 以降)
検索の条件を複数に区切らずに囲まれた文字列を1つの条件として使用する場合にチェックする。
囲み文字の開始文字と終了文字の間の文字列は1つの条件として扱われる。
OR 条件との競合も可能。

- ③① 「複数条件設定」「囲み文字」「開始」入力欄 (v3.00 以降)
囲み文字の開始を示す文字列を入力する。
文字数は複数でも可。
- ③② 「複数条件設定」「囲み文字」「終了」入力欄 (v3.00 以降)
囲み文字の終了を示す文字列を入力する。
文字数は複数でも可。
- ③③ 「複数条件設定」「OR 条件」「OR 条件を使用する」チェックボックス (v3.00 以降)
検索の条件として、OR (どちらかがあれば一致) 条件を有効にする場合にチェックする。
OR 条件の開始文字と終了文字の間の文字列は区切り文字毎の OR 条件として扱われる。
囲み文字との競合も可能。
- ③④ 「複数条件設定」「OR 条件」「開始」入力欄 (v3.00 以降)
OR 条件の開始を示す文字列を入力する。
文字数は複数でも可。
- ③⑤ 「複数条件設定」「OR 条件」「終了」入力欄 (v3.00 以降)
OR 条件の終了を示す文字列を入力する。
文字数は複数でも可。
- ③⑥ 「複数条件設定」「検索除外設定」「検索除外設定を使用する」チェックボックス
検索文字列を記載時、判定から除外する文字列を使用する場合にチェックする。
キーはカスタマイズ可能。
例として、検索文字列「aaa」、除外したい文字列「bbb」の場合、
検索文字列「aaa -bbb」を入力し検索
→ ファイルやディレクトリに aaabbb や XXXaaaYYYbbb があってもヒットしない
※「検索除外」タブから移動 (v3.00 以降)
- ③⑦ 「複数条件設定」「検索除外設定」検索除外キー入力欄
除外する文字列を判別するキーを設定する。
一般的に「-」が使用されるが、サブタイトル等を「-XXX-」としている場合など、そのまま検索すると「-」で除外されてしまうため、「--」などに変更することができる。
※「検索除外」タブから移動 (v3.00 以降)

5.3.4 文字コードタブ

ファイルを読み書きする際に使用する文字コードを設定する。(注3)

ファイル毎に文字コードを設定するものについては、設定画面表示時の初期値となる。

文字コードについては「6.3 (注3) 文字コード」を参照。

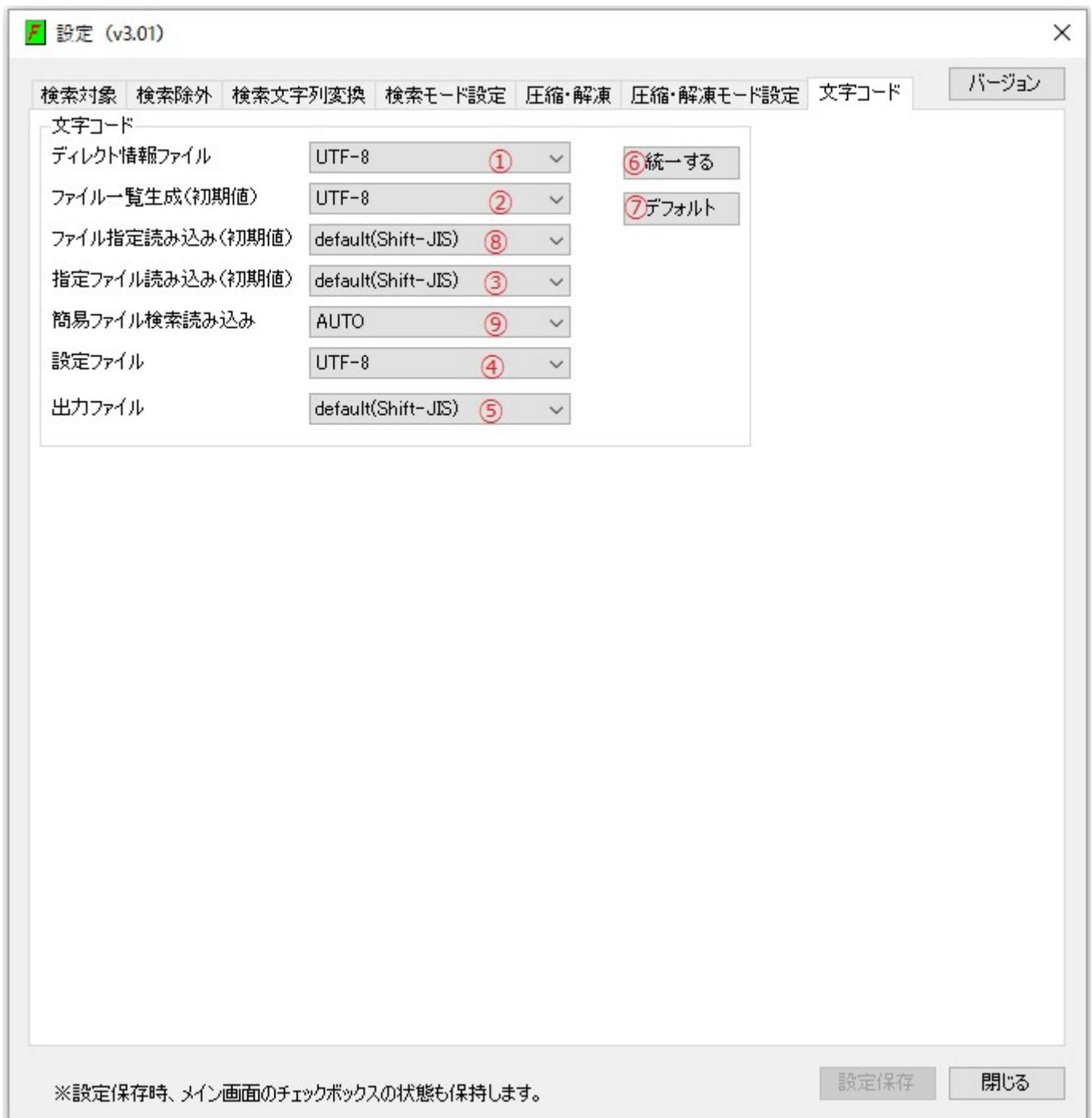


図 28 設定画面 (文字コードタブ)

- ① 「ディレクトリ情報ファイル」コンボボックス
高速化で生成されるディレクトリ情報ファイルのエンコードを選択する。

- ② 「ファイル一覧生成（初期値）」コンボボックス
ファイル一覧を生成する際のファイルのエンコードの初期値を選択する。
※ファイル一覧生成画面（v3.00以降）で変更可能

- ③ 「指定ファイル読み込み」コンボボックス
ディレクトリ指定の検索時に、指定したファイルの内容を検索するさいのファイルのエンコードを選択する。
※指定ファイルの設定時にファイル毎に変更可能

- ④ 「設定ファイル」コンボボックス
設定ファイルのエンコードを選択する。

- ⑤ 「出力ファイル」コンボボックス（V2.27～）
出力ファイル（履歴・結果の出力）のエンコードを選択する。

- ⑥ 「統一する」ボタン
エンコードを「ディレクトリ情報ファイル」の設定に統一する。（設定ファイルを除く）

- ⑦ 「デフォルト」ボタン
全エンコードの設定を初期値に戻す。

- ⑧ 「ファイル指定読み込み（初期値）」コンボボックス（v3.01以降）
ファイル指定で設定する際のファイルのエンコードの初期値を選択する。
※ファイル指定の設定時にファイル毎に変更可能

- ⑨ 「簡易ファイル検索読み込み」コンボボックス（v3.00以降）
ファイルを指定した簡易検索でファイルを読み込む際のエンコードを選択する。
※ファイル毎にエンコードが異なる可能性がある場合は「AUTO」を選択

5.3.5 検索モード設定タブ（旧表示タブ）

検索モードでの表示関連や検索結果を表示時のエディタの設定を行う。



図 29 設定画面（検索モード設定タブ）

- ① 「検索結果表示」「表示レベル」「簡易」ラジオボタン
検索結果のリストの種別が簡易表示にする。

- ② 「検索結果表示」「表示レベル」「詳細」ラジオボタン
検索結果のリストの種別が詳細表示にする。

簡易表示と詳細表示の対応を以下に記載する。(v3.00 以降で大幅変更)

表 6 簡易表示と詳細表示の対応表

簡易表示	詳細表示	備考
F	ファイル内	
D-D	ディレクトリ名	
D-F	ファイル名	
D-I	情報ファイル内	※ 3
D-S	指定ファイル内	
E-S	指定ファイル内 (簡易)	※ 4
E-D	ディレクトリ名 (簡易)	※ 4
E-F	ファイル名 (簡易)	※ 4
D-U	下位表示	※ 1
E-U	下位表示 (簡易)	※ 1 ※ 4
INFO	情報表示	※ 2
D-A	圧縮ファイル内ファイル名	v3.00 以降
E-A	圧縮ファイル内ファイル名 (簡易)	v3.00 以降 ※ 4
D-A-S	圧縮ファイル内の指定ファイル内	v3.00 以降
E-A-S	圧縮ファイル内の指定ファイル内 (簡易)	v3.00 以降 ※ 4
F-E	ファイル内 (簡易)	v3.00 以降 ※ 4
F-A	圧縮ファイル内のファイル内	v3.00 以降
F-E-A	圧縮ファイル内のファイル内 (簡易)	v3.00 以降 ※ 4
ERR	エラー (デバッグ用)	v3.00 以降

※ 1 : 「ヒット後の下位検索」がチェックされ「下位 1 層表示」がチェックされている場合のみ。ディレクトリがヒットするとその下位にあるファイル、ディレクトリを表示する。

※ 2 : 検索する対象がなくスキップした場合などに表示される情報

※ 3 : ディレクトリ情報ファイルに種別を持つようにしているため、現状未使用。

※ 4 : 「簡易」はメイン画面の簡易検索で検索箇所を指定、もしくは、圧縮・解凍モードで検索範囲を指定 (v3.00 以降) し、ヒットした場合に出力される。

- ③ 「検索結果表示」「表示件数」「制限なし」ラジオボタン
検索結果の表示件数を制限しない場合にチェックする。

- ④ 「検索結果表示」「表示件数」「制限あり」ラジオボタン
検索結果の表示件数を制限する場合にチェックする。件数は表示件数入力欄で設定する。

- ⑤ 「検索結果表示」「表示件数」表示件数入力欄
表示件数を制限した場合の表示件数を入力する。
※検索時に件数オーバーでキャンセル処理を行うが、キャンセルされる間に処理された内容は表示されるため、この件数をオーバーして表示することがある。
- ⑥ 「検索文字列履歴数」履歴件数入力欄
検索画面の検索文字列欄のコンテキストメニュー「検索文字列履歴」に、検索時に記録される検索文字列の履歴件数を入力する。
- ⑦ 「履歴表示」検索 1 件での表示件数入力欄
履歴画面への検索 1 件毎の登録件数を入力する。
- ⑧ 「履歴表示」全体の表示件数入力欄
履歴画面での全体の表示件数を入力する。
- ⑨ 「検索結果表示」「ファイルサイズ表示を単位付き」チェックボックス (v3.00 以降)
検索結果で表示されるファイルサイズを MB、KB などの単位をつける場合にチェックする。
- ⑩ 「テキストエディタ設定」「システムの関連付けにまかせる」ラジオボタン (v3.00 以降)
検索結果からファイル内容を表示させる場合のツールを Windows に任せる場合にチェックする。(注 4)
- ⑪ 「テキストエディタ設定」「以下の設定を使用」ラジオボタン (v3.00 以降)
検索結果からファイル内容を表示させる場合のツールを自分で設定する場合にチェックする。
※パラメータで行番号を追加することで、検索行にジャンプするために使用する。
- ⑫ 「テキストエディタ設定」「エディタ設定」対応拡張子リスト (v3.00 以降)
エディタの設定を使用する拡張子のリスト。
削除する場合に選択する。
- ⑬ 「テキストエディタ設定」「エディタ設定」「削除」ボタン (v3.00 以降)
リストで選択した項目を削除する。
- ⑭ 「テキストエディタ設定」「エディタ設定」拡張子入力欄 (v3.00 以降)
エディタの設定を使用する拡張子を入力する。
- ⑮ 「テキストエディタ設定」「エディタ設定」「追加」ボタン (v3.00 以降)
拡張子入力欄の拡張子をリストに追加する。

- ⑩ 「テキストエディタ設定」「エディタ設定」 テキストエディタ実行ファイル入力欄 (v3.00 以降)
起動するエディタを入力する。
入力は、フルパスが基本となるが、エディタ (NotePad などのフルパスでなくても動作するもの) によってはファイル名のみで可。確認は「参照」ボタンの初期状態で可。(v3.01 以降)
- ⑪ 「テキストエディタ設定」「エディタ設定」「参照」ボタン (v3.00 以降)
ダイアログからエディタ (実行ファイル) を選択する。
入力欄の設定が有効な場合、初期状態としてその格納先を示す。(v3.01 以降)
- ⑫ 「テキストエディタ設定」「エディタ設定」「自動取得」ボタン (v3.00 以降)
拡張子に関連付いた実行ファイルを自動取得する。(注4)
対応拡張子リストで選択した拡張子、もしくは先頭の拡張子を元に取得するため、リストが登録されていないと取得できない。
- ⑬ 「テキストエディタ設定」「エディタ設定」追加オプション入力欄 (v3.00 以降)
テキストエディタを起動時に付加するパラメータを設定する。
検索結果の備考欄に行番号を表示 (v3.00 以降) するようにしたため、それを元に表示後に自動で検索一致行を表示することが可能となる。
追加オプション入力欄で自動変換されるパラメータは、以下の通り。

表 7 エディタ起動時の変換パラメータ

パラメータ	説明
<FILE>	ファイル名
<NUM>	行番号 ※備考に記載がある場合

起動時に指定行を表示させるための、エディタ毎のパラメータの設定サンプルは以下の通り。

表 8 行を指定して起動するパラメータ

エディタ名	サンプル
秀丸	/j<NUM>
サクラエディタ	-Y=<NUM>
NoEditor	/I=<FILE>=<NUM>
TeraPad	/jl=<NUM>
NotePad	※不可

なお、行番号以外の固定パラメータの追記は可能。

5.3.6 圧縮・解凍タブ

圧縮・解凍の DLL や対応する拡張子の追加・削除、使用する拡張子の設定などを行う。
ツールと拡張子の関連付けを行うこともできる。

※DLL の利用については、一切関知しない。自己責任で行うこと

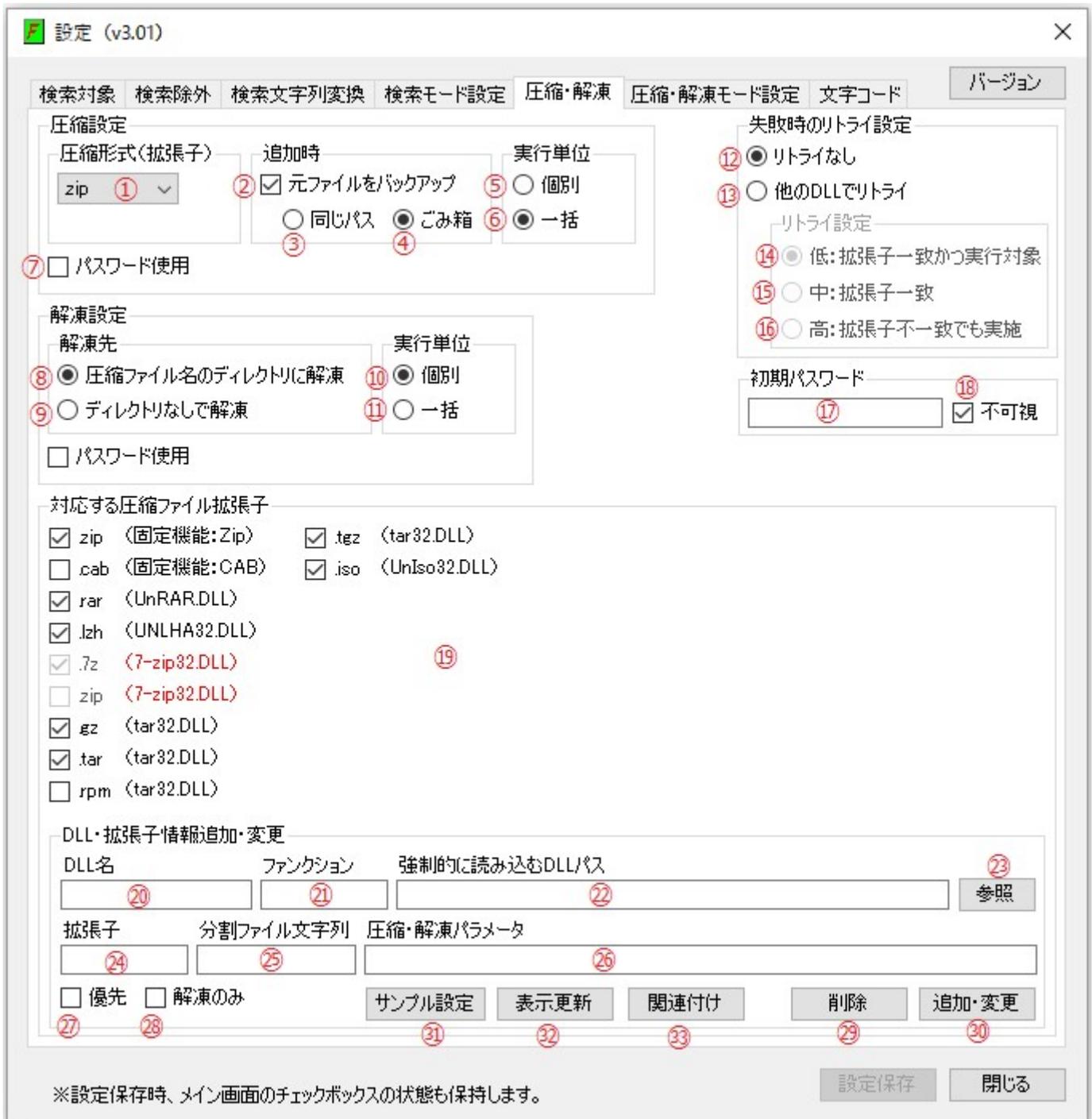


図 30 設定画面 (圧縮・解凍タブ)

- ① 「圧縮設定」「圧縮形式」コンボボックス
圧縮する形式（拡張子で表示）を選択する。
圧縮・解凍モード時のメイン画面の「圧縮形式」と連動。
表示される形式は、使用する拡張子（チェックがついたもの）かつ解凍のみにチェックがないもの。
- ② 「圧縮設定」「追加時」「元ファイルをバックアップ」チェックボックス
圧縮ファイルが存在していて、圧縮ファイルに追加する場合に、元のファイルをバックアップする場合にチェックする。
- ③ 「圧縮設定」「追加時」「同じパス」ラジオボタン
元のファイルをバックアップ時、同じパスにバックアップファイル（.cbk）を生成する場合にチェックする。
- ④ 「圧縮設定」「追加時」「ごみ箱」ラジオボタン
元のファイルをバックアップ時、ごみ箱にバックアップファイル（.cbk）を生成する場合にチェックする。
- ⑤ 「圧縮設定」「実行単位」「個別」ラジオボタン
追加した DLL を使用の際、圧縮をファイル単位に行う場合にチェックする。
個別に行うためには、追記が可能な DLL である必要がある。
ファイル単位で圧縮を行うため、進捗バーの状態が各ファイルのサイズを元にした表示となり正確性が向上する。
キャンセル操作は、DLL が表示するウィンドウ（DLL に依存）でキャンセルすると、次のファイルの圧縮が継続してしまう（もしくはエラーとなる）ため、メイン画面から行うこと。メイン画面からキャンセルすると次ファイル開始の際に全体のキャンセルとなる。
※「一括」での使用を推奨
- ⑥ 「圧縮設定」「実行単位」「一括」ラジオボタン
追加した DLL を使用の際、圧縮を選択した全ファイルをまとめて行う場合にチェックする。
まとめて圧縮を行うため、進捗バーの状態が途中か終了の 2 つの状態しか示すことができない。
キャンセル操作は、メイン画面から行っても、まとめて 1 処理として実行されているため、キャンセルできないため、DLL が表示するウィンドウ（DLL に依存）でキャンセルすること。
※「一括」での使用を推奨
- ⑦ 「圧縮設定」「パスワード使用」チェックボックス
圧縮する際にパスワードを使用する場合にチェックする。メイン画面と連動。
パスワードが使用可能かは DLL や圧縮形式により異なる。なお、固定機能の ZIP、CAB の圧縮時には使用できない。

- ⑧ 「解凍設定」「解凍先」「圧縮ファイル名のディレクトリに解凍」ラジオボタン
解凍先として、ディレクトリに解凍する場合にチェックする。
その際のディレクトリ名は、圧縮ファイル名（拡張子なし）となる。
- ⑨ 「解凍設定」「解凍先」「ディレクトリなしで解凍」ラジオボタン
解凍先として、圧縮ファイルが存在するパスに解凍する場合にチェックする。
- ⑩ 「解凍設定」「実行単位」「個別」ラジオボタン
追加した DLL を使用の際、解凍を圧縮ファイル内のファイル単位に行う場合にチェックする。
ファイル単位で解凍を行うため、進捗バーの状態が各ファイルのサイズを元にした表示となり正確性が向上する。
キャンセル操作は、DLL が表示するウィンドウ（DLL に依存）でキャンセルすると、次のファイルの解凍が継続してしまうのでため、メイン画面から行うこと。メイン画面からキャンセルすると次ファイル開始の際に全体のキャンセルとなる。
また、ファイル単位に解凍出来たか確認するため、「元に戻す」操作での復旧が正確になる。
※「個別」での使用を推奨
- ⑪ 「解凍設定」「実行単位」「一括」ラジオボタン
追加した DLL を使用の際、解凍を圧縮ファイル全体で行う場合にチェックする。
まとめて解凍を行うため、進捗バーの状態が途中か終了の 2 つの状態しか示すことができない。
キャンセル操作は、メイン画面から行っても、まとめて 1 処理として実行されているため、キャンセルできないため、DLL が表示するウィンドウ（DLL に依存）でキャンセルすること。
また、ファイル単位に解凍出来たか確認できないため、「元に戻す」操作での復旧が不正確になる。
※「個別」での使用を推奨
- ⑫ 「失敗時のリトライ設定」「リトライなし」ラジオボタン
対応した拡張子の設定が複数あり、圧縮・解凍に失敗場合、他の DLL でリトライすることができる。
リトライしない場合にチェックする。
- ⑬ 「失敗時のリトライ設定」「他の DLL でリトライ」ラジオボタン
対応した拡張子の設定が複数ある場合に、他の DLL でリトライすることができる。
リトライする場合にチェックする。
- ⑭ 「失敗時のリトライ設定」「リトライ設定」「低：拡張子一致かつ実行対象」ラジオボタン
リトライ際の実行対象を拡張子が同じで、実行のチェックがついているもののみとする場合にチェックする。
- ⑮ 「失敗時のリトライ設定」「リトライ設定」「中：拡張子一致」ラジオボタン
リトライ際の実行対象を拡張子が同じものとする場合にチェックする。
実行のチェックがついていない拡張子でも実行される。

- ⑯ 「失敗時のリトライ設定」「リトライ設定」「高：拡張子不一致でも実施」ラジオボタン
リトライ際の実行対象を拡張子設定の全てとする場合にチェックする。
設定がなくてもとりあえず全ての DLL で実行するため注意。
tar32.DLL など多くの拡張子をサポートする DLL が設定されている場合に有効。
- ⑰ 「初期パスワード」入力欄
パスワードを使用する場合に、入力画面に表示される初期値を設定する。
- ⑱ 「初期パスワード」「不可視」チェックボックス
入力欄のパスワードが見れないようにする場合にチェックする。
- ⑲ 「対応する圧縮ファイル拡張子」一覧
設定済みの拡張子と対応する DLL 名の一覧を示す。
使用できる状態のものが活性、使用できない (DLL が存在しない) 状態のものが非活性 (DLL 名が赤色) となる。
表示内容は、チェックボックス、拡張子、使用する DLL 名となり、操作など詳細を以下に示す。

表 9 対応する圧縮ファイル拡張子一覧の操作

要素	操作	動作	用途
チェックボックス / 拡張子名	クリック	DLL・拡張子の情報を「DLL・拡張子情報追加・変更」に表示	拡張子・DLL の情報の削除・変更時、追加のベースに使用
	ダブルクリック	チェックの状態を変更 ※通常はクリックなので注意	拡張子の設定を有効／無効を設定する
	選択後のスペース／エンターキー	チェックの状態を変更	拡張子の設定を有効／無効を設定する
DLL 名	クリック	DLL の情報を「DLL・拡張子情報追加・変更」に表示	DLL 単位の情報の削除・変更時、追加のベースに使用
	ダブルクリック	チェックの状態を変更 ※通常はクリックなので注意	拡張子の設定を有効／無効を設定する

- ⑳ 「DLL・拡張子情報追加・変更」「DLL 名」入力欄
DLL 名称を入力する。
入力は、「XXXX.dll」の形式とすること。
DLL のパスを指定したい場合は「強制的に読み込む DLL パス」に入力する。
- ㉑ 「DLL・拡張子情報追加・変更」「ファンクション」入力欄
統合ファイル形式の DLL の場合、DLL 特有の特定の文字列 (ファンクション) + 固定文字列で API が作成されており、「DLL 名」で入力した DLL のファンクションを入力する。

DLL のファンクションは各 DLL の API 仕様書を参照。

例：XXXGetVersion

UNLHA32.DLL では UnlhaGetVersion なのでファンクションは「Unlha」

tar32.DLL では TarGetVersion なのでファンクションは「Tar」

- ② 「DLL・拡張子情報追加・変更」「強制的に読み込む DLL パス」入力欄
DLL のパスを指定する場合に入力する。
圧縮・解凍の DLL はツール毎に勝手な場所にインストールされ、複数のパスに存在することが多々あり、最新版をインストールしてもそれが読み込まれない場合などに使用する。
入力は、DLL ファイル名まで行うこと。「C:\¥AAA¥BBB¥CCC.dll」
※現在読み込まれる DLL のパスは「参照」ボタンから調べることが可能
- ③ 「DLL・拡張子情報追加・変更」「強制的に読み込む DLL パス」「参照」ボタン
DLL のパスを参照から指定する。
初期値は、現在読み込まれる DLL のパスとなる。
- ④ 「DLL・拡張子情報追加・変更」「拡張子」入力欄
拡張子を指定する場合に入力する。
拡張子の先頭の「.」は付けなくても自動で付加する。
- ⑤ 「DLL・拡張子情報追加・変更」「分割ファイル文字列」入力欄
圧縮ファイルの分割ファイルを判断したい場合に入力する。
圧縮ファイルの形式によって分割ファイルの命名方法が異なるので注意。
例として、RAR ファイルの分割ファイルは「AAA.part1.rar」、「AAA.part2.rar」…であり、「.part[num]」と設定する。
解凍時に「AAA.part1.rar」、「AAA.part2.rar」…を指定した場合、この設定がない場合は、複数の圧縮ファイルとして全ファイルの解凍を実施するが、設定がある場合は、先頭のみに対して解凍を実施する。
また、圧縮・解凍モード表示のツリーの表示を先頭のファイルのみとすることができる。
- ⑥ 「DLL・拡張子情報追加・変更」「圧縮・解凍パラメータ」入力欄
DLL によって圧縮・解凍時に指定するパラメータが異なるため、必ず入力すること。
パラメータの指定方法は、各 DLL のコマンド仕様書を参照。
入力するパラメータは全解凍、個別解凍（全体解凍に*が含まれる場合は省略可）、圧縮の3つが必要で「|」で区切る。
パスの指定など実行時に置き換えに使用する変換パラメータは以下の通り。

表 10 圧縮・解凍パラメータの変換パラメータ

変換パラメータ	置き換え値	全体 解凍	個別 解凍	圧縮
[ARC]	圧縮ファイルパス	○	○	○
[DEST_DIR]	出力先ディレクトリパス (存在しなくても可)	○	○	—
[TARGET]	解凍対象の圧縮ファイル内のパス。	—	○	△
[TARGET_AST]	解凍対象の圧縮ファイル内のパス。(ディレクトリの場合に*を付加) ※1	—	○	△
[TARGET_AST_AST]	解凍対象の圧縮ファイル内のパス。(ディレクトリの場合に*.*を付加) ※1	—	○	△
[RELATIVE]	相対ディレクトリパス (圧縮時の基準)	—	—	○
[R_TARGET]	相対パス使用時、圧縮対象の残りのパス	—	—	○
[R_TARGET_AST]	相対パス使用時、圧縮対象の残りのパス (ディレクトリの場合に*を付加) ※1	—	—	○
[R_TARGET_AST_AST]	相対パス使用時、圧縮対象の残りのパス (ディレクトリの場合に*.*を付加) ※1	—	—	○
[PASSWORD]	パスワードの指定 (使用しない場合はスイッチを含め自動削除)	○	○	○

※ ○ : 使用可、△ : 使用は出来るが、通常は使わない、— : 使用不可

※1 : ディレクトリを指定して圧縮や解凍を実行する場合、ディレクトリの中身の全てを示す方法がDLL毎に異なり、「ディレクトリ/*」や「ディレクトリ/*.*」とする必要がある場合に「_AST」がついた変換パラメータを使用する。なお、ファイルを指定する場合には「*」は付加されない。

例 : 7-zip32.DLL の場合

```
x [ARC] -p[PASSWORD] -o[DEST_DIR] |
x [ARC] -p[PASSWORD] -o[DEST_DIR] [TARGET] |
a [ARC] -p[PASSWORD] [RELATIVE] [R_TARGET_AST]
```

「x」が解凍、「a」が圧縮、「-p」がパスワード (使用しない場合は自動削除)、「-O」が出力先パスを示す。1 段目が全体解凍用、2 段目が個別解凍用 (全体用に「*」がないため省略不可)、3 段目が圧縮用で、「|」で区切る。

例 : UNLHA32.DLL の場合

```
x -r1 [ARC] [DEST_DIR] * |
|
a -d1 [ARC] [RELATIVE] [R_TARGET]
```

「x」が解凍、「a」が圧縮、「-r1」は再起設定、「-d1」はディレクトリの配下の設定を示す。1 段目が全体解凍用、2 段目が個別解凍用 (全体用に「*」 ([TARGET]と同等) が設定されているため省略)、3 段目が圧縮用で、「|」で区切る。

- ⑳ 「DLL・拡張子情報追加・変更」 「優先」 チェックボックス
 同じ拡張子の設定を複数の DLL によって行っていた場合、優先する設定とする場合にチェックする。
 どの拡張子の設定にもチェックをつけていない場合は、最後に追加した設定が優先される。
- ㉑ 「DLL・拡張子情報追加・変更」 「解凍のみ」 チェックボックス
 DLL によって解凍のみしか使用できない場合にチェックする。
 チェックした場合、圧縮形式に表示されなくなる。
- ㉒ 「DLL・拡張子情報追加・変更」 「削除」 ボタン
 選択し、表示されている拡張子、もしくは DLL の情報を削除する。
- ㉓ 「DLL・拡張子情報追加・変更」 「追加・変更」 ボタン
 「DLL 名」と「拡張子」が一致したものがあれば変更、一致しない場合は追加する。
- ㉔ 「DLL・拡張子情報追加・変更」 「サンプル設定」 ボタン
 DLL、拡張子のサンプル設定を行う。
 追加する DLL 単位にダイアログが出力されるため、必要な設定を追加する。
 サンプルとし設定可能な DLL と、インストール手順を以下に示す。
 なお、他の解凍ツールをインストールしている場合、参照可能な位置にあれば、DLL をインストールしなくても使用できる。(インストールされていないものは非活性)

表 11 サンプル設定と DLL のインストール方法

DLL 名	拡張子	インストール方法	備考
固定機能 : Zip	.zip	不要 ※ZipArchive クラスを使用	パスワード使用不可
固定機能 : CAB	.cab	不要 ※NuGet パッケージを使用	パスワード使用不可 追記不可
UnRAR.DLL (固定機能)	.rar	https://www.rarlab.com/rar_add.htm で「UnRAR.dll」をダウンロード。 実行すると「C:¥Program Files (x86) ¥UnrarDLL¥」が生成される。	解凍のみ ※「Rar.exe」を用意すると圧縮 も可能 (v3.02 以降)
Rar.exe 追加 (v3.02 以降)		https://www.rarlab.com/download.htm などから WinRAR をダウンロード 中に入っている Rar.exe を以下のい ずれかに格納。 (高)「強制的に読み込む DLL パス」 →「ツールの実行パス」→「WinRAR のインストール先 (レジストリ参照)」 (低)	圧縮のみ (v3.02 以降) ※既存の設定ファイルを読み込 むと「解凍のみ」がチェックさ れているので、チェックを外す。 圧縮用のパラメータは変更可 能。

UNLHA32.DLL (サンプル)	.lzh	Vector や窓の杜などから取得。 実行すると「C:¥ProgramFiles (x86) ¥ArchiverDll¥UNLHA32¥」が生成される。	パスワード使用不可
7-zip32.DLL (サンプル)	.7z	Vector や窓の杜などから取得。	
	.zip	展開後、7-zip32.dll を 「C:¥Windows¥System」にコピー	
tar32.DLL (サンプル)	.gz	Vector や窓の杜などから取得。	使用できる拡張子は他にも複数あり
	.tar	展開後、tar32.dll を	
	.rpm	「C:¥Windows¥System」にコピー	
	.tgz		
UnIso32.DLL (サンプル)	.iso	統合アーカイバプロジェクトなどから取得。 展開後、UnIso32.dll を 「C:¥Windows¥System」にコピー	解凍のみ
UNRAR32.DLL (サンプル)	.rar	統合アーカイバプロジェクトなどから取得。 実行すると「C:¥ProgramFiles (x86) ¥ArchiverDll¥UNRAR32¥」が生成される。	解凍のみ ※UnRAR.DLL を使用している ので、標準機能の使用を推奨
cab32.DLL (サンプル)	.cab	統合アーカイバプロジェクトなどから取得。 展開後、cab32.dll を 「C:¥Windows¥System」にコピー	追記不可 サブディレクトリの圧縮に再起 設定「-r」が必要だが、指定場 所以外も実施される

※上記以外の DLL も API の形式が同じであれば使用可能。(統合アーカイバプロジェクト「<http://www.csdinc.co.jp/archiver/>」を参照)

※他に解凍ツールを入れている場合、他のディレクトリにインストールされた DLL を参照してしまう可能性が高い。その場合は、「強制的に読み込む DLL パス」を設定する。

※タブストップなし

- ③ 「DLL・拡張子情報追加・変更」「表示更新」ボタン
一覧の更新を行う。

DLL が存在しない状態から DLL を追加した場合の更新などに使用する。

なお、一覧は初期状態で拡張子設定の追加順に表示されているが、DLL の追加順 (DLL 毎にまとまる) に変更される。(次回ツール起動時は拡張子設定の追加順の表示に戻る)

※タブストップなし

③ 「DLL・拡張子情報追加・変更」「関連付け」ボタン

圧縮ファイルの拡張子と本ツールの関連付けの設定・解除を行う。

メッセージボックスが表示され、設定・解除を選択し、拡張子全部（設定はチェック箇所のみ）か拡張子毎に関連付けの設定・解除を行う。

関連付けを実行後、関連付けられた圧縮ファイルを実行すると本ツールが起動され、解凍の実行もしくは、そのファイルの表示を行う。（解凍か表示かは設定に依存）

また、エクスプローラーの「プログラムから開く」にツール名が表示されるようになる。

関連付けの設定は、本ツールの実行ファイルのパスと結びつくため、関連付け後に実行ファイルを移動すると、起動しなくなる。また、実行ファイルをコピーして複数使用している場合は、関連付けを実行したファイルに関連付けされる。

実行ファイルを移動したり、他の実行ファイルに関連付けしたい場合は、再度関連付けを実行する。

関連付けの解除は、圧縮ファイル拡張子の設定とツールの設定の二段階で行っており、拡張子の設定を解除後にツールの解除を行うか確認する。ツールの解除を行わない場合、エクスプローラーの「プログラムから開く」に残る。ツールの解除を行った場合、エクスプローラーの「プログラムから開く」からも削除される。

実行ファイルをコピーして複数使用している場合は、どのファイルからも削除することができる。

※タブストップなし

※関連付け後、アイコンが切り替わらない場合、**Windows** を再起動することで切り替わる。

※関連付け後、チェックを外した場合、関連付けは残るので注意。その場合はアイコンへのドロップ、関連付け圧縮ファイルの起動時に解凍できない。

※関連付けの方法は、**Windows** のバージョン毎に異なるため完全ではない。（現状 **Windows8** の仕様を元に、**Windows10** で動作を確認）

5.3.7 圧縮・解凍モード設定タブ

圧縮・解凍モードの各種設定を行う。

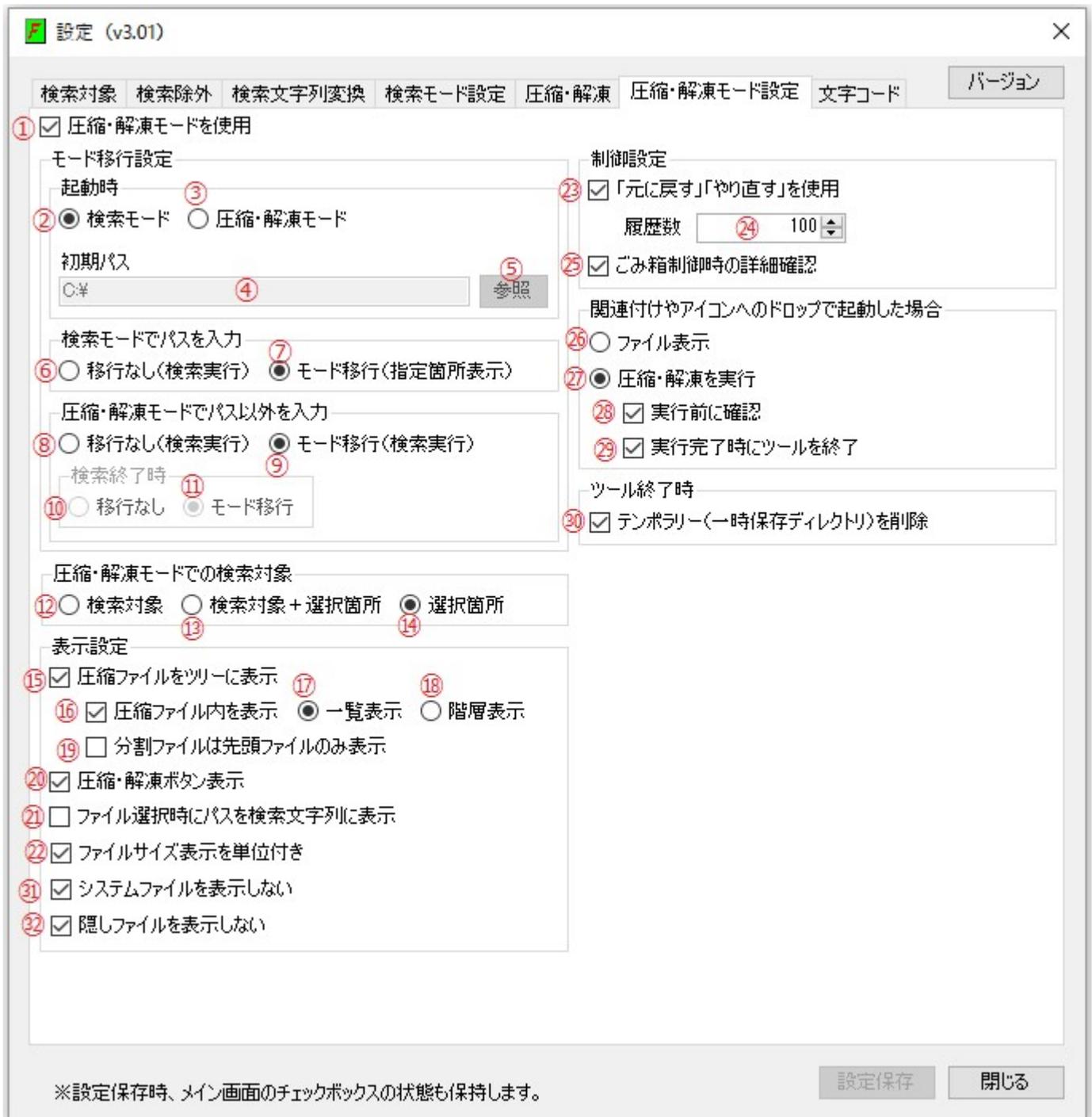


図 31 設定画面（圧縮・解凍モード設定タブ）

- ① 「圧縮・解凍モードを使用」チェックボックス
圧縮・解凍モードを使用する場合にチェックする。
- ② 「モード移行設定」「起動時」「検索モード」ラジオボタン
ツール起動時に検索モードで起動する場合にチェックする。

- ③ 「モード移行設定」「起動時」「圧縮・解凍モード」ラジオボタン
ツール起動時に圧縮・解凍モードで起動する場合にチェックする。
- ④ 「モード移行設定」「起動時」「初期パス」入力欄
ツール起動時に圧縮・解凍モードで表示するパスを設定する。
- ⑤ 「モード移行設定」「起動時」「初期パス」入力欄
ツール起動時に圧縮・解凍モードで表示するパスをダイアログから設定する。
- ⑥ 「モード移行設定」「検索モードでパスを入力」「移行なし（検索実行）」ラジオボタン
検索モードで、検索文字列に存在するパスを入力時、モード移行せずに検索を実行する場合にチェックする。
- ⑦ 「モード移行設定」「検索モードでパスを入力」「モード移行（指定箇所表示）」ラジオボタン
検索モードで、検索文字列に存在するパスを入力時、圧縮・解凍モードに移行し、検索文字列に入力されたパスを表示する場合にチェックする。
- ⑧ 「モード移行設定」「圧縮・解凍モードでパス以外を入力」「移行なし（検索実行）」ラジオボタン
圧縮・解凍モードで、検索文字列に存在するパス以外を入力時、モード移行せずに検索を実行する場合にチェックする。
- ⑨ 「モード移行設定」「圧縮・解凍モードでパス以外を入力」「モード移行（検索実行）」ラジオボタン
圧縮・解凍モードで、検索文字列に存在するパス以外を入力時、検索モードに移行し、検索を実行する場合にチェックする。
- ⑩ 「モード移行設定」「圧縮・解凍モードでパス以外を入力」「検索終了時」「移行なし」ラジオボタン
圧縮・解凍モードで、モード移行せずに検索を実行し、検索が終了した際、モード移行しない場合にチェックする。
※⑧「移行なし」がチェックされている場合のみ
- ⑪ 「モード移行設定」「圧縮・解凍モードでパス以外を入力」「検索終了時」「移行なし」ラジオボタン
圧縮・解凍モードで、モード移行せずに検索を実行し、検索が終了した際、検索モードに移行する場合にチェックする。
※⑧「移行なし」がチェックされている場合のみ
- ⑫ 「圧縮・解凍モードでの検索対象」「検索対象」ラジオボタン
圧縮・解凍モードで検索を実行する際の検索対象を、検索モード時と同様とする場合にチェックする。
圧縮・解凍モードで選択したファイルやディレクトリは検索対象とならない。

- ⑬ 「圧縮・解凍モードでの検索対象」「検索対象+選択箇所」ラジオボタン
圧縮・解凍モードで検索を実行する際の検索対象を、検索モード時の対象に加え、圧縮・解凍モードで選択したファイルやディレクトリとする場合にチェックする。
- ⑭ 「圧縮・解凍モードでの検索対象」「選択箇所」ラジオボタン
圧縮・解凍モードで検索を実行する際の検索対象を、圧縮・解凍モードで選択したファイルやディレクトリとする場合にチェックする。
検索モード時の検索対象は、検索対象とはならない。
- ⑮ 「表示設定」「圧縮ファイルをつりに表示」チェックボックス
圧縮・解凍モードの「ツリー」表示に、圧縮ファイルを追加する場合にチェックする。
- ⑯ 「表示設定」「圧縮ファイルをつりに表示」「圧縮ファイル内を表示」チェックボックス
圧縮・解凍モードで圧縮ファイルを選択時、圧縮ファイル内のファイルを「ファイルリスト」に表示する場合にチェックする。
チェックしない場合、ツリー上での圧縮ファイル内の階層表示も行われない。
- ⑰ 「表示設定」「圧縮ファイルをつりに表示」「圧縮ファイル内を表示」「一覧表示」ラジオボタン
圧縮ファイル内を表示する際、一覧表示（「ディレクトリ≡ファイル名」の形式で全ファイル表示）とする場合にチェックする。
※圧縮ファイル内の全ファイルを表示するため、ファイル数が多い場合は注意。
なお、ファイル数が多い場合は警告を出力（v3.01以降）
- ⑱ 「表示設定」「圧縮ファイルをつりに表示」「圧縮ファイル内を表示」「階層表示」ラジオボタン
圧縮ファイル内を表示する際、階層表示（ディレクトリの階層毎の表示）とする場合にチェックする。
- ⑲ 「表示設定」「圧縮ファイルをつりに表示」「分割ファイルは先頭のみ表示」チェックボックス
ツリーに分割された圧縮を表示する際、先頭ファイルのみとする場合にチェックする。
※拡張子の設定で、「分割ファイル文字列」が正しく設定されている場合のみ有効
- ⑳ 「表示設定」「圧縮・解凍ボタン表示」ラジオボタン
圧縮・解凍モードでのメイン画面に圧縮・解凍関連の設定を表示する場合にチェックする。
圧縮・解凍の実行はコンテキストメニューから、設定関連は「圧縮・解凍」タブと同じため、表示していなくても問題はない。
- ㉑ 「表示設定」「ファイル選択時にパスを検索文字列に表示」チェックボックス
ファイルやディレクトリを選択した際、そのパスを「検索文字列」欄に表示する場合にチェックする。

なお、複数選択時は先頭のパスを表示。

※検索文字列に表示しない時にパスを取得したい場合は、メイン画面右下のパス表示をダブルクリックで代用するよい。クリップボードにディレクトリパス（ファイル名無し）をコピーできる。

- ② 「表示設定」「ファイルサイズ表示を単位付き」チェックボックス
「ファイルリスト」のファイル表示で、サイズ欄を単位（MB、KB など）付きとする場合にチェックする。
- ③ 「制御設定」「元に戻す」「やり直す」を使用」チェックボックス
圧縮・解凍モードでファイル操作をした際、「元に戻す」（Ctrl+Z）、「やり直す」（Ctrl+Y）操作を有効にする場合にチェックする。
- ④ 「制御設定」「元に戻す」「やり直す」を使用」「履歴数」入力欄
「元に戻す」（Ctrl+Z）、「やり直す」（Ctrl+Y）操作の履歴数を設定する。
- ⑤ 「制御設定」「ごみ箱制御時の詳細確認」チェックボックス
ファイルの削除の際、通常はごみ箱に移動しているが、その移動が正常に行われたかごみ箱を確認する場合にチェックする。
非常に処理時間がかかるため、大量にファイルを削除する場合にはチェックを外すこと。
- ⑥ 「関連付けやアイコンへのドロップで起動した場合」「ファイル表示」ラジオボタン
関連付けられた圧縮ファイルの実行やツールアイコンへファイルをドロップすることができるが、そのファイルを表示する場合にチェックする。
※圧縮・解凍の実行は手動で行う必要あり
- ⑦ 「関連付けやアイコンへのドロップで起動した場合」「圧縮・解凍を即実行」ラジオボタン
関連付けられた圧縮ファイルの実行やツールアイコンへファイルをドロップすることができるが、そのファイルを即時、圧縮・解凍する場合にチェックする。
※圧縮先・解凍先の指定はできないので注意
- ⑧ 「関連付けやアイコンへのドロップで起動した場合」「圧縮・解凍を即実行」「実行前に確認」チェックボックス（v3.01以降）
圧縮・解凍を実行する前に、確認を行う場合にチェックする。
- ⑨ 「関連付けやアイコンへのドロップで起動した場合」「圧縮・解凍を即実行」「実行完了時にツール終了」チェックボックス（v3.01以降）
圧縮・解凍が完了時にツールを終了する場合にチェックする。

※ツールを別に起動していた場合は終了しない。

- ⑩ 「ツール終了時」「テンポラリー（一時保存ディレクトリ）を削除」チェックボックス（v3.01以降）
テンポラリーのファイルは基本的に、使用が完了した段階で削除しているが、他のツールで使用している場合や、強制終了した場合など、残ってしまう可能性がある。
本ツールを終了時に、テンポラリー（一時保存ディレクトリ）を削除する場合にチェックする。
なお、テンポラリーは実行ファイルがあるパスの「temp」ディレクトリ。
- ⑪ 「表示設定」「システムファイルを表示しない」チェックボックス（v3.01以降）
階層ツリーやファイルリストにシステムファイルを表示しない場合にチェックする。
- ⑫ 「表示設定」「隠しファイルを表示しない」チェックボックス（v3.01以降）
階層ツリーやファイルリストに隠しファイルを表示しない場合にチェックする。

5.3.8 バージョンタブ

~~バージョン画面の表示を行う。~~

~~バージョン画面自体は共通化の為、別画面で表示する。~~



~~図 32 設定画面 (バージョンタブ)~~

① ~~「バージョン画面表示」ボタン~~

~~バージョン画面を表示する。~~

② ~~「設定保存」ボタン~~

~~設定を保存し、設定画面を閉じる。~~

~~保存しない場合、起動中は変更した内容が反映されているが、次回起動時には反映されない。~~

~~※設定画面共通~~

※設定画面右上の「バージョン」ボタンからバージョン画面に直接遷移（v3.00 以降）

5.3.8.1 バージョン画面

設定画面の「バージョン」ボタンから起動する。(v3.00 以降)

現バージョンの表示や最新バージョンの表示、最新ファイルのダウンロードを行う。

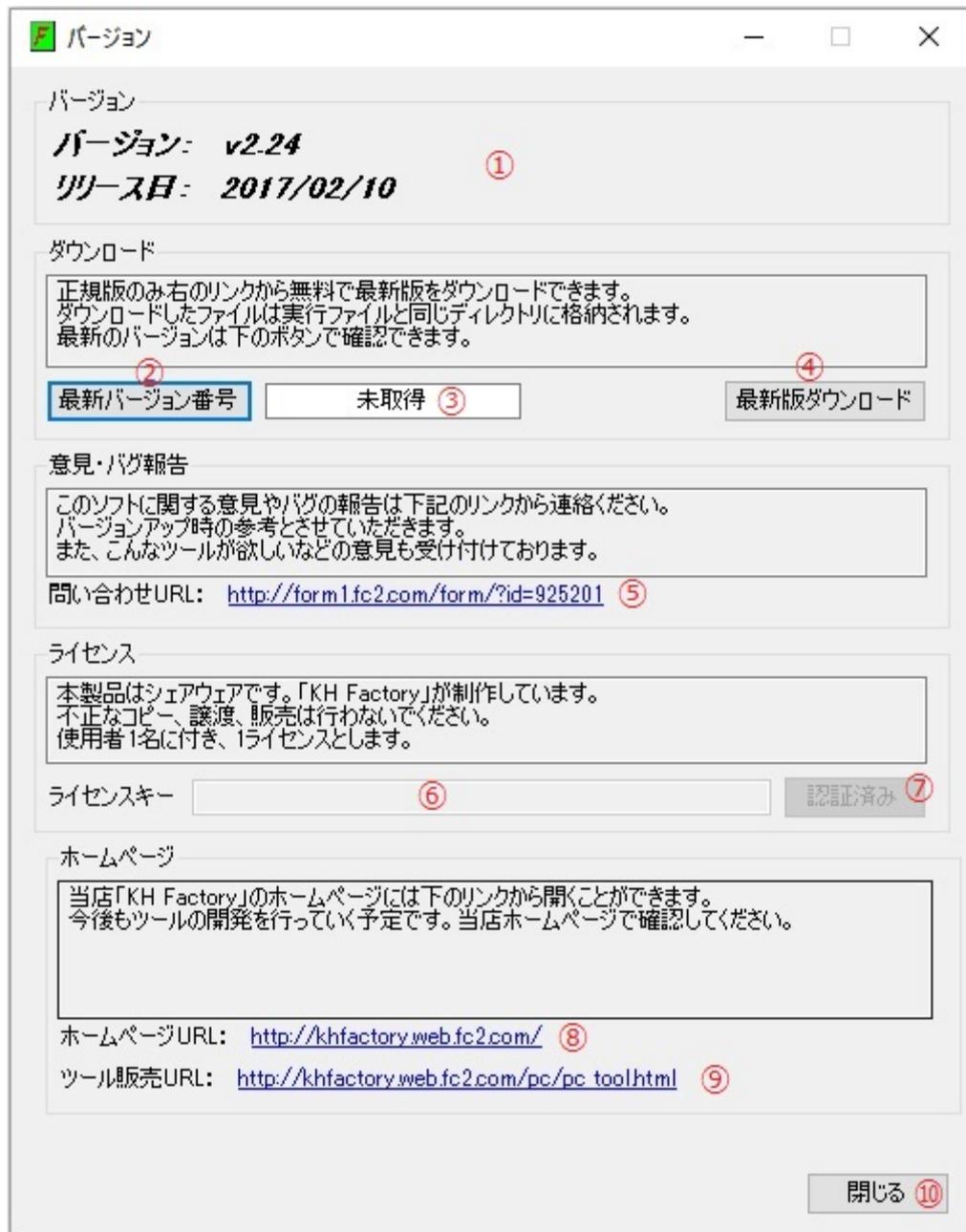


図 33 バージョン画面

- ① 「バージョン」
起動しているツールのバージョン番号とリリース日を表示する。
- ② 「ダウンロード」「最新バージョン番号」ボタン
最新バージョン番号をネット経由で取得し、最新バージョン番号表示欄に表示する。

- ③ 「ダウンロード」最新バージョン番号表示欄
取得したバージョン番号を表示する。

- ④ 「ダウンロード」「最新版ダウンロード」ボタン
最新版をネット経由でダウンロードする。最新版が使用されている場合はダウンロードするか確認される。
実行場所にバージョンを問わず同名 (DirectoryFileSearch_NewVer.zip) の圧縮ファイルが保存されるため、旧バージョンのファイルがある場合は上書きの確認をされる。
最新バージョンでは不具合がある可能性があるため、旧バージョンの保存を推奨。

- ⑤ 「意見・バク報告」問い合わせ URL
「お問い合わせフォーム」のリンク。
※ウェブブラウザは Windows 設定に依存 (注 4)

- ⑥ 「ライセンス」ライセンスキー入力欄
ライセンスキーを入力する。
ライセンスキーの登録が完了すると非活性となる。

- ⑦ 「ライセンス」「登録」ボタン
ライセンスキーを登録する。
ライセンスキーの登録が完了すると「認証済み」となり、非活性となる。

- ⑧ 「ホームページ」ホームページ URL
「KH Factory」のホームページのリンク。
※ウェブブラウザは Windows 設定に依存 (注 4)

- ⑨ 「ホームページ」ツール販売 URL
「KH Factory」のホームページのツール販売へのリンク。
※ウェブブラウザは Windows 設定に依存 (注 4)

- ⑩ 「閉じる」ボタン
バージョン画面を閉じる。

6 注釈説明

本書内で記載した注釈について説明を記載する。

6.1 (注1) パスについて

パスは省略することが可能。省略した場合は、実行パスを指定したことと同義となる。

入力欄（設定画面のファイル指定、ディレクトリ指定など）によっては、再表示を行うタイミング（リストの追加・削除など）でフルパス表示に変更される。

6.2 (注2) 統合ファイルのグループについて

統合ファイルのグループは、追加ファイルが無い場合でも内部的に「追加ファイル」グループを持っているため、グループ全体の順序変更を行った場合、表示上は一回では順序が変更されない場合がある。

6.3 (注3) 文字コードについて

文字コードは、使用する PC の OS に依存する他、各ホームページでも異なり、違う文字コードで表示しようとすると文字化けを起こす。

自動で完全に判別する機能の実現は現状不可能なため、このツールでは各ファイルで選択出来るように対応している。

なお、OS では Windows 系は Shift-JIS、Linux 系は UTF-8、UNIX 系は EUC、MAC OS 系は Unicode が用いられることが多い。

ホームページでは UTF-8 が使用されることが多いが、各サイトにより異なるので注意が必要。ウェブブラウザでソース表示をすると「<meta charset="utf-8">」などと文字コードの記載があるので確認できる。

基本的には、全て default の Shift-JIS で問題ないが、ホームページなどから文字列をコピーする可能性がある場合は、UTF-8 を推奨する。

V2.26 から自動判別を選択できるように対応している。上述のとおり、自動で完全に判別は出来ないため注意。

なお、生成時における自動判別 (V2.27 から AUTO) は、元ファイルがある場合は、元ファイルのエンコードを取得するが、元ファイルがない場合は Default (Shift-JIS) となる。

V2.27 から、ファイル出力系（履歴や結果の出力）のエンコード設定もでき、自動判別 (AUTO) にした場合は、Default (Shift-JIS) で出力される。

6.4 (注4) 実行・表示の Windows 任せについて

実行や表示は Process.Start 処理に任せている。

その為、ユーザがファイルの関連付けなどを変更すると起動されるツールも異なる。

一般的に起動されるツールは以下の通り。

表 12 起動ツール

実行対象	起動ツール
ディレクトリ	エクスプローラー
テキストファイル	メモ帳などのユーザが定義したエディタ

動画ファイル	Media Player などのユーザが定義した動画再生ソフト
URL	インターネットエクスプローラーや Edge などのユーザが定義したウェブブラウザ
メールアドレス	Outlook などのユーザが定義したメーラー
etc.	

7 あとがき

7.1 バグを発見した場合

基本動作の確認はしておりますが、潜伏バグが残っている場合やデグレード（バク対応により既存部分が壊れる）が発生する場合があります。

ご連絡いただければ順次対応しバージョンアップしますので、下記お問い合わせフォームにてご連絡をお願いいたします。

7.2 ご意見・ご要望

使い勝手を良くするためのバージョンアップを重ねております。

このツールに対するご意見、ご要望がありましたらお問い合わせフォームよりご連絡をお願いいたします。

また、「こんなツールがあると便利」というような意見もありましたらご連絡下さい。

7.3 各種 URL

ホームページに、他のツールも載せております。ご参考いただけると幸いです。

ホームページ：<http://khfactory.web.fc2.com/>

ツール販売：http://khfactory.web.fc2.com/pc/pc_tool.html

お問い合わせフォーム；<http://form1.fc2.com/form/?id=925201>

※バージョン画面にも同リンクが張られております。

マニュアルをご覧くださいありがとうございます。

8 更新履歴

日付	バージョン	説明
2017/01/30	2.23	マニュアル初版作成
2017/02/13	2.24	ライセンス認証追加対応
2019/02/04	2.25	試供品モードでウェイトを削除し、回数制限に変更。 ファイル統合の設定保存を追加。
2019/03/12	2.26	ファイルのエンコードの自動判別機能を追加 (6.3 注3 の記述のみ追記)
2019/03/21	2.27	履歴や結果の出力ファイルのエンコードの指定対応。 ファイル指定、ディレクトリ指定のリストでコンテキストメニューを追加。
2020/01/14	2.28	試供品もバージョン画面からダウンロード可能に変更 ダウンロードファイル名を New 固定からバージョン番号を変更
2020/02/10	3.00 3.01	圧縮・解凍モード関連の追加 ファイル一覧生成画面の追加
2020/03/23	3.02	圧縮・解凍ボタンへの D&D で圧縮・解凍を実行 .rar 形式の圧縮 (Rar.exe を使用) に対応 設定ファイルのバックアップに対応